

安全・健康・コミュニティに関する調査
報告書

令和6年1月

厚木市

I 調査の概要

1. 調査目的	3
2. 調査対象と調査方法	3
3. 配布・回収結果	3
4. 調査項目	3
5. 集計方法について	4
6. 回答者（世帯）の基本属性	4
7. 回答者（個人）の基本属性	5

II 調査結果の分析

1. 自宅外での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況	9
(2) 過去1年間に自宅外でけがをした原因	10
(3) 過去1年間に自宅外でけがをした場所	12

2. 自宅での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況	13
(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所	14

3. 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

(1) 自宅外でのけがの状況	16
(2) 自宅でのけがの状況	18

4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

(1) 市の治安の変化に対する意識	20
(2) 治安の変化を感じる地域	21
(3) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度	23
(4) 犯罪等被害にあう不安を感じる状況	30
(5) 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況	32
(6) 犯罪防止のために重要と考える対策	34
(7) 青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験	36
(8) 青色回転灯搭載車両による巡回の安心感	37

5. 自殺予防について

(1) ゲートキーパーの認知状況	38
(2) ゲートキーパー養成講座の受講経験	39

目 次

6. 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

(1) 自転車の利用状況	40
(2) 自転車の利用目的	41
(3) 自転車利用時のルールの認知状況	42
(4) 自転車利用時に感じる不安や危険	44
(5) 自転車利用時のけがや事故の経験	46
(6) 医療機関での治療状況	47
(7) 自転車利用時のけがや事故の状況と原因	48
(8) 自転車利用時にけがをした体の箇所	51
(9) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること	53
(10) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと	55

7. 災害についての意識

(1) 不安を感じる自然災害	56
(2) 重要だと思う災害時の対策や備え	58
(3) 実践している災害対策	60
(4) 飲料水・食料の備蓄量	63
(5) 市が発信している災害情報の認知状況	64

8. 「セーフコミュニティ」の認知状況

(1) 市のセーフコミュニティの取組の認知状況	65
(2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識	66

9. 市民生活の安心・安全に関する意識

(1) 居住地域の安心・安全に関する意識	67
(2) 近所付き合いの状況	69

Ⅲ 調査票と集計結果

世帯票	75
個人票	77

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

市民の安全・健康・コミュニティに対する考えやその現状を調査するとともに、集計、分析を行い、今後のセーフコミュニティ活動等の資料とすることを目的とする。

2. 調査対象と調査方法

令和5年7月18日現在、厚木市に住民登録している世帯主5,500人を無作為抽出（地域・年齢バランスを考慮）し、世帯主及び同居家族（世帯票1通＋個人票3通同封）を対象とする。（配布・回収ともに郵送）

3. 配布・回収結果

配布対象 (調査実施期間)	配布数	配布数	有効回収数（有効回収率）
厚木市内の世帯 (令和5年8月4日～28日)	世帯票	5,500世帯	1,810世帯（32.9%）
	個人票	16,500人	3,472票

4. 調査項目

【世帯票】（世帯の代表者が記入）

- (1) 世帯属性（居住地区、居住年数、家族人数・構成、住居の種類）
- (2) 「セーフコミュニティ」について（認知、推進の必要性）
- (3) 厚木市の生活（安心・安全度、近所付き合いの状況）
- (4) 子どもの外傷実態（子どもの年齢、自宅外・自宅における外傷経験、外傷状況、医療機関への受診状況）

【個人票】（15歳以上の世帯構成員全員が回答）

- (1) 自宅外における過去1年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、外傷の原因、外傷の場所）
- (2) 自宅における過去1年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、一番大きな外傷の原因、一番大きな外傷の場所）
- (3) 体感不安（1年前と比べた体感治安、事例別の犯罪被害への不安、不安を感じる地域の状況、犯罪被害対策の実施状況、犯罪抑止対策の重要度、青色回転灯搭載車両を見た経験・安心感）
- (4) 自殺予防（ゲートキーパーの認知状況、ゲートキーパー養成講座の受講経験）
- (5) 自転車利用（自転車の利用状況・目的、自転車利用時のルール認知状況、自転車利用時の不安や危険、過去5年以内のけがや事故の経験・状況、不安や危険を減少させるための取組・改善策）
- (6) 災害（自然災害不安、重要な災害時の対策や備え、災害対策の実施状況、非常用備蓄品の状況、災害情報の認知状況）
- (7) 基本属性（性別、年齢）

5. 集計方法について

- (1) 集計結果を表すグラフには、回答者数（n）も併せて表記する。
- (2) 無回答や不明な回答は除く。このため、項目により回答者数（n）は異なる。
- (3) 複数回答の場合の回答者数（n）は、設問に回答した人数を表記する。
- (4) 集計表およびグラフ中の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%とならないことがある。

6. 回答者（世帯）の基本属性

(1) 居住地区

	n	構成比 (%)
厚木北	209	11.9
厚木南	197	11.3
依知北	106	6.1
依知南	78	4.5
睦合北	69	3.9
睦合南	124	7.1
睦合西	52	3.0
荻野	190	10.9
小鮎	103	5.9
南毛利	314	17.9
南毛利南	63	3.6
玉川	37	2.1
森の里	74	4.2
相川	83	4.7
緑ヶ丘	52	3.0
合計	1,751	100.0

(2) 居住年数

	n	構成比 (%)
1年未満	65	3.6
1年以上5年未満	218	12.1
5年以上10年未満	170	9.5
10年以上15年未満	166	9.2
15年以上20年未満	165	9.2
20年以上	1,012	56.3
合計	1,796	100.0

(3) 家族構成

	n	構成比 (%)
1人	420	23.3
2人	723	40.2
3人	361	20.1
4人	199	11.1
5人	69	3.8
6人	20	1.1
7人	5	0.3
8人	1	0.1
9人	1	0.1
合計	1,799	100.0

延べ人数 4,262人

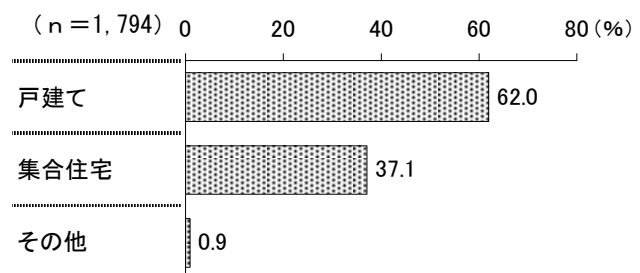
(4) 家族のうち、けがをした人数

	n	構成比 (%)
0人	1,291	77.2
1人	287	17.2
2人	72	4.3
3人	19	1.1
4人	3	0.2
5人	1	0.1
合計	1,673	100.0

延べ人数 505人

(5) 住居の種類

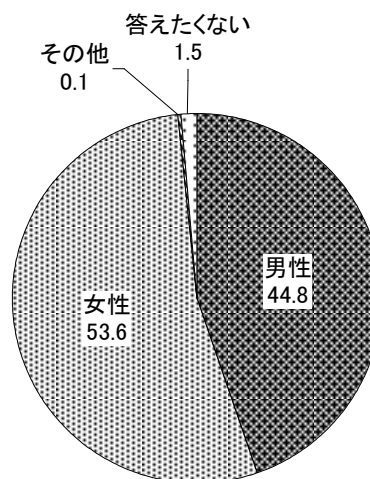
	n	構成比 (%)
戸建て	1,113	62.0
集合住宅	665	37.1
その他	16	0.9
合計	1,794	100.0



7. 回答者（個人）の基本属性

(1) 性別

	n	構成比 (%)
男性	1,489	44.8
女性	1,780	53.6
その他	2	0.1
答えたくない	51	1.5
合計	3,322	100.0



(n=3,322)

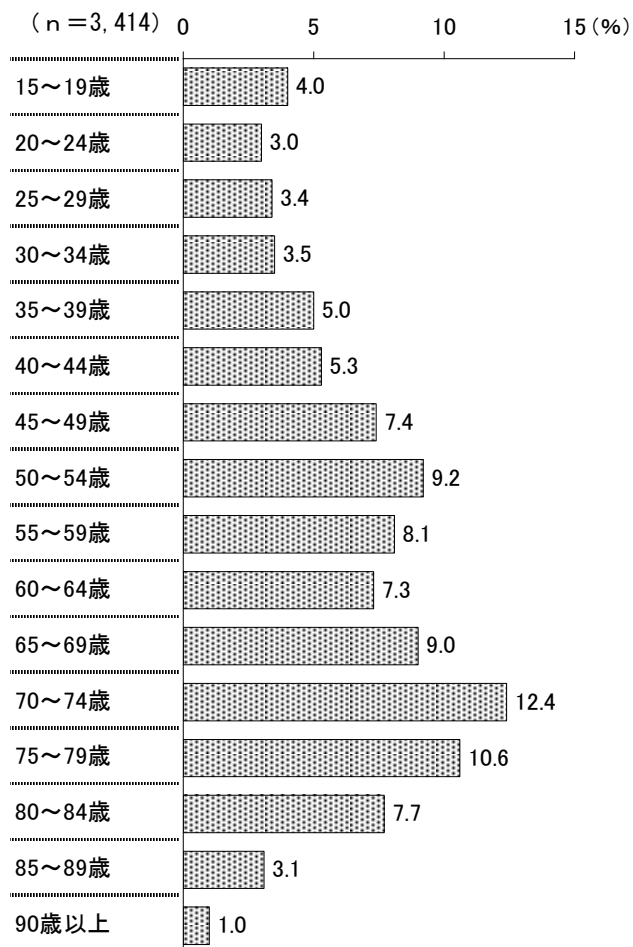
(%)

(2) 性別（居住地区別）

	男性		女性		その他		答えたくない	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
厚木北	167	46.8	185	51.8	-	-	5	1.4
厚木南	143	42.1	189	55.6	-	-	8	2.4
依知北	86	45.5	99	52.4	-	-	4	2.1
依知南	60	43.5	76	55.1	-	-	2	1.4
睦合北	55	47.0	59	50.4	-	-	3	2.6
睦合南	99	45.4	117	53.7	-	-	2	0.9
睦合西	47	47.0	52	52.0	-	-	1	1.0
荻野	169	48.7	176	50.7	-	-	2	0.6
小鮎	79	42.7	100	54.1	1	0.5	5	2.7
南毛利	265	44.6	318	53.5	1	0.2	10	1.7
南毛利南	44	41.5	62	58.5	-	-	-	-
玉川	32	43.8	41	56.2	-	-	-	-
森の里	69	50.4	67	48.9	-	-	1	0.7
相川	61	44.2	77	55.8	-	-	-	-
緑ヶ丘	33	42.3	43	55.1	-	-	2	2.6
合計	1,489	44.8	1,780	53.6	2	0.1	51	1.5

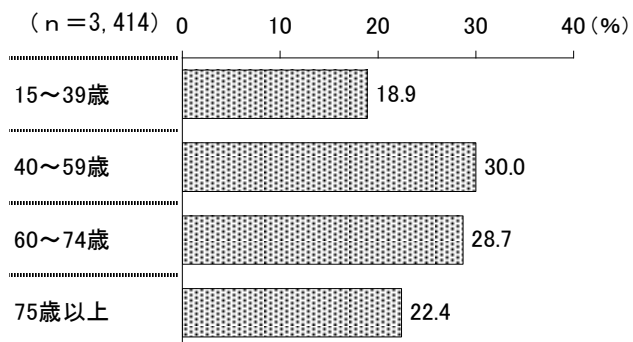
(3) 年齢

	n	構成比 (%)
15～19歳	135	4.0
20～24歳	103	3.0
25～29歳	117	3.4
30～34歳	120	3.5
35～39歳	171	5.0
40～44歳	180	5.3
45～49歳	252	7.4
50～54歳	315	9.2
55～59歳	277	8.1
60～64歳	250	7.3
65～69歳	307	9.0
70～74歳	423	12.4
75～79歳	361	10.6
80～84歳	262	7.7
85～89歳	107	3.1
90歳以上	34	1.0
合計	3,414	100.0



<年齢階層>

	n	構成比 (%)
15～39歳	646	18.9
40～59歳	1,024	30.0
60～74歳	980	28.7
75歳以上	764	22.4
合計	3,414	100.0



II 調査結果の分析

II 調査結果の分析

1. 自宅外での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況

◇過去1年間に自宅外でけがをした人は13.7%、このうち半数以上が医療機関を利用した

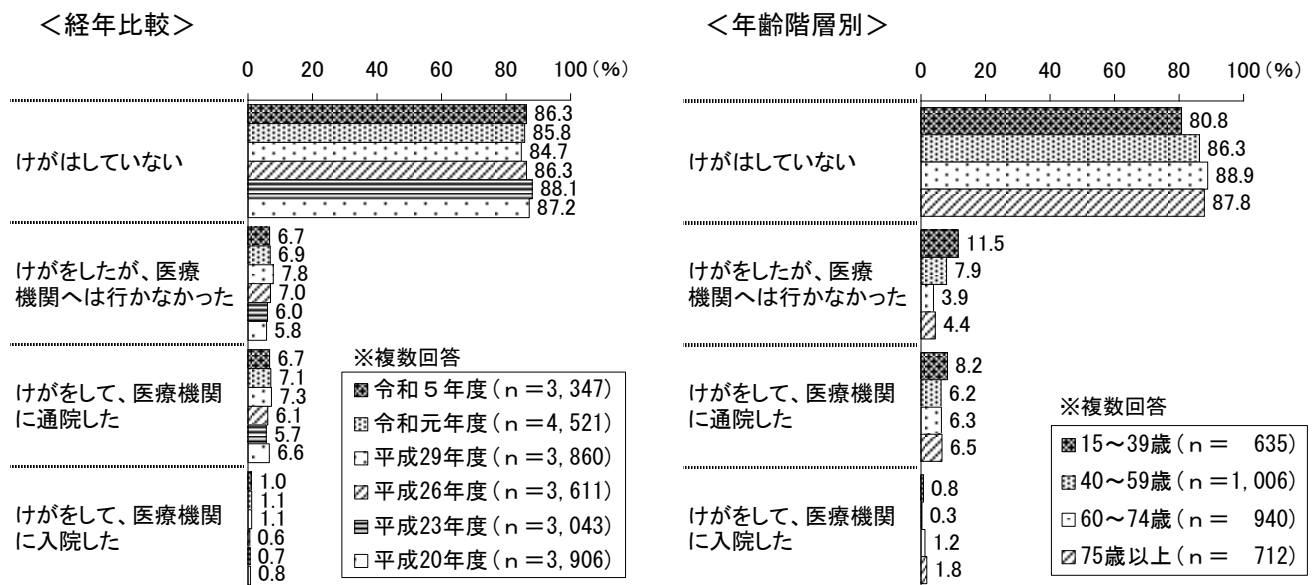
過去1年間に自宅外でけがをした人は13.7%となっており、このうち医療機関を利用した人は半数を超える7.7%となっている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、平成29年度調査以降減少傾向にある。

◇過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で20.5%と最も高い

年齢階層別でみると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で20.5%と最も高く、若年層で高くなっている。

図表1-1 過去1年間の自宅外でのけがの状況（経年比較、年齢階層別）



(2) 過去1年間に自宅外でけがをした原因

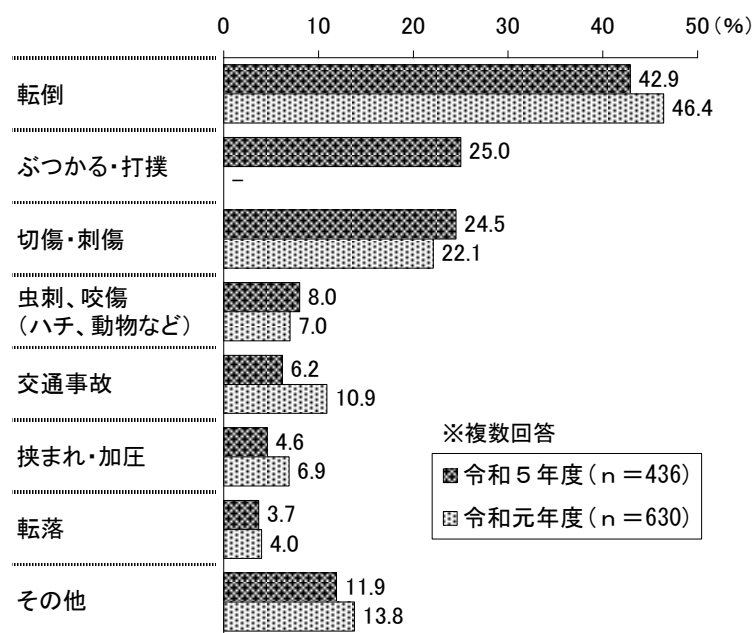
◇過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が42.9%で最も高い

過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が42.9%で最も高く、次いで「ぶつかる・打撲」が25.0%、「切傷・刺傷」が24.5%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「転倒」は3.5ポイント減少しているものの、引き続き1位となっている。また、「交通事故」は4.7ポイント減少している。

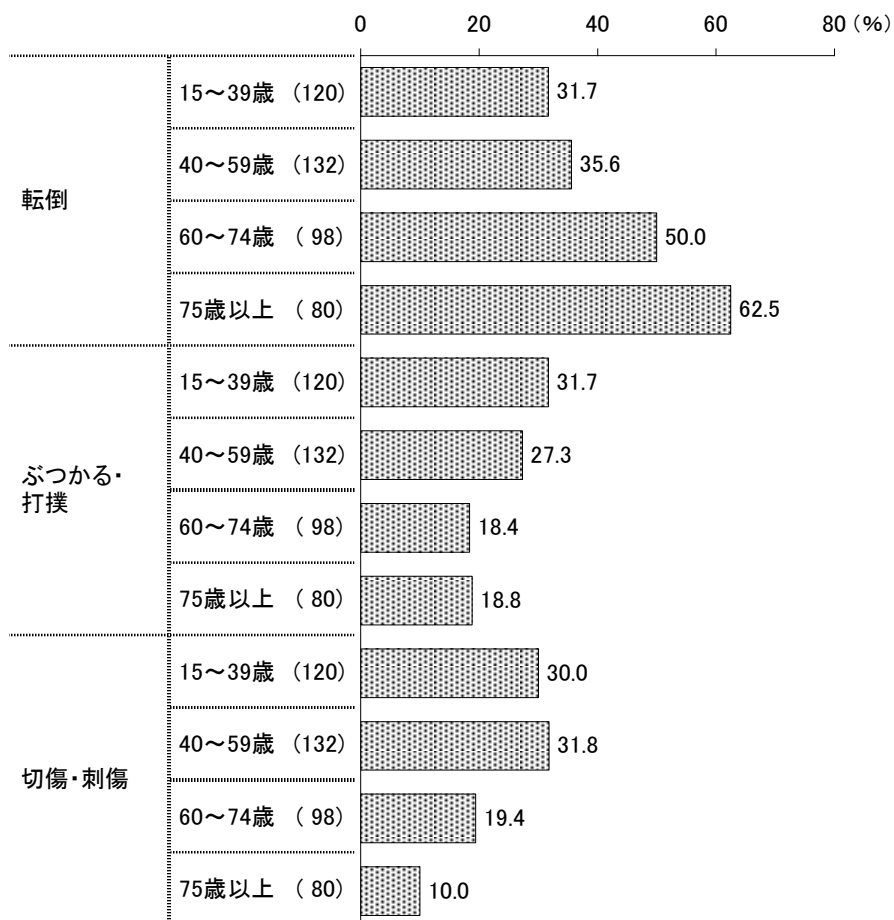
上位3位を年齢階層別でみると、「転倒」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。一方、「ぶつかる・打撲」と「切傷・刺傷」は若年層で割合が高くなっている。

図表1-2 過去1年間に自宅外でけがをした原因（経年比較）



※「ぶつかる・打撲」は、令和5年度から追加された選択肢

図表 1-3 過去1年間に自宅外でけがをした原因（年齢階層別）—上位3位



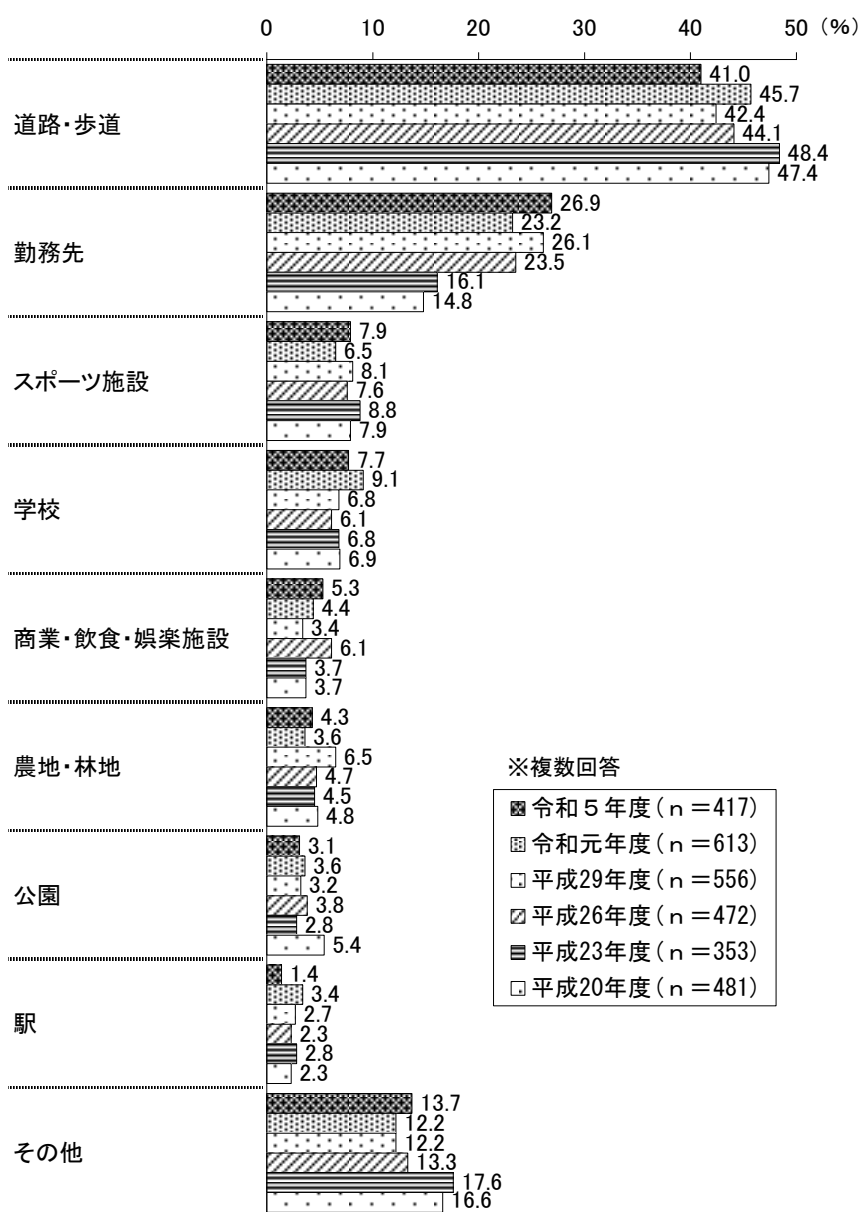
(3) 過去1年間に自宅外でけがをした場所

◇過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が41.0%で最も高い

過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が41.0%で最も高く、次いで「勤務先」が26.9%、「スポーツ施設」が7.9%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、上位2位は同様の項目となっている。また、「勤務先」は令和元年度調査より3.7ポイント増加し、「道路・歩道」は令和元年度調査より4.7ポイント減少している。

図表1-4 過去1年間に自宅外でけがをした場所（経年比較）



2. 自宅での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況

◇過去1年間に自宅でけがをした人は13.5%、このうち5.2%が医療機関を利用した

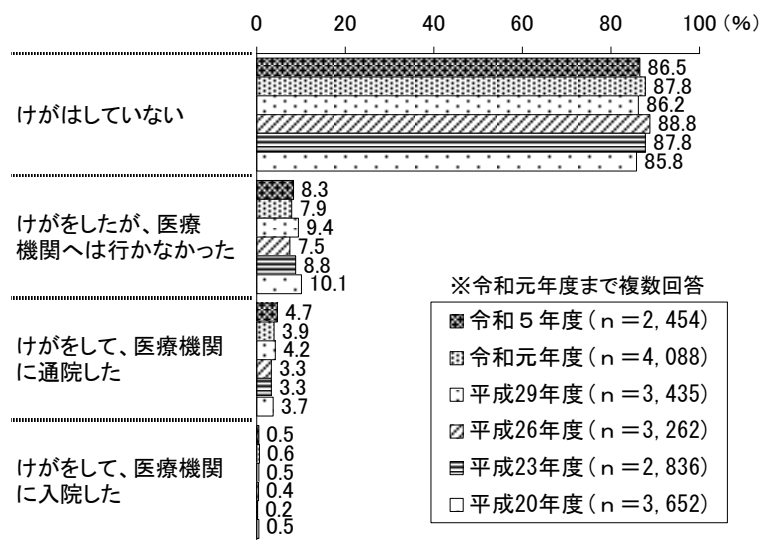
過去1年間に自宅でけがをした人は13.5%となっており、このうち医療機関を利用した人は5.2%で3分の1を超えている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅でけがをした人は、令和元年度調査から大きな変化はみられない。

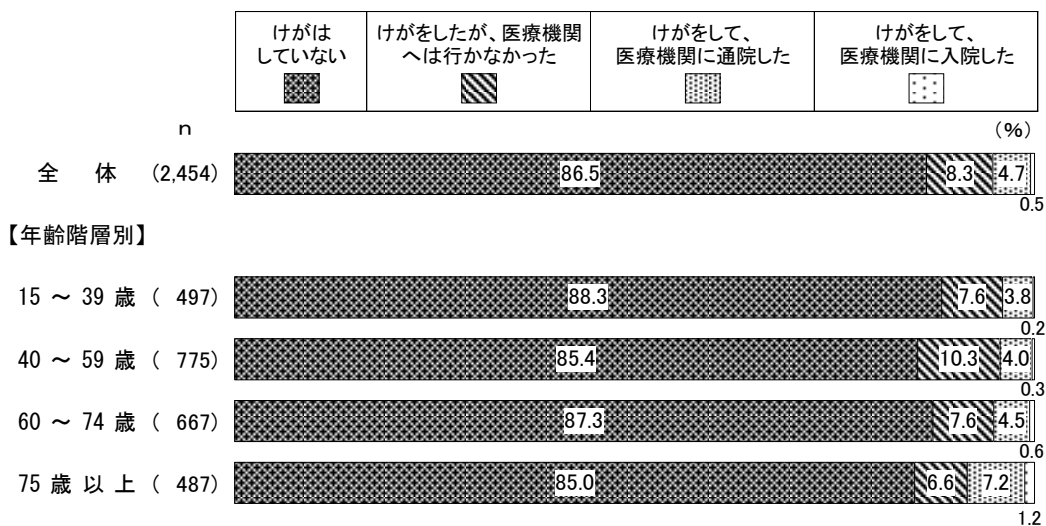
◇過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者が15.0%と最も高い

年齢階層別でみると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で15.0%と最も高く、次いで40～59歳で14.6%となっている。

図表2-1 過去1年間の自宅でのけがの状況（経年比較）



図表2-2 過去1年間の自宅でのけがの状況（年齢階層別）



(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所

◇過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が29.6%で最も高い

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が29.6%で最も高く、次いで「転倒」が25.2%、「ぶつかる・打撲」が20.6%となっている。

過年度調査と比較すると、「切傷・刺傷」は令和元年度調査より8.9ポイント、「火傷」は令和元年度調査より3.5ポイント、それぞれ減少している。

上位3位を年齢階層別で見ると、「切傷・刺傷」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。一方、「転倒」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

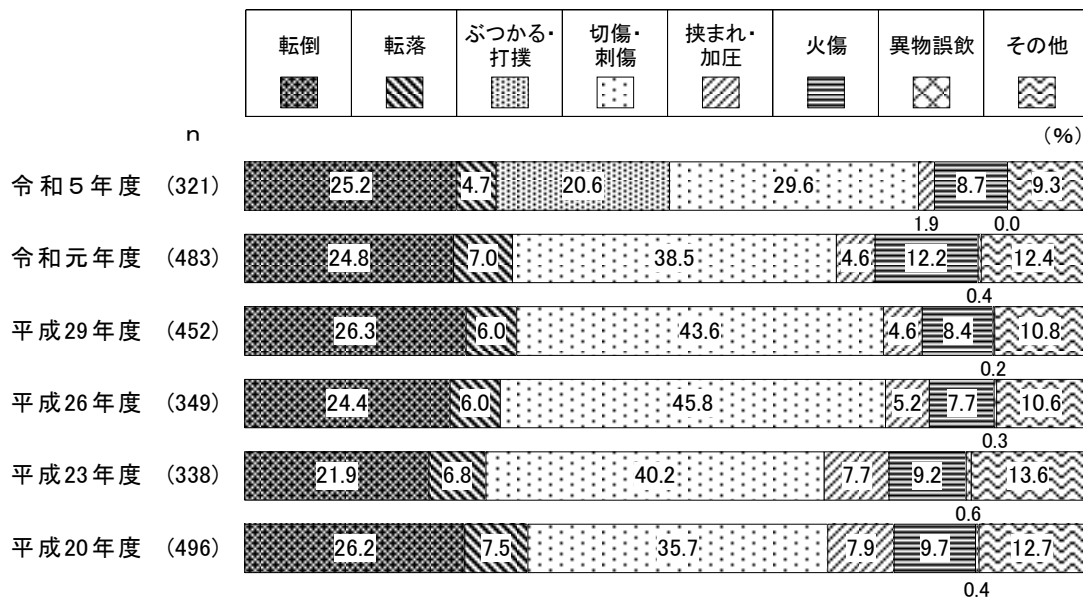
◇過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が31.0%で最も高い

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が31.0%で最も高く、次いで「居室」が27.6%、「庭」が14.8%となっている。

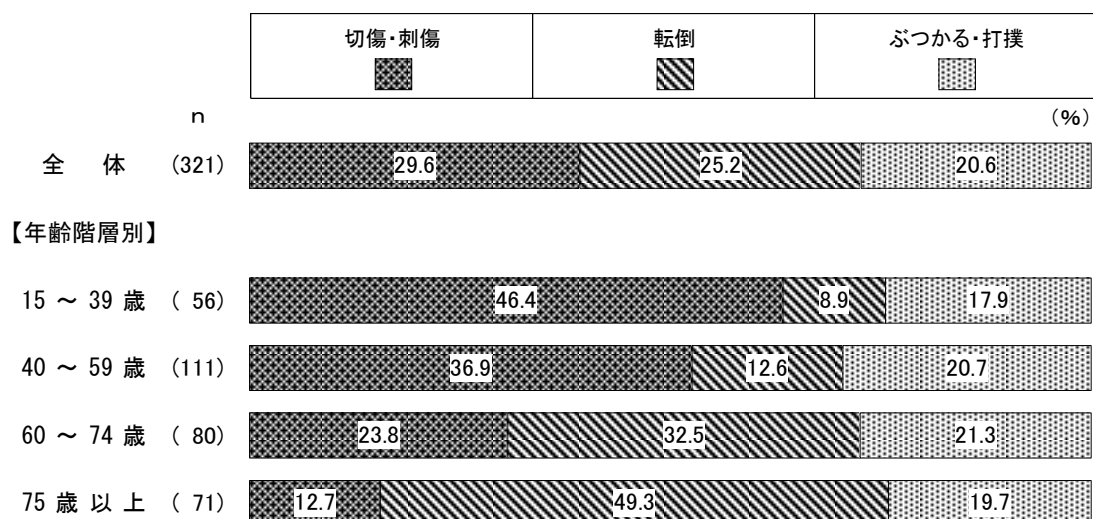
過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、上位4位は同様の順位となっている。また、「居室」は令和元年度調査より3.5ポイント増加し、「台所」は令和元年度調査より3.7ポイント減少している。

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所とけがの原因の関係は、「切傷・刺傷」では「台所」が最も多く、「転倒」は「居室」が最も多い。

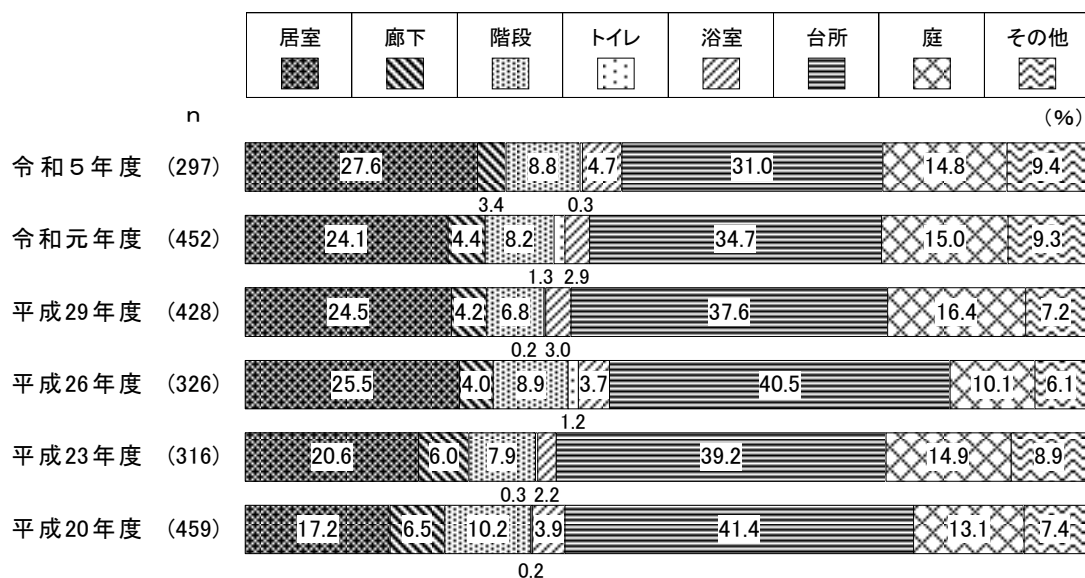
図表2-3 自宅でのけがの原因（経年比較）



図表 2-4 自宅でのけがの原因（年齢階層別）－上位3位



図表 2-5 自宅でけがをした場所（経年比較）



図表 2-6 けがをした場所とけがの原因の関係－上位3位

項目 順位	転倒	転落	ぶつかる・ 打撲	切傷・刺傷	挟まれ・ 加圧	火傷	異物誤飲	その他
1位	居室 20	階段 7	居室 24	台所 57	居室 3	台所 19	/	居室 11
2位	庭 19	台所 3	階段 8	居室 14	その他 2	居室 5		その他 7
3位	階段／浴室 9	居室／その他 2	その他 7	庭 13	台所 1	庭 3		台所／庭 2

3. 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

(1) 自宅外でのけがの状況

◇15歳未満の子どもがいる世帯の48.8%が、自宅外で何らかのけがをしている

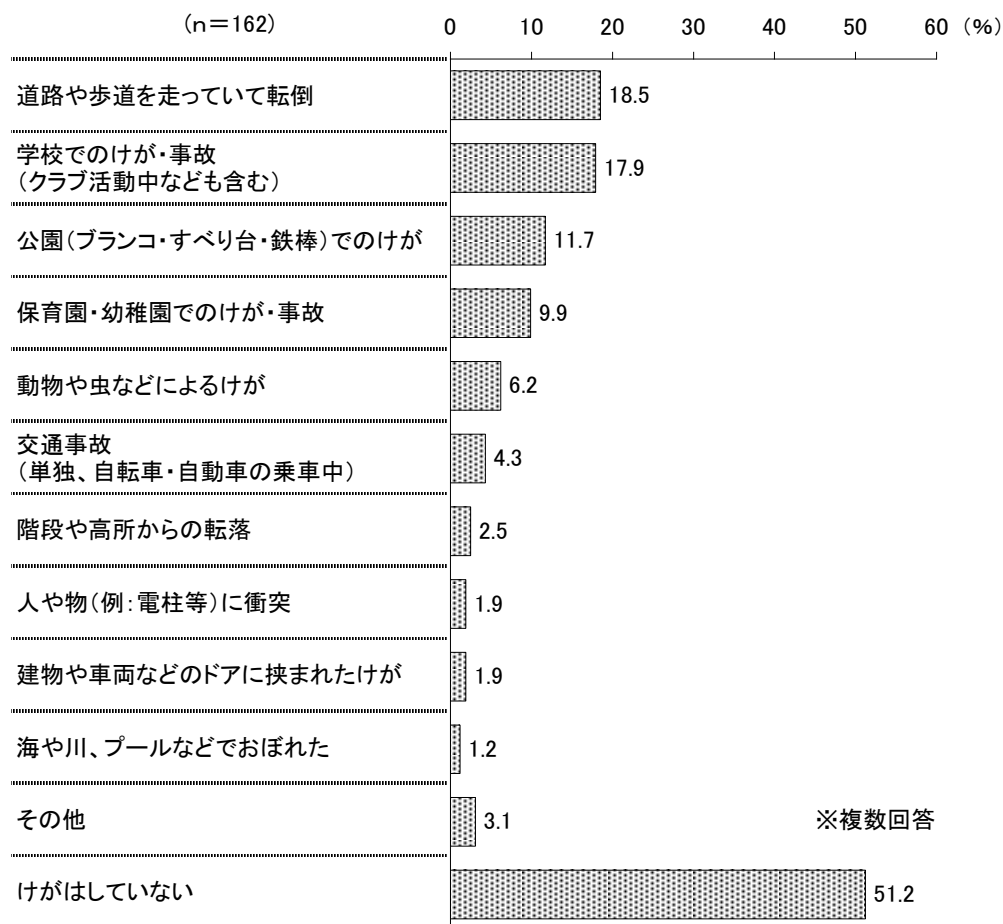
◇けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が18.5%で最も高い

15歳未満の子どもがいる世帯の48.8%が自宅外で何らかのけがをしており、自宅外でのけがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が18.5%で最も高く、次いで「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」が17.9%、「公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが」が11.7%となっている。

◇「道路や歩道を走っていて転倒」は子どもの年齢が下がるほど割合が高い

子どもの年齢別でみると、自宅外でのけがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が子どもの年齢が下がるほど割合が高くなっている。また、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」は6～11歳で31.5%と最も高くなっている。

図表3-1 自宅外でのけがの状況



図表3-2 自宅外でのけがの状況（子どもの年齢別）

		※複数回答 (%)												
		n	道路や歩道を走っていて転倒	学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	保育園・幼稚園でのけが・事故	動物や虫などによるけが	交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	階段や高所からの転落	人や物（例：電柱等）に衝突	建物や車両などのドアに挟まれたけが	海や川、プールなどでおぼれた	その他	けがはしていない
全 体		162	18.5	17.9	11.7	9.9	6.2	4.3	2.5	1.9	1.9	1.2	3.1	51.2
子 ど も の 年 齢 別	0～2歳	38	26.3	5.3	10.5	7.9	2.6	-	5.3	2.6	2.6	-	-	63.2
	3～5歳	32	25.0	6.3	6.3	28.1	6.3	-	-	3.1	3.1	-	9.4	43.8
	6～11歳	54	14.8	31.5	16.7	5.6	11.1	5.6	1.9	1.9	1.9	3.7	3.7	44.4
	12～14歳	38	10.5	21.1	10.5	2.6	2.6	10.5	2.6	-	-	-	-	55.3

(2) 自宅でのけがの状況

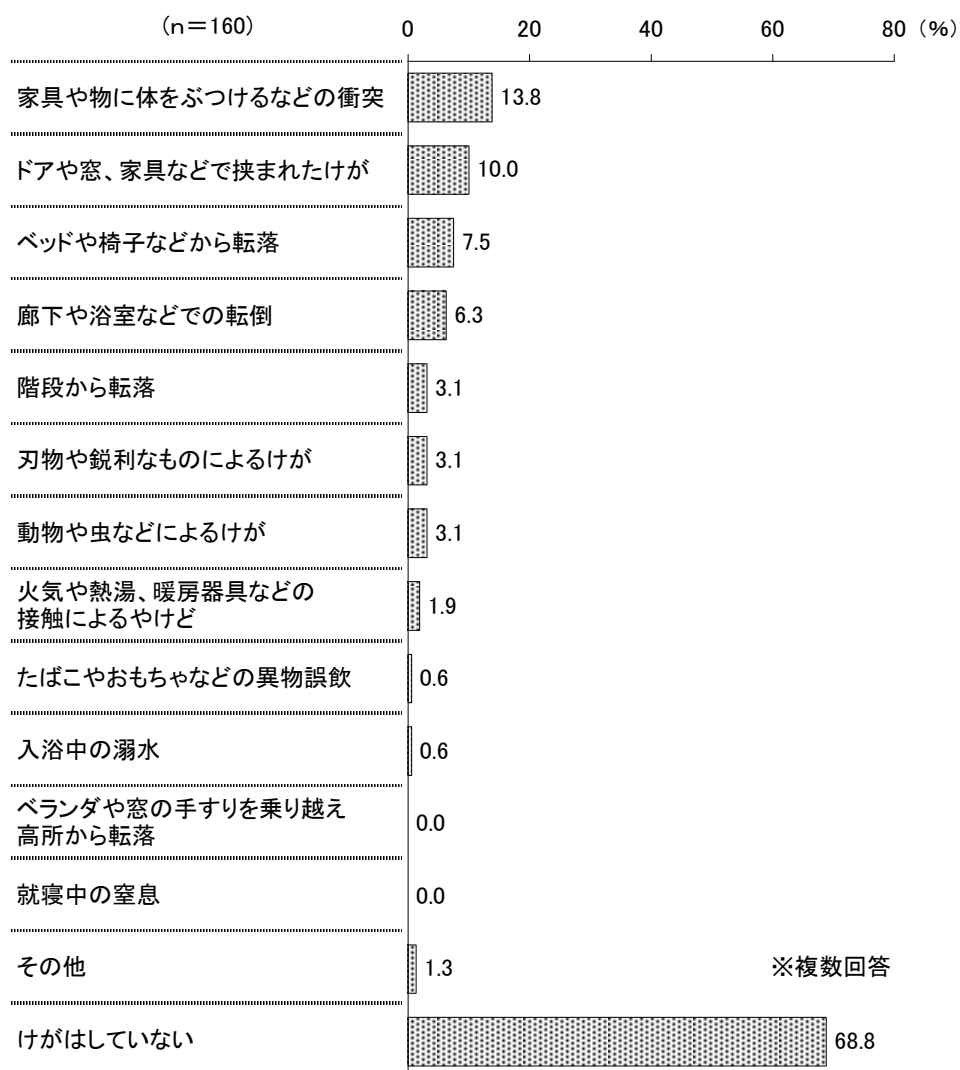
◇ 15歳未満の子どもがいる世帯の31.2%が、自宅で何らかのけがをしている

◇ けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が13.8%で最も高い

15歳未満の子どもがいる世帯の31.2%が自宅で何らかのけがをしており、自宅でのけがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が13.8%で最も高く、次いで「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」が10.0%、「ベッドや椅子などから転落」が7.5%となっている。

◇ 「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」は子どもの年齢が下がるほど割合が高い

図表3-3 自宅でのけがの状況



図表 3-4 自宅でのけがの状況（子どもの年齢別）

		※複数回答 (%)																
		n	家具や物に体をぶつけるなどの衝突	ドアや窓、家具などで挟まれたけが	ベッドや椅子などから転落	廊下や浴室などでの転倒	階段から転落	刃物や鋭利なものによるけが	動物や虫などによるけが	火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	誤飲	たばこやおもちゃなどの異物	入浴中の溺水	越え高所から転落	ベランダや窓の手すりを乗り越え	就寝中の窒息	その他	けがはしていない
全 体		160	13.8	10.0	7.5	6.3	3.1	3.1	3.1	1.9	0.6	0.6	0.6	-	-	1.3	68.8	
子 ど も の 年 齢 別	0 ~ 2 歳	40	17.5	15.0	12.5	7.5	5.0	2.5	-	5.0	2.5	2.5	2.5	-	-	-	60.0	
	3 ~ 5 歳	34	17.6	11.8	14.7	11.8	2.9	5.9	2.9	-	-	-	-	-	-	2.9	61.8	
	6 ~ 11 歳	51	15.7	7.8	3.9	5.9	3.9	2.0	5.9	2.0	-	-	-	-	-	-	68.6	
	12 ~ 14 歳	35	2.9	5.7	-	-	-	2.9	2.9	-	-	-	-	-	-	2.9	85.7	

4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

（1）市の治安の変化に対する意識

◇1年前と比べた市の治安は、『良くなった（計）』が54.7%

1年前と比べた市の治安は、「良くなった」（6.0%）と「どちらかというと良くなった」（48.7%）を合わせた『良くなった（計）』は54.7%となっている。一方、「どちらかというと悪くなった」（40.0%）と「悪くなった」（5.3%）を合わせた『悪くなった（計）』は45.3%となっている。

図表4-1 市の治安の変化に対する意識



(2) 治安の変化を感じる地域

◇治安の変化を感じる地域は、「本厚木駅周辺」が62.0%で最も高い

◇「本厚木駅周辺」の治安は、『悪くなった(計)』が『良くなった(計)』を17.9ポイント上回る

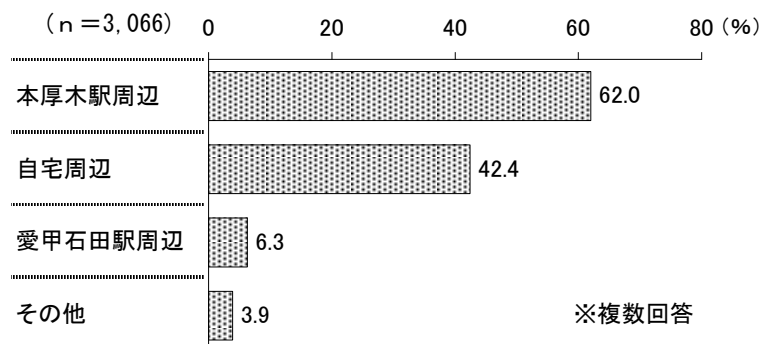
治安の変化を感じる地域は、「本厚木駅周辺」が62.0%で最も高く、次いで「自宅周辺」が42.4%、「愛甲石田駅周辺」が6.3%となっている。

市の治安の変化に対する意識別でみると、「本厚木駅周辺」では『悪くなった(計)』(71.9%)が『良くなった(計)』(54.0%)を17.9ポイント上回っている。一方、「自宅周辺」では『良くなった(計)』(47.0%)が『悪くなった(計)』(36.8%)を10.2ポイント、「愛甲石田駅周辺」では『良くなった(計)』(8.6%)が『悪くなった(計)』(3.6%)を5.0ポイント、それぞれ上回っている。

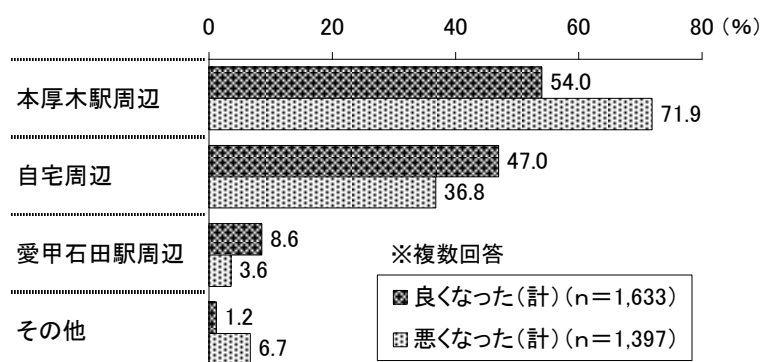
◇「自宅周辺」の治安について、居住地区別でみると、『良くなった(計)』は相川地区で82.6%と最も高く、『悪くなった(計)』は睦合北地区で60.0%と最も高い

「自宅周辺」で治安の変化を感じる方の、市の治安の変化に対する意識を居住地区別でみると、治安が『良くなった(計)』は相川地区で82.6%と最も高く、次いで小鮎地区で74.7%となっている。一方、治安が『悪くなった(計)』は睦合北地区で60.0%と最も高く、次いで依知南地区で52.8%となっている。

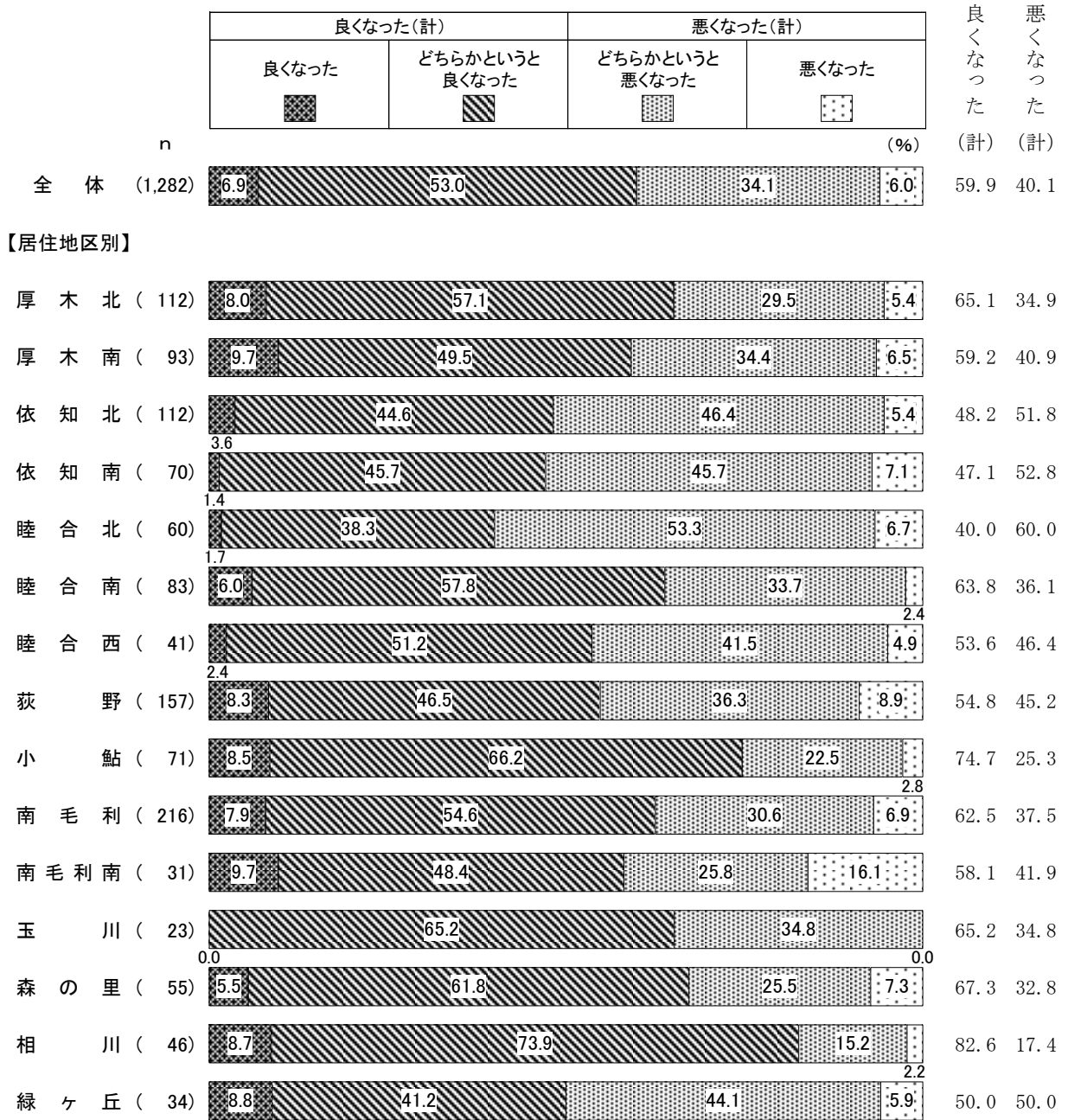
図表4-2 治安の変化を感じる地域



図表4-3 治安の変化を感じる地域 (市の治安の変化に対する意識別)



図表4-4 市の治安の変化に対する意識（居住地区別） 【「自宅周辺」で治安の変化を感じると答えた方】



(3) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

◇犯罪等被害や不安を感じる事項で、「かなり不安」と答えた人の割合は、「インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」で19.8%と最も高い

犯罪等被害や不安を感じる事項で、「かなり不安」と答えた人の割合は、「インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」で19.8%と最も高く、次いで「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」で17.2%となっている。

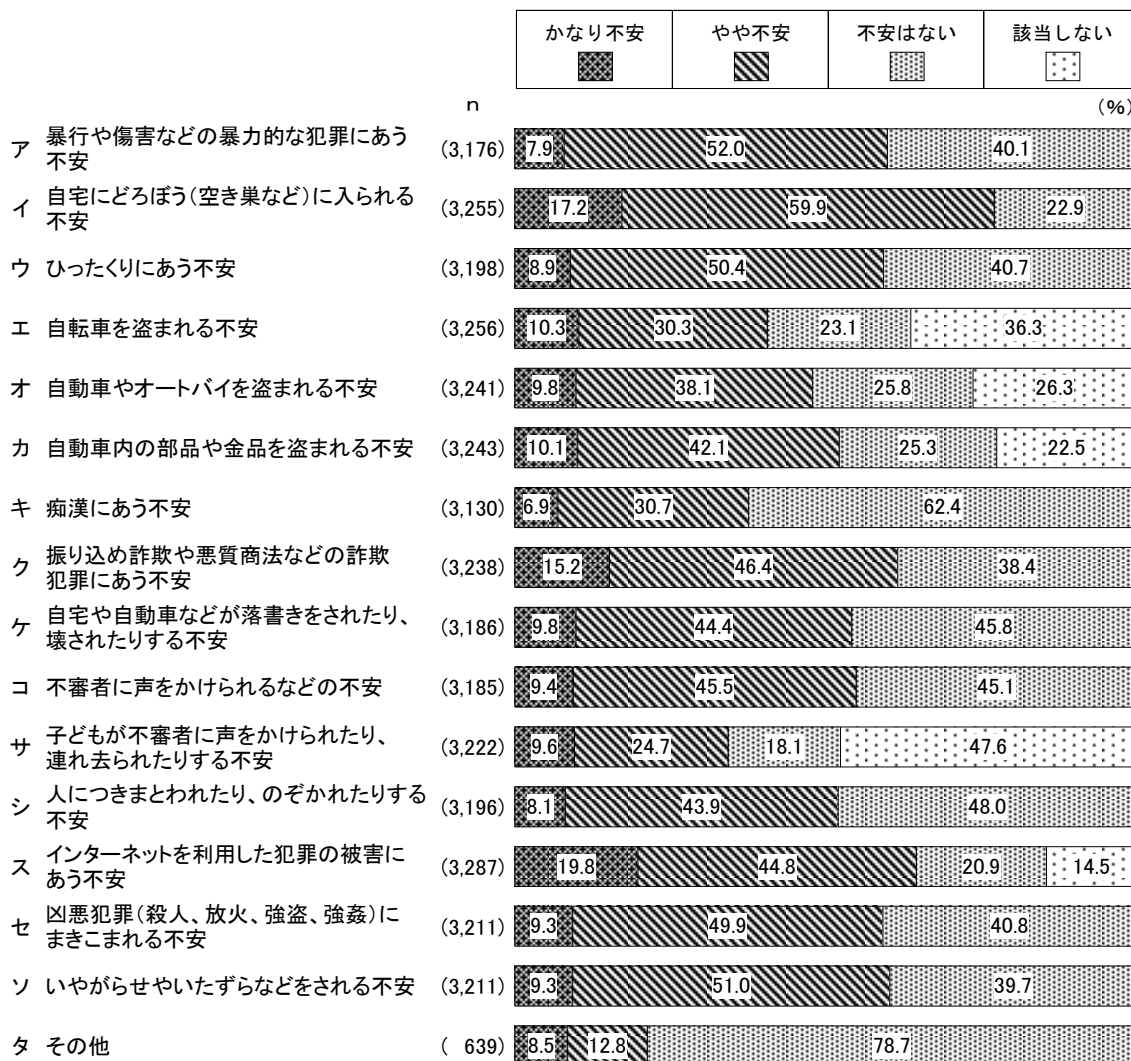
◇性別では、「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「不審者に声をかけられるなどの不安」で7.2ポイント、「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」で7.1ポイント、それぞれ高い

性別でみると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「不審者に声をかけられるなどの不安」で7.2ポイント、「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」で7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

◇居住地区別では、「インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」は森の里地区で27.9%と最も高い

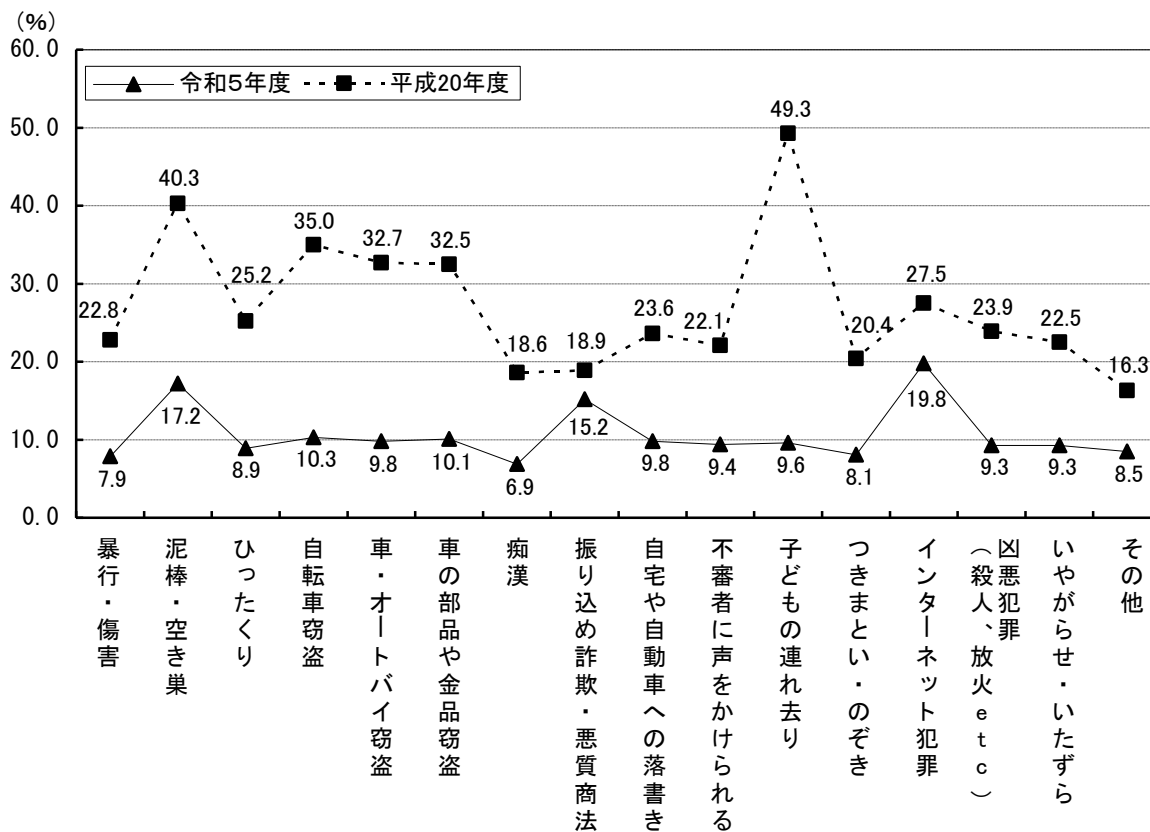
居住地区別でみると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「かなり不安」と答えた人の割合は、「インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」が森の里地区で27.9%と最も高くなっている。「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」は睦合北地区で25.7%と最も高くなっている。

図表4-5 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度



※「該当しない」の選択肢は、「エ 自転車を盗まれる不安」、「オ 自動車やオートバイを盗まれる不安」、「カ 自動車内の部品や金品を盗まれる不安」、「サ 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」、「ス インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」のみにある選択肢

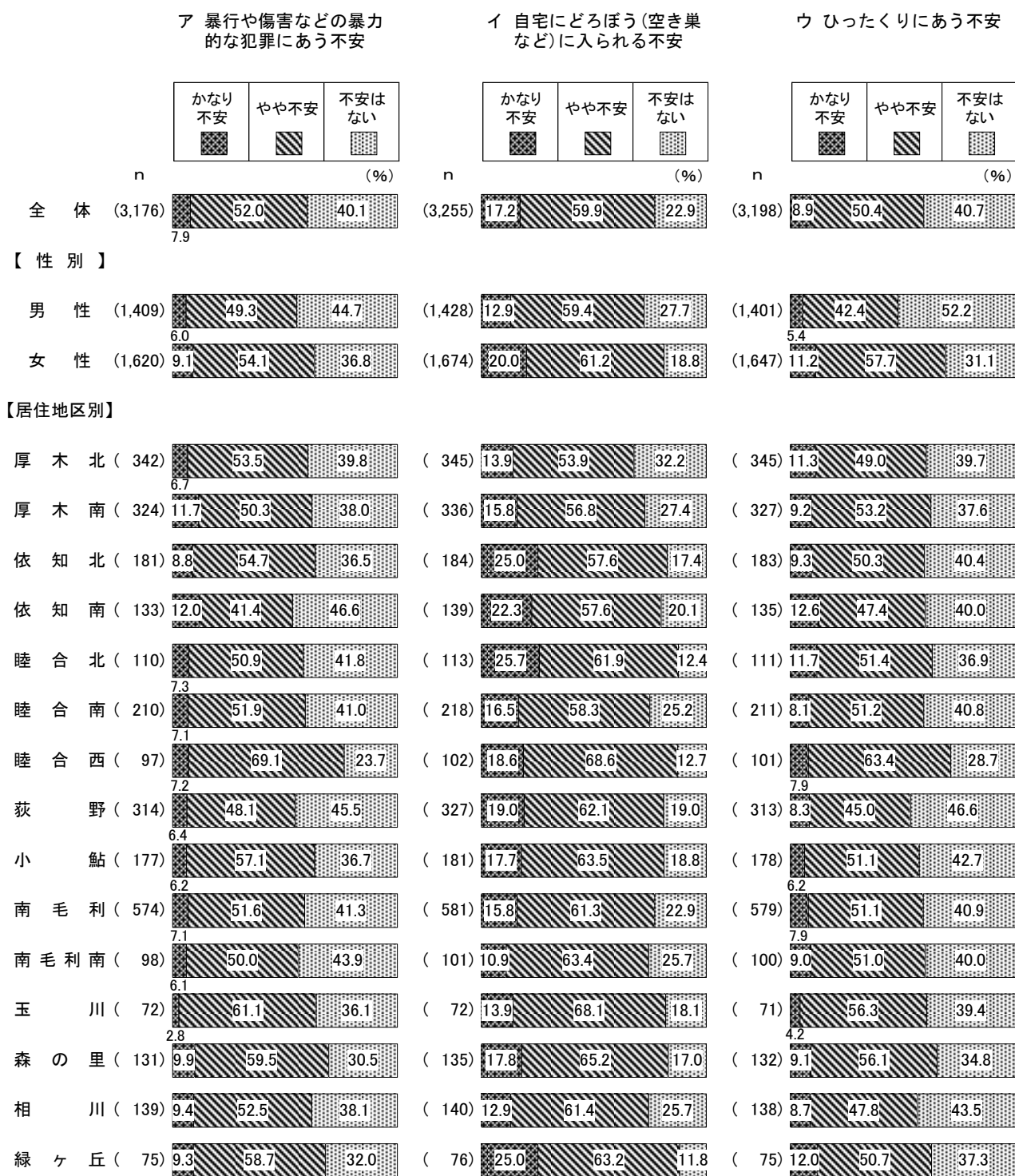
図表4-6 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度 <「かなり不安」> (経年比較)



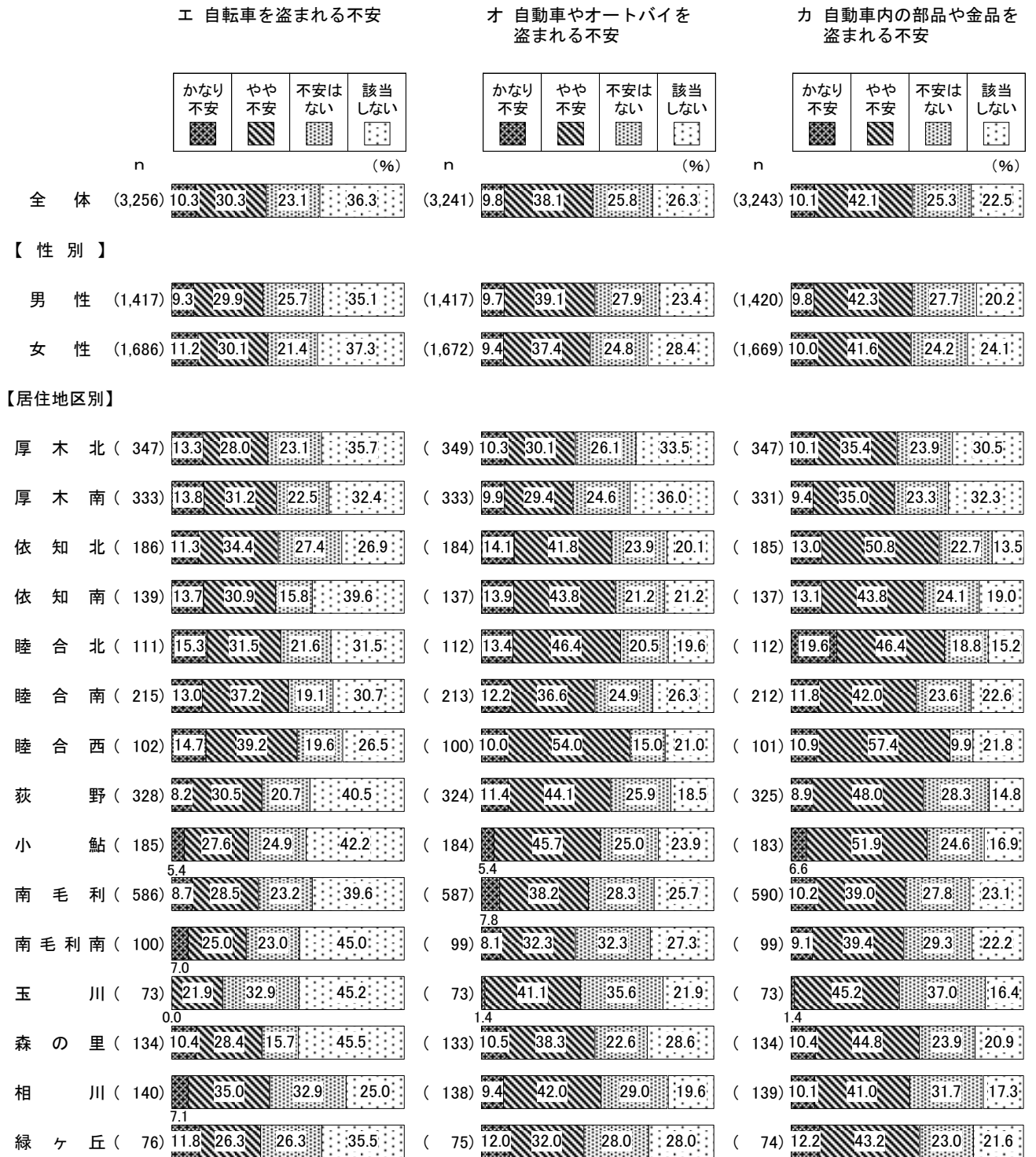
※令和5年度の選択肢は「かなり不安」「やや不安」「不安はない」「該当しない」、平成20年度は「非常に不安」「かなり不安」「やや不安」「不安はない」「該当しない」となっていた。令和5年度のグラフの数値は「かなり不安」の割合、平成20年度のグラフの数値は「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合となっている

※令和5年度では“自転車窃盗”、“車・オートバイ窃盗”、“車の部品や金品窃盗”、“子どもの連れ去り”、“インターネット犯罪”に「該当しない」の選択肢を追加している

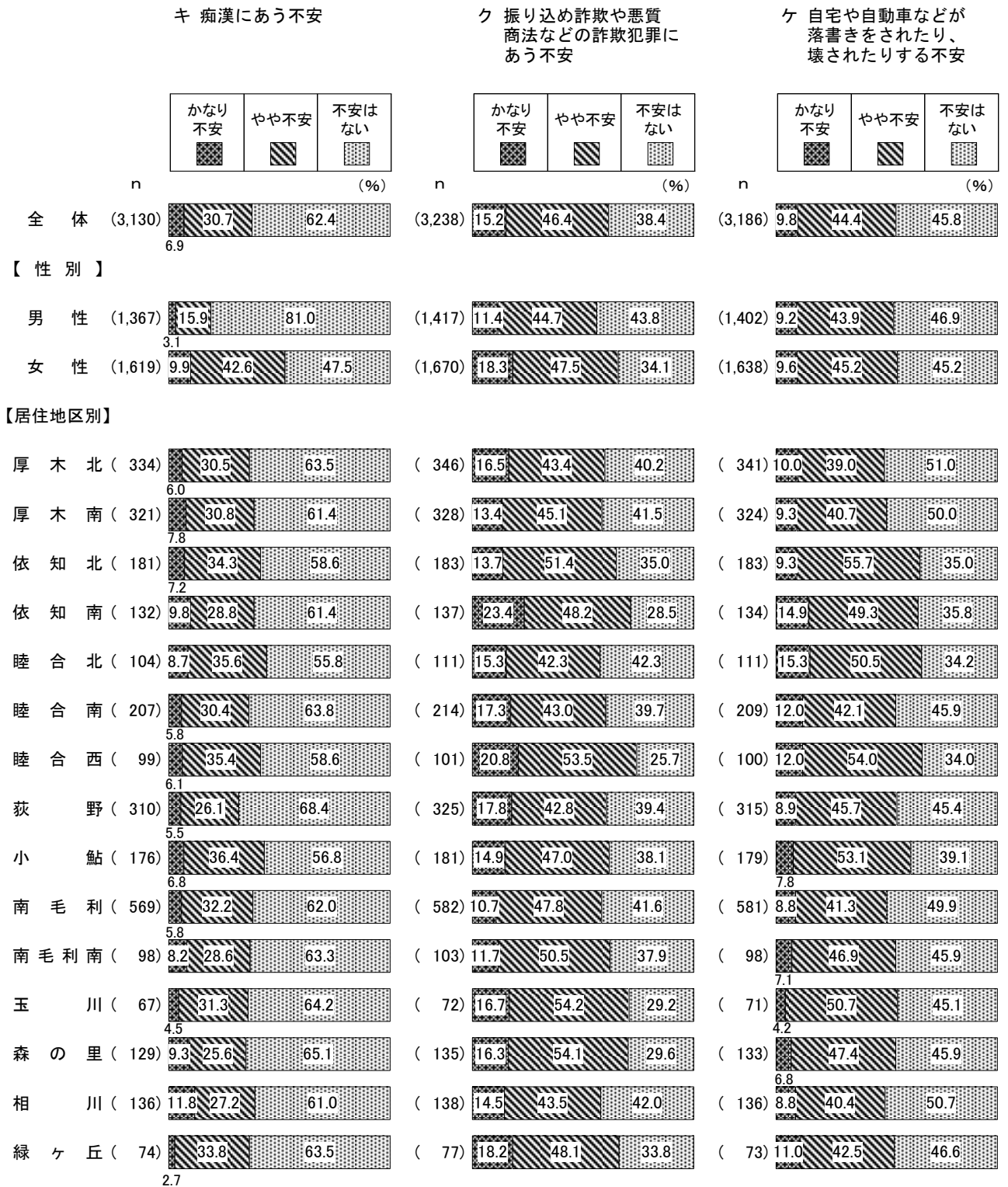
図表４－７ 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度（性別、居住地区別） <ア～ウ>



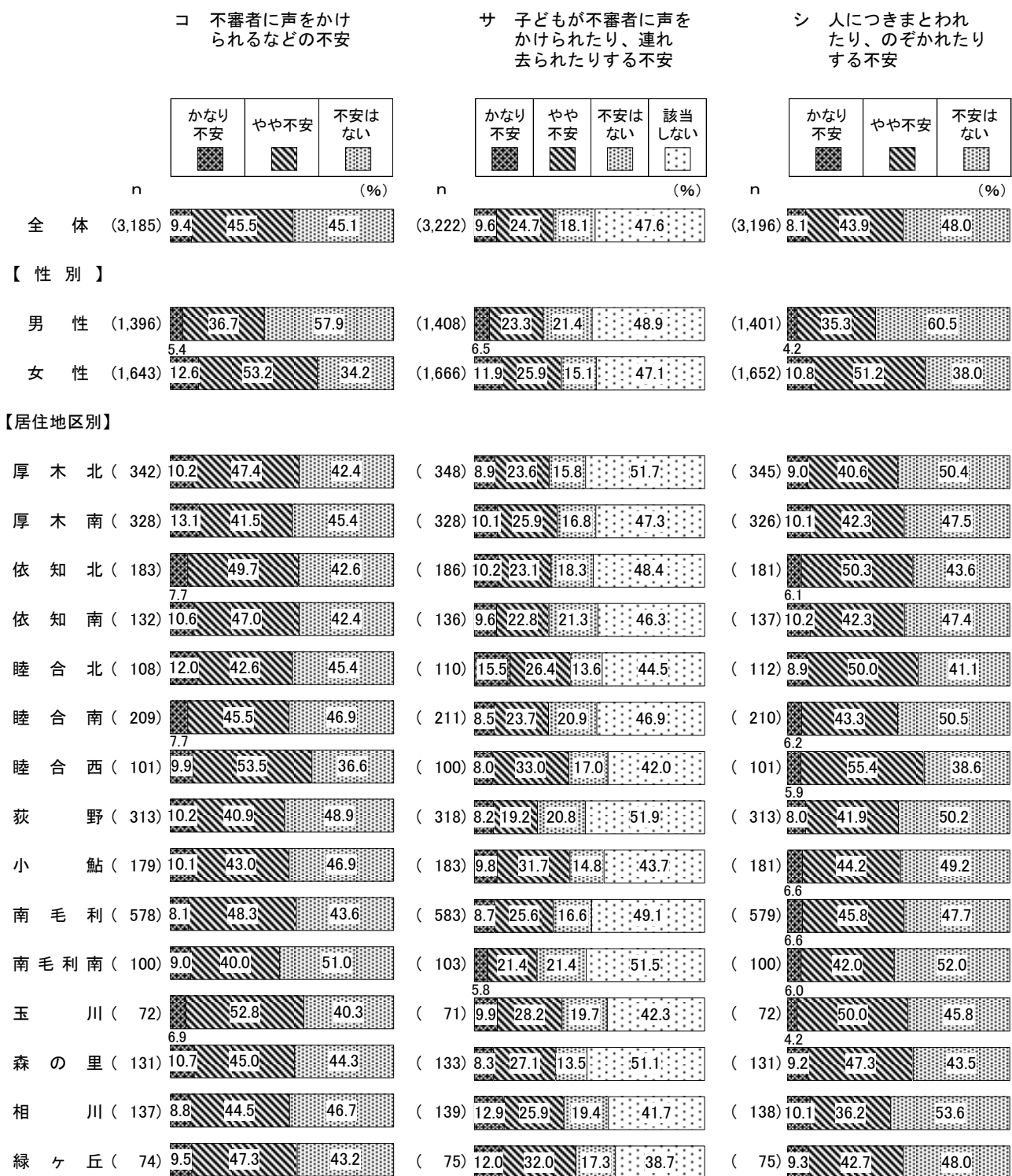
図表4-8 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度（性別、居住地区別） <エ〜カ>



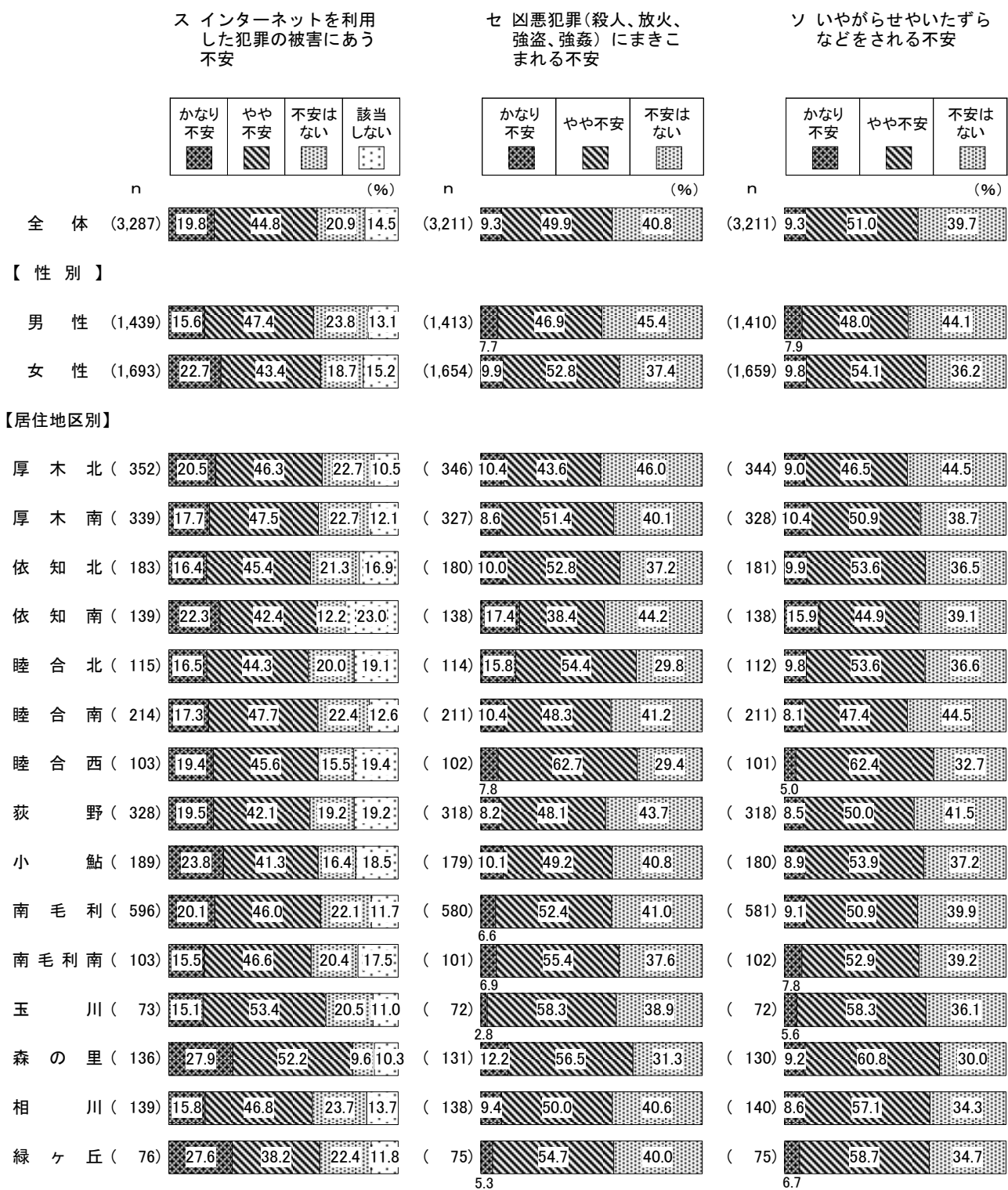
図表4-9 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度（性別、居住地区別） <キ~ケ>



図表4-10 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度（性別、居住地区別） <コ～シ>



図表4-11 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度（性別、居住地区別） <ス～ソ>



(4) 犯罪等被害にあう不安を感じる状況

◇犯罪等被害にあう不安を感じる状況は、「夜、街灯が暗いところがある」が51.6%で最も高い

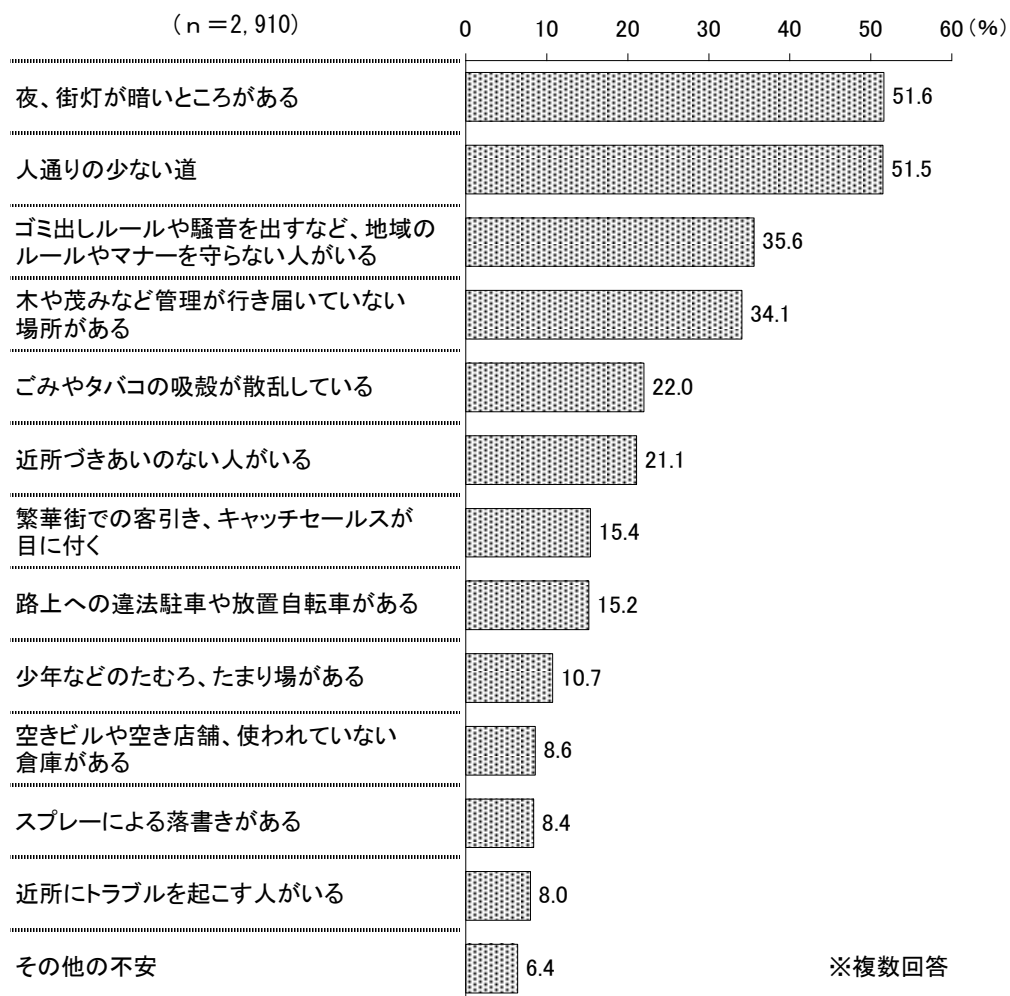
犯罪等被害にあう不安を感じる状況は、「夜、街灯が暗いところがある」が51.6%で最も高く、次いで「人通りの少ない道」が51.5%、「ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がある」が35.6%となっている。

◇性別では、女性が男性より「人通りの少ない道」で13.6ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で6.3ポイント、それぞれ高い

性別で見ると、犯罪等被害にあう不安を感じる状況は、女性が男性より「人通りの少ない道」で13.6ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で6.3ポイント、それぞれ高くなっている。

◇居住地区別では、「夜、街灯が暗いところがある」は玉川地区で68.8%と最も高く、「人通りの少ない道」でも玉川地区で68.8%と最も高い

図表4-12 犯罪等被害にあう不安を感じる状況



図表4-13 犯罪等被害にあう不安を感じる状況（性別、居住地区別）

		※複数回答 (%)													
		n	夜、街灯が暗いところがある	人通りの少ない道	ゴミ出しルールや騒音を守らない人がある	木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある	ごみやタバコの吸殻が散乱している	近所づきあいのない人がいる	繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く	路上への違法駐車や放置自転車がある	少年などのたむろ、たまり場がある	空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある	スプレーによる落書きがある	近所にトラブルを起こす人がいる	その他の不安
全 体		2,910	51.6	51.5	35.6	34.1	22.0	21.1	15.4	15.2	10.7	8.6	8.4	8.0	6.4
性別	男 性	1,250	48.3	44.1	36.4	33.7	24.5	22.3	17.3	16.0	11.5	8.8	9.1	8.7	5.3
	女 性	1,519	54.6	57.7	34.8	34.5	19.6	20.1	13.7	14.9	9.3	7.9	6.9	7.3	7.5
居住地区別	厚 木 北	314	47.1	42.4	29.3	21.3	33.1	17.2	37.3	18.8	16.2	15.3	8.0	8.3	5.1
	厚 木 南	311	47.3	46.0	37.6	26.0	25.1	17.7	26.0	15.8	13.5	9.0	6.4	3.5	8.0
	依 知 北	175	54.3	64.6	44.0	49.1	26.9	27.4	4.6	20.0	9.7	9.7	15.4	8.6	8.6
	依 知 南	123	59.3	56.9	33.3	37.4	26.0	26.0	10.6	21.1	9.8	5.7	13.8	4.9	4.9
	睦 合 北	104	54.8	51.0	45.2	40.4	22.1	24.0	17.3	22.1	12.5	4.8	7.7	8.7	10.6
	睦 合 南	191	48.2	43.5	37.2	23.6	23.6	20.9	15.7	18.8	9.9	4.7	8.4	8.4	2.6
	睦 合 西	87	43.7	46.0	49.4	26.4	43.7	26.4	11.5	24.1	16.1	10.3	8.0	10.3	6.9
	荻 野	284	50.0	54.9	39.4	40.5	18.3	22.5	8.5	11.3	9.9	8.1	8.8	9.9	5.3
	小 鮎	171	56.1	58.5	31.6	49.7	19.9	18.7	8.2	12.3	12.9	4.1	12.9	9.9	7.6
	南 毛 利	515	56.5	53.2	31.8	35.5	17.1	24.3	12.6	12.6	8.9	8.7	5.2	9.3	4.3
	南 毛 利 南	89	52.8	53.9	40.4	36.0	19.1	23.6	10.1	14.6	4.5	9.0	5.6	12.4	2.2
	玉 川	64	68.8	68.8	20.3	54.7	10.9	4.7	3.1	4.7	6.3	6.3	9.4	4.7	3.1
	森 の 里	124	60.5	66.1	17.7	40.3	5.6	16.9	6.5	8.9	1.6	8.1	2.4	5.6	8.9
	相 川	129	48.1	43.4	33.3	26.4	11.6	15.5	10.1	20.2	7.8	6.2	12.4	3.9	10.1
緑 ケ 丘	62	43.5	33.9	53.2	32.3	24.2	24.2	11.3	12.9	8.1	12.9	4.8	9.7	12.9	

(5) 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況

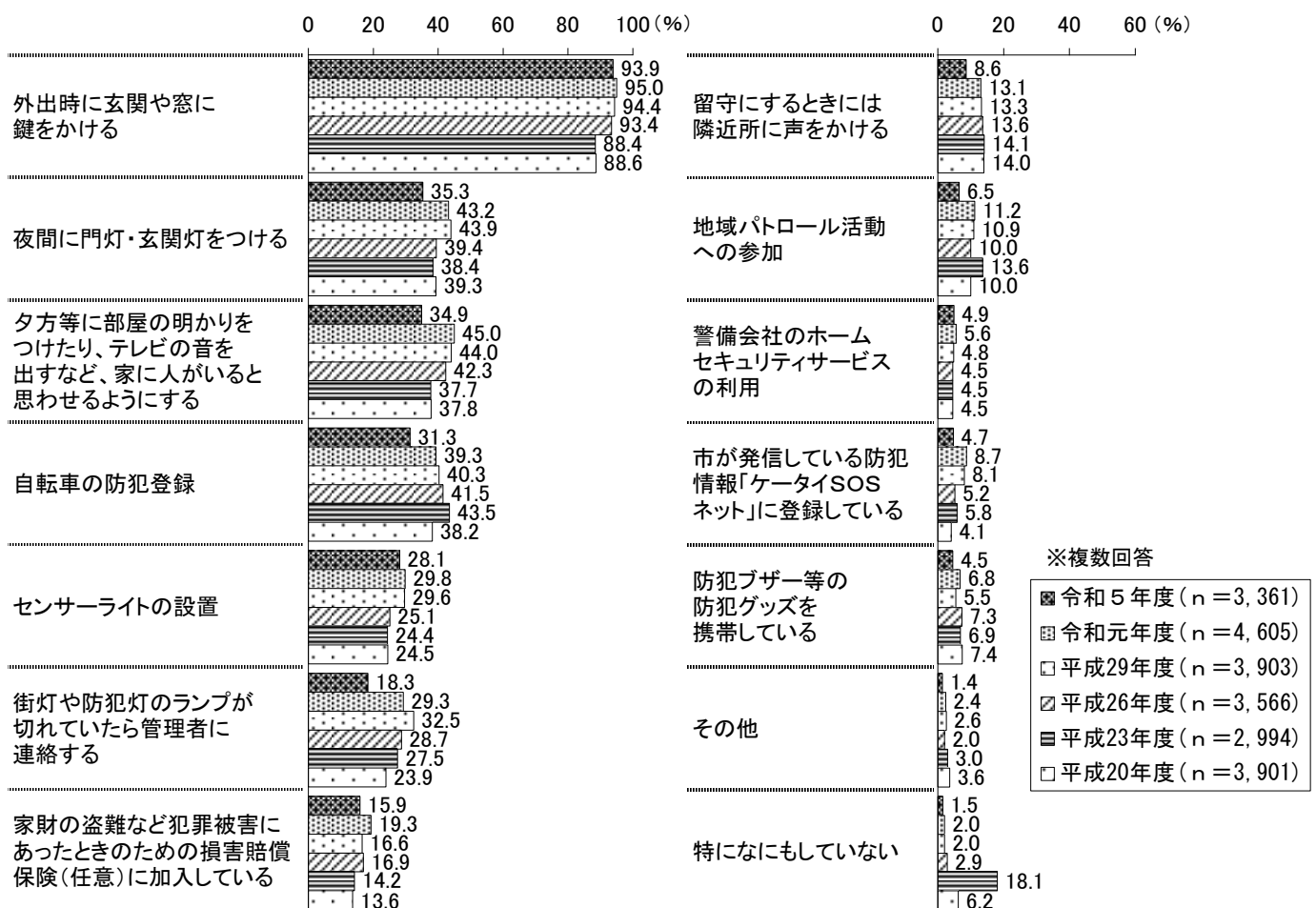
◇犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が93.9%で最も高い

犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が93.9%で最も高く、次いで「夜間に門灯・玄関灯をつける」が35.3%、「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」が34.9%となっている。

過年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は平成20年度調査以降、引き続き1位となっている。また、「街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する」は令和元年度調査より11.0ポイント、「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」は令和元年度調査より10.1ポイント、それぞれ減少している。

◇居住地区別では、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は森の里地区で96.4%と最も高く、「センサーライトの設置」は玉川地区で51.4%と最も高い

図表4-14 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況（経年比較）



※「市が発信している防犯情報『ケータイSOSネット』に登録している」は、令和元年度では「市が発信している防犯・防災情報『ケータイSOSネット』に登録している」、平成29年度までは「市が発信している防犯・防災情報『ケータイSOSネット』などに登録している」となっていた

図表4-15 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況（居住地区別）

		※複数回答 (％)														
		n	外出時に玄関や窓に鍵をかける	夜間に門灯・玄関灯をつける	夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする	自転車の防犯登録	センサーライトの設置	街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する	家財の盗難など犯罪被害にあつたときのための損害賠償保険（任意）に加入している	留守にするときには隣近所に声をかける	地域パトロール活動への参加	警備会社のホームセキュリティサービスの利用	市が発信している防犯情報「ケータイSO ネット」に登録している	防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している	その他	特になにもしていない
全 体		3,361	93.9	35.3	34.9	31.3	28.1	18.3	15.9	8.6	6.5	4.9	4.7	4.5	1.4	1.5
居 住 地 区 別	厚 木 北	353	94.3	24.9	28.3	30.3	17.0	11.9	17.3	5.7	1.7	10.2	4.0	4.8	2.3	1.4
	厚 木 南	346	91.6	28.3	31.8	39.9	20.5	17.1	17.3	6.6	4.9	6.9	5.5	5.5	2.0	2.3
	依 知 北	190	92.6	38.9	46.8	34.2	33.2	15.8	18.4	10.5	7.9	2.6	4.2	2.6	2.1	0.5
	依 知 南	139	94.2	41.0	41.0	35.3	39.6	14.4	18.7	9.4	9.4	4.3	4.3	5.8	0.7	0.7
	睦 合 北	121	93.4	42.1	44.6	31.4	39.7	17.4	19.0	11.6	14.0	1.7	5.8	3.3	2.5	1.7
	睦 合 南	217	92.2	30.4	27.2	41.5	18.4	14.7	19.4	9.7	8.8	5.1	4.6	3.2	2.3	1.8
	睦 合 西	104	92.3	33.7	30.8	40.4	27.9	25.0	6.7	6.7	3.8	2.9	5.8	4.8	1.0	2.9
	荻 野	348	93.1	43.4	34.2	22.4	37.1	20.1	11.5	8.3	9.5	3.7	4.9	5.5	1.1	1.7
	小 鮎	193	95.9	34.7	34.7	22.3	34.2	23.8	19.2	6.2	9.3	2.1	6.2	5.7	0.5	1.0
	南 毛 利	606	95.9	39.6	36.8	31.7	30.7	18.6	18.8	9.1	6.6	4.8	4.6	4.5	0.8	1.0
	南 毛 利 南	106	93.4	32.1	34.9	24.5	18.9	20.8	12.3	9.4	12.3	4.7	2.8	1.9	0.9	4.7
	玉 川	74	93.2	43.2	36.5	13.5	51.4	28.4	12.2	8.1	1.4	2.7	2.7	5.4	1.4	-
	森 の 里	137	96.4	43.1	40.9	22.6	29.9	29.9	8.8	11.7	8.0	4.4	8.0	2.9	-	0.7
	相 川	142	95.1	30.3	26.8	43.7	23.2	15.5	17.6	7.7	2.1	3.5	3.5	4.9	2.1	2.1
緑 ケ 丘	78	96.2	43.6	32.1	32.1	23.1	16.7	10.3	16.7	2.6	3.8	1.3	6.4	2.6	-	

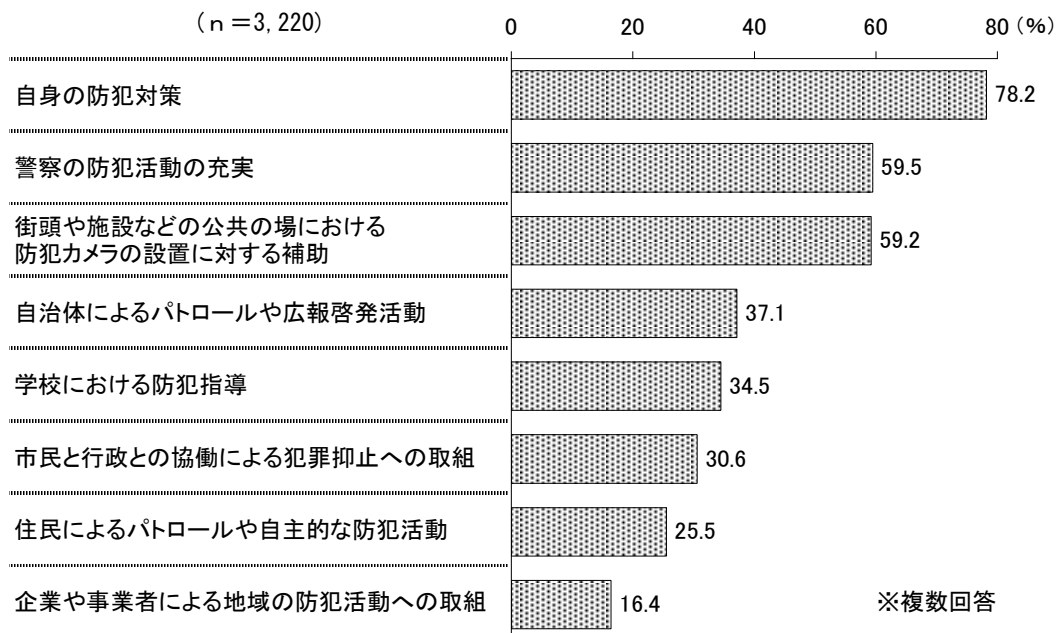
(6) 犯罪防止のために重要と考える対策

◇犯罪防止のために重要と考える対策は、「自身の防犯対策」が78.2%で最も高い

犯罪防止のために重要と考える対策は、「自身の防犯対策」が78.2%で最も高く、次いで「警察の防犯活動の充実」が59.5%、「街頭や施設などの公共の場における防犯カメラの設置に対する補助」が59.2%となっている。

◇居住地区別では、「自身の防犯対策」は玉川地区で86.1%と最も高く、「街頭や施設などの公共の場における防犯カメラの設置に対する補助」は依知北地区で67.6%と最も高い

図表4-16 犯罪防止のために重要と考える対策



図表4-17 犯罪防止のために重要と考える対策（居住地区別）

		※複数回答 (%)										
		n	自身の防犯対策	警察の防犯活動の充実	街頭や施設などの公共の場における防犯カメラの設置補助	街頭や施設などの公共の場における防犯カメラの設置	広報啓発活動	自治体によるパトロールや	学校における防犯指導	市民と行政との協働による犯罪抑止への取組	住民によるパトロールや自主的な防犯活動	企業や事業者による地域の防犯活動への取組
全 体		3,220	78.2	59.5	59.2	37.1	34.5	30.6	25.5	16.4		
居 住 地 区 別	厚 木 北	341	79.5	59.2	57.5	32.6	27.6	28.7	15.5	15.0		
	厚 木 南	331	76.1	59.5	58.6	35.0	27.8	30.5	20.8	13.9		
	依 知 北	182	74.2	59.9	67.6	42.9	35.7	28.0	28.0	21.4		
	依 知 南	134	77.6	63.4	57.5	41.0	47.8	30.6	30.6	20.1		
	睦 合 北	112	75.0	55.4	65.2	38.4	41.1	34.8	25.0	16.1		
	睦 合 南	208	73.1	58.7	60.6	34.1	29.8	26.9	26.9	16.3		
	睦 合 西	103	81.6	63.1	63.1	36.9	35.0	28.2	28.2	17.5		
	荻 野	334	79.0	56.6	53.3	39.2	34.4	27.8	31.1	14.7		
	小 鮎	181	80.1	57.5	60.2	39.2	30.4	28.7	30.9	8.8		
	南 毛 利	578	79.9	62.5	62.3	39.3	38.6	34.4	26.1	18.2		
	南 毛 利 南	104	81.7	60.6	58.7	46.2	40.4	30.8	26.9	17.3		
	玉 川	72	86.1	66.7	66.7	37.5	43.1	45.8	23.6	27.8		
	森 の 里	136	81.6	56.6	58.1	41.2	32.4	36.0	33.8	14.0		
	相 川	136	77.9	52.2	52.9	26.5	30.1	27.9	20.6	16.9		
緑 ケ 丘	75	73.3	57.3	56.0	28.0	33.3	24.0	24.0	12.0			

(7) 青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験

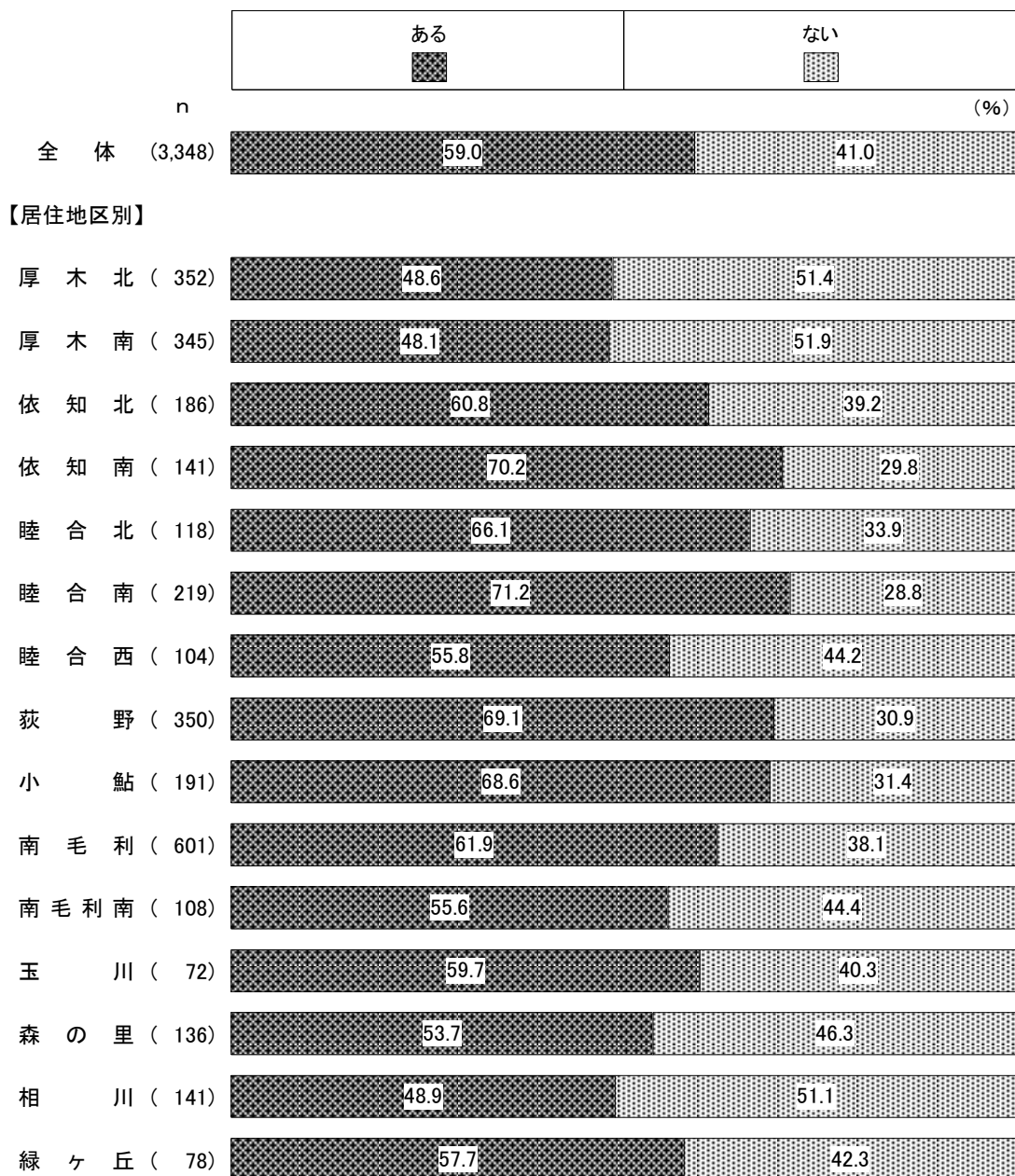
◇青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験は、「ある」が59.0%

青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験は、「ある」が59.0%、「ない」は41.0%となっている。

◇居住地区別では、「ある」は睦合南地区で71.2%と最も高く、「ない」は厚木南地区で51.9%と最も高い

居住地区別でみると、青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験が「ある」は、睦合南地区で71.2%と最も高く、次いで依知南地区で70.2%となっている。一方、「ない」は、厚木南地区で51.9%と最も高く、次いで厚木北地区で51.4%となっている。

図表4-18 青色回転灯搭載車両による巡回を見た経験（居住地区別）



(8) 青色回転灯搭載車両による巡回の安心感

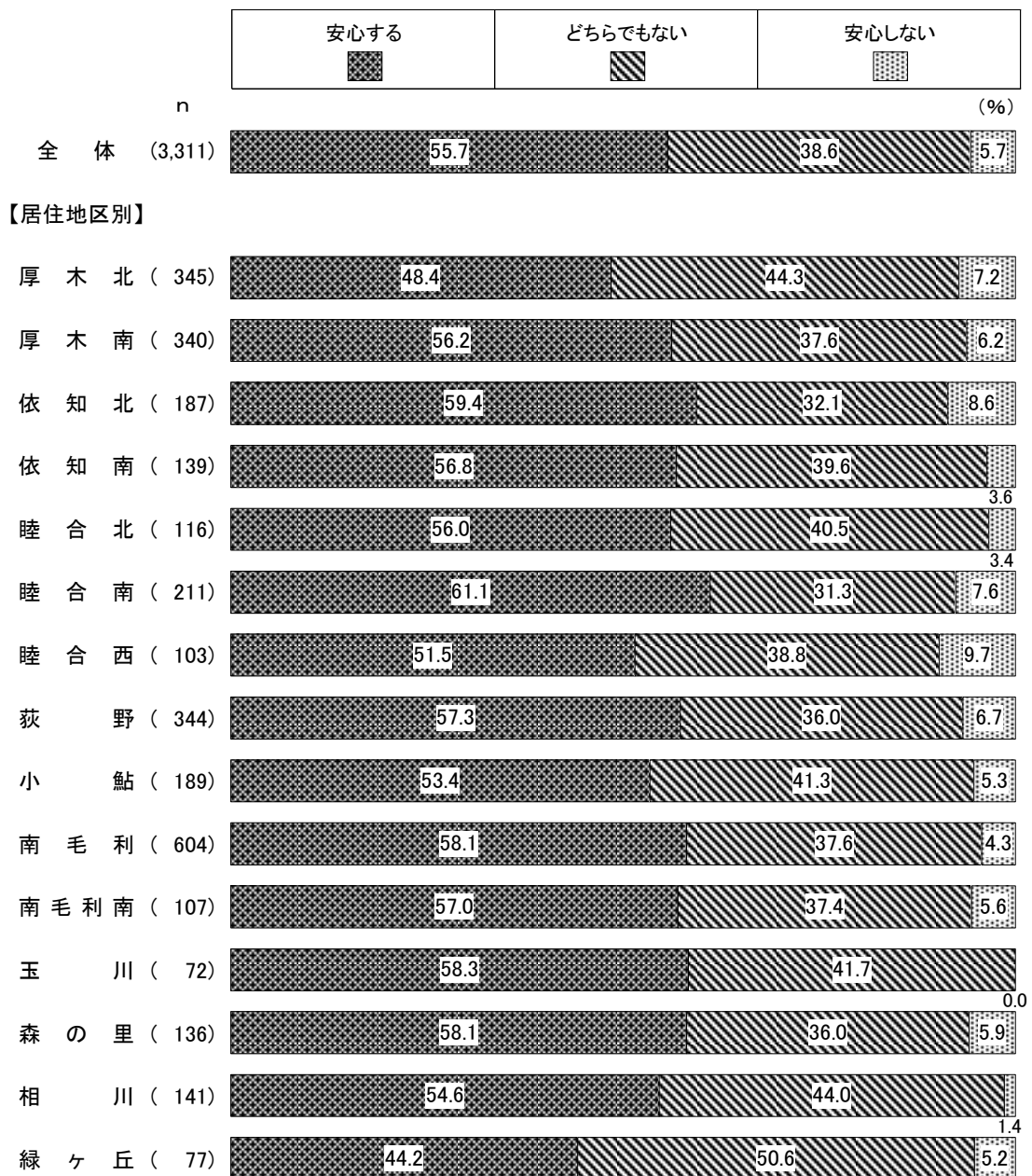
◇青色回転灯搭載車両による巡回の安心感は、「安心する」が55.7%

青色回転灯搭載車両による巡回の安心感は、「安心する」が55.7%、「安心しない」は5.7%となっている。また、「どちらでもない」は38.6%となっている。

◇居住地区別では、「安心する」は睦合南地区で61.1%と最も高い

居住地区別でみると、青色回転灯搭載車両による巡回が「安心する」は、睦合南地区で61.1%と最も高く、次いで依知北地区で59.4%となっている。

図表4-19 青色回転灯搭載車両による巡回の安心感（居住地区別）



5. 自殺予防について

(1) ゲートキーパーの認知状況

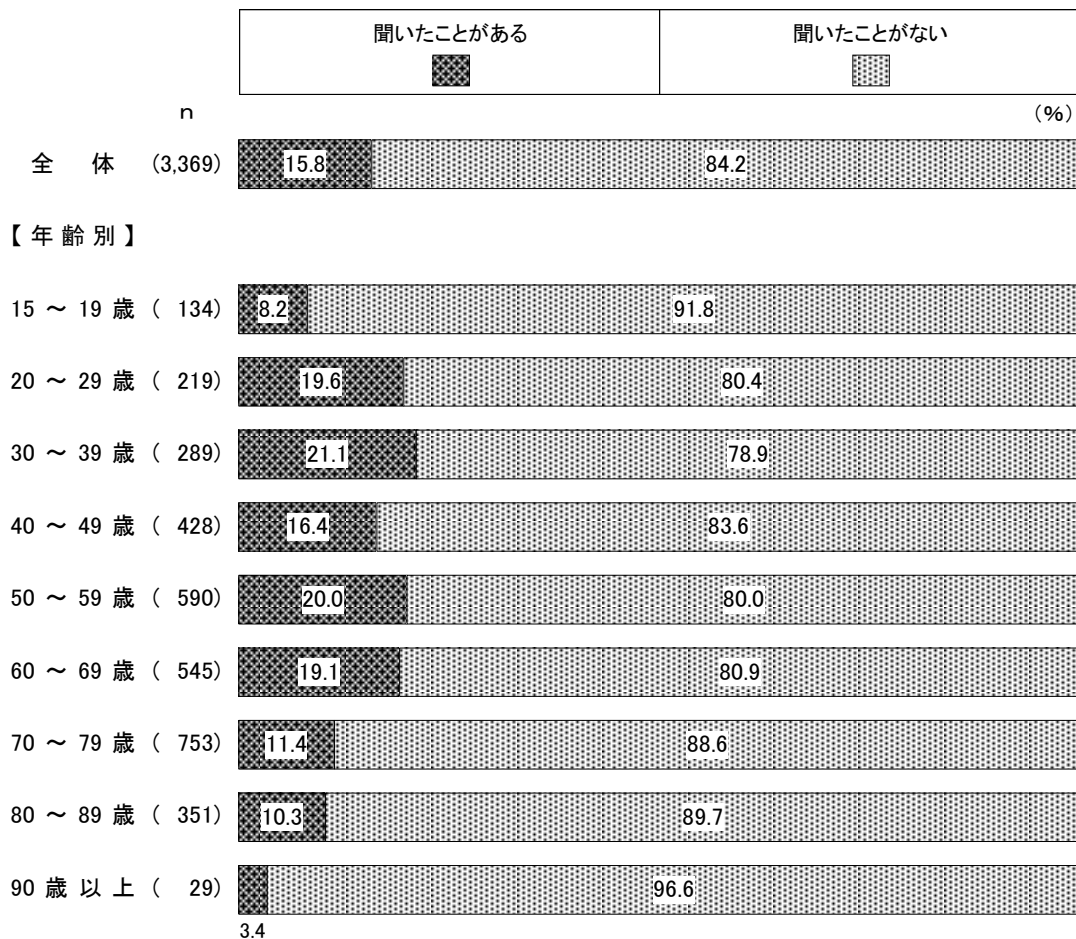
◇ゲートキーパーの認知状況は、「聞いたことがある」が15.8%

ゲートキーパーの認知状況は、「聞いたことがある」が15.8%、「聞いたことがない」は84.2%となっている。

◇年齢別では、「聞いたことがある」は30～39歳で21.1%と最も高く、「聞いたことがない」は90歳以上で96.6%と最も高い

年齢別でみると、ゲートキーパーの認知状況は、「聞いたことがある」が30～39歳で21.1%と最も高く、次いで50～59歳で20.0%となっている。一方、「聞いたことがない」は90歳以上で96.6%と最も高く、次いで15～19歳で91.8%となっている。

図表5-1 ゲートキーパーの認知状況（年齢別）

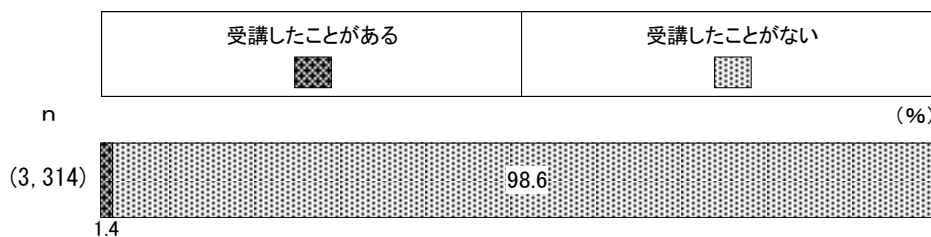


(2) ゲートキーパー養成講座の受講経験

◇ゲートキーパー養成講座の受講経験は、「受講したことがない」が98.6%

ゲートキーパー養成講座の受講経験は、「受講したことがある」が1.4%、「受講したことがない」は98.6%となっている。

図表5-2 ゲートキーパー養成講座の受講経験



6. 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

(1) 自転車の利用状況

◇自転車を「利用している」が33.4%

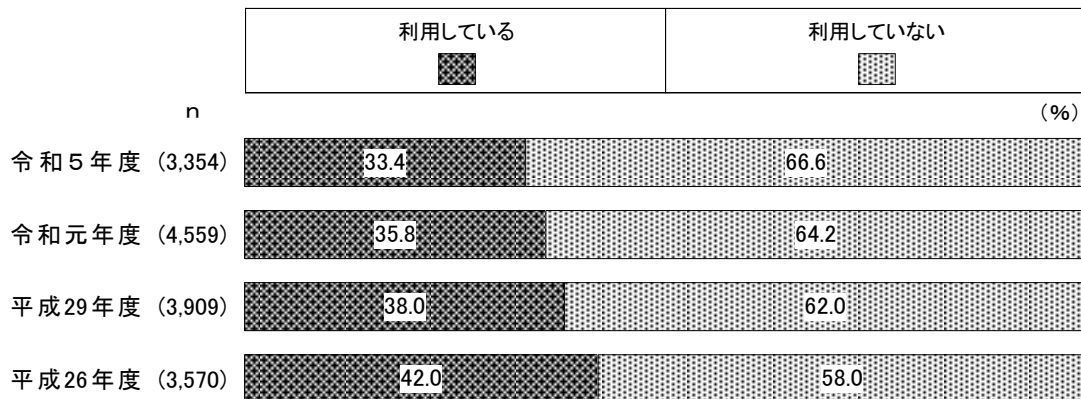
自転車の利用状況は、「利用している」が33.4%、「利用していない」は66.6%となっている。

過年度調査と比較すると、「利用していない」は平成26年度調査以降増加傾向にあり、令和元年度調査より2.4ポイント増加している。

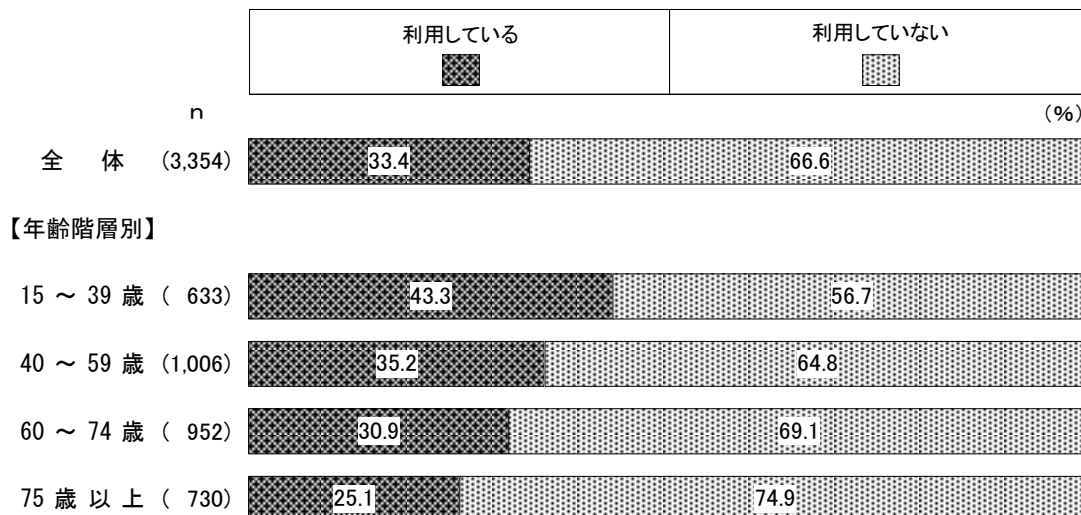
◇自転車を「利用している」は、年齢階層が下がるほど割合が高い

年齢階層別でみると、「利用している」は年齢階層が下がるほど割合が高く、15～39歳で43.3%と高くなっている。

図表6-1 自転車の利用状況（経年比較）



図表6-2 自転車の利用状況（年齢階層別）



(2) 自転車の利用目的

◇自転車の利用目的は「買い物・飲食」が47.9%で最も高い

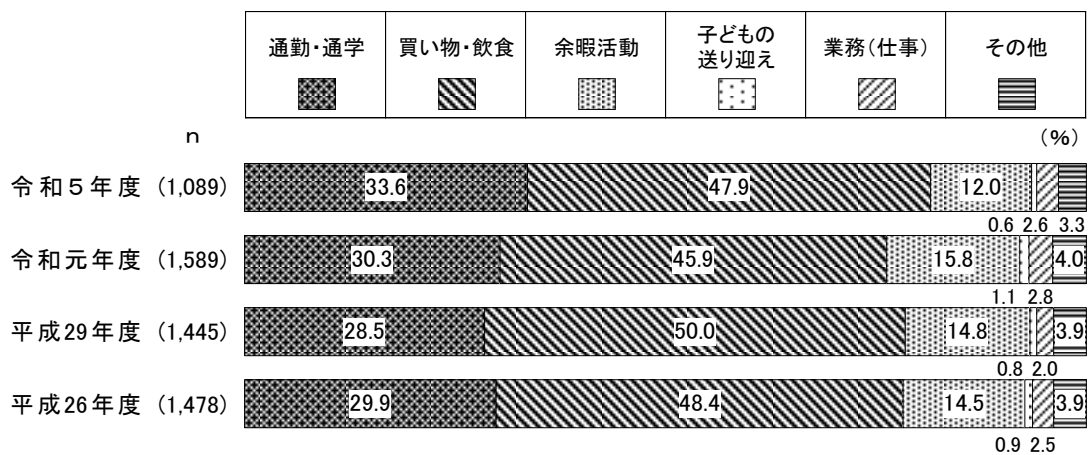
自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が47.9%で最も高く、次いで「通勤・通学」が33.6%、「余暇活動」が12.0%となっている。

過年度調査と比較すると、「通勤・通学」は令和元年度調査より3.3ポイント増加し、「余暇活動」は令和元年度調査より3.8ポイント減少している。

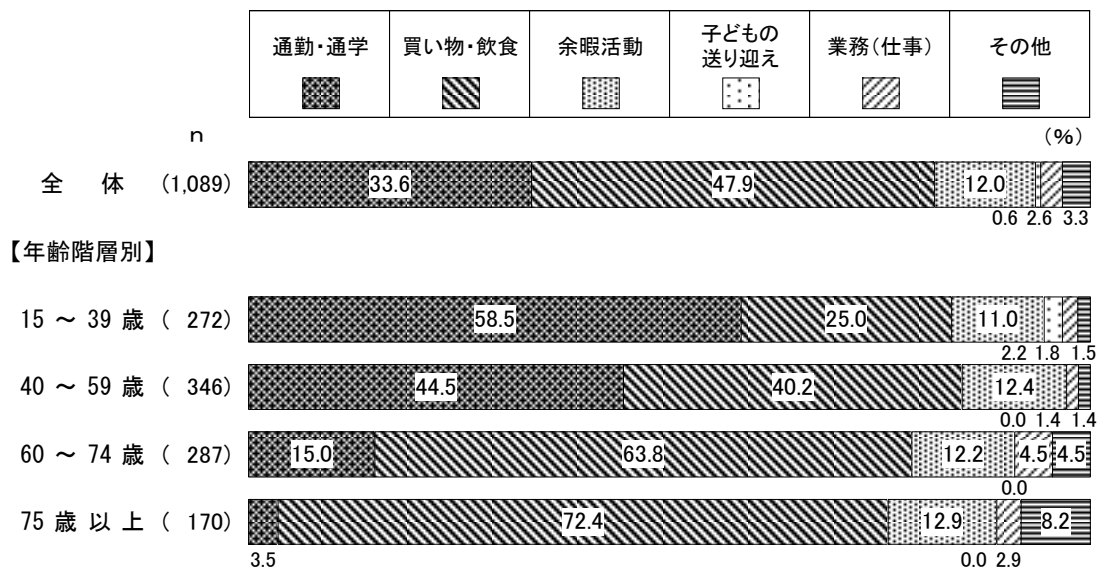
◇「通勤・通学」は年齢階層が下がるほど割合が高く、「買い物・飲食」は年齢階層が上がるほど割合が高い

年齢階層別でみると、自転車の利用目的は、「通勤・通学」が年齢階層が下がるほど割合が高く、15～39歳で58.5%と高くなっている。一方、「買い物・飲食」は年齢階層が上がるほど割合が高く、75歳以上で72.4%と高くなっている。

図表6-3 自転車の利用目的（経年比較）



図表6-4 自転車の利用目的（年齢階層別）



(3) 自転車利用時のルールの認知状況

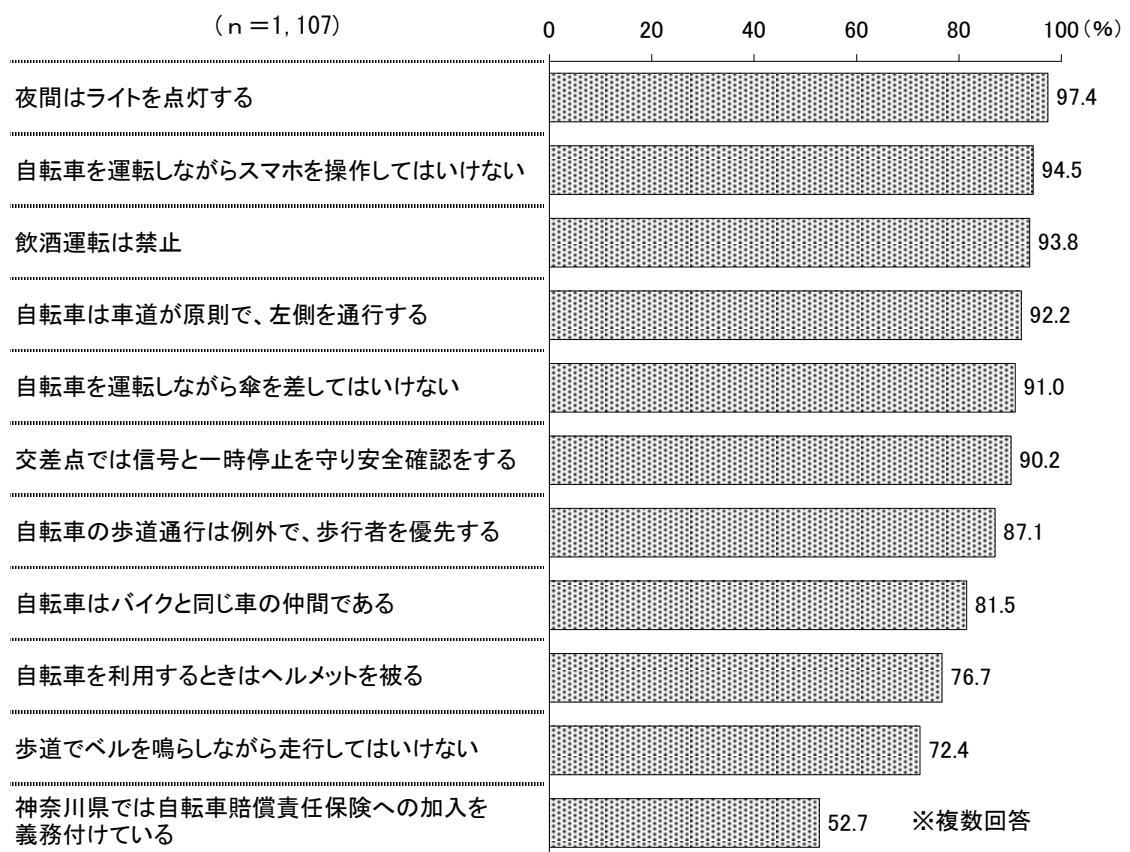
◇自転車利用時のルールの認知状況は、「夜間はライトを点灯する」が97.4%で最も高い

自転車利用時のルールの認知状況は、「夜間はライトを点灯する」が97.4%で最も高く、次いで「自転車を運転しながらスマホを操作してはいけない」が94.5%、「飲酒運転は禁止」が93.8%となっている。

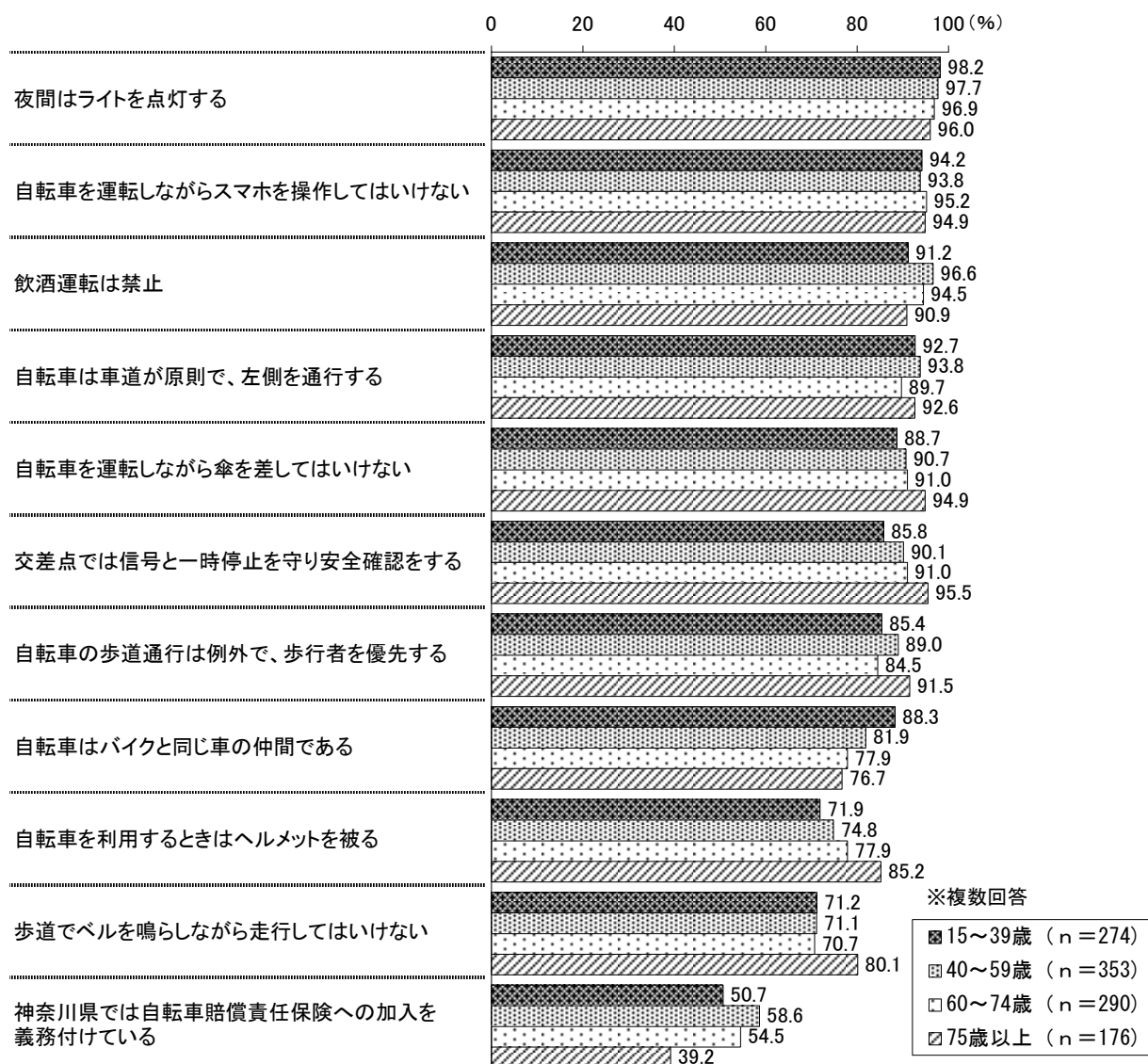
◇年齢層により、ルールの認知状況の傾向が異なる

年齢階層別でみると、自転車利用時のルールの認知状況は、「夜間はライトを点灯する」と「自転車はバイクと同じ車の仲間である」が年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。一方、「自転車を運転しながら傘を差してはいけない」、「交差点では信号と一時停止を守り安全確認をする」、「自転車を利用するときはヘルメットを被る」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

図表6-5 自転車利用時のルールの認知状況



図表 6-6 自転車利用時のルールの認知状況（年齢階層別）



(4) 自転車利用時に感じる不安や危険

◇自転車利用時に感じる不安や危険は、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が57.5%で最も高い

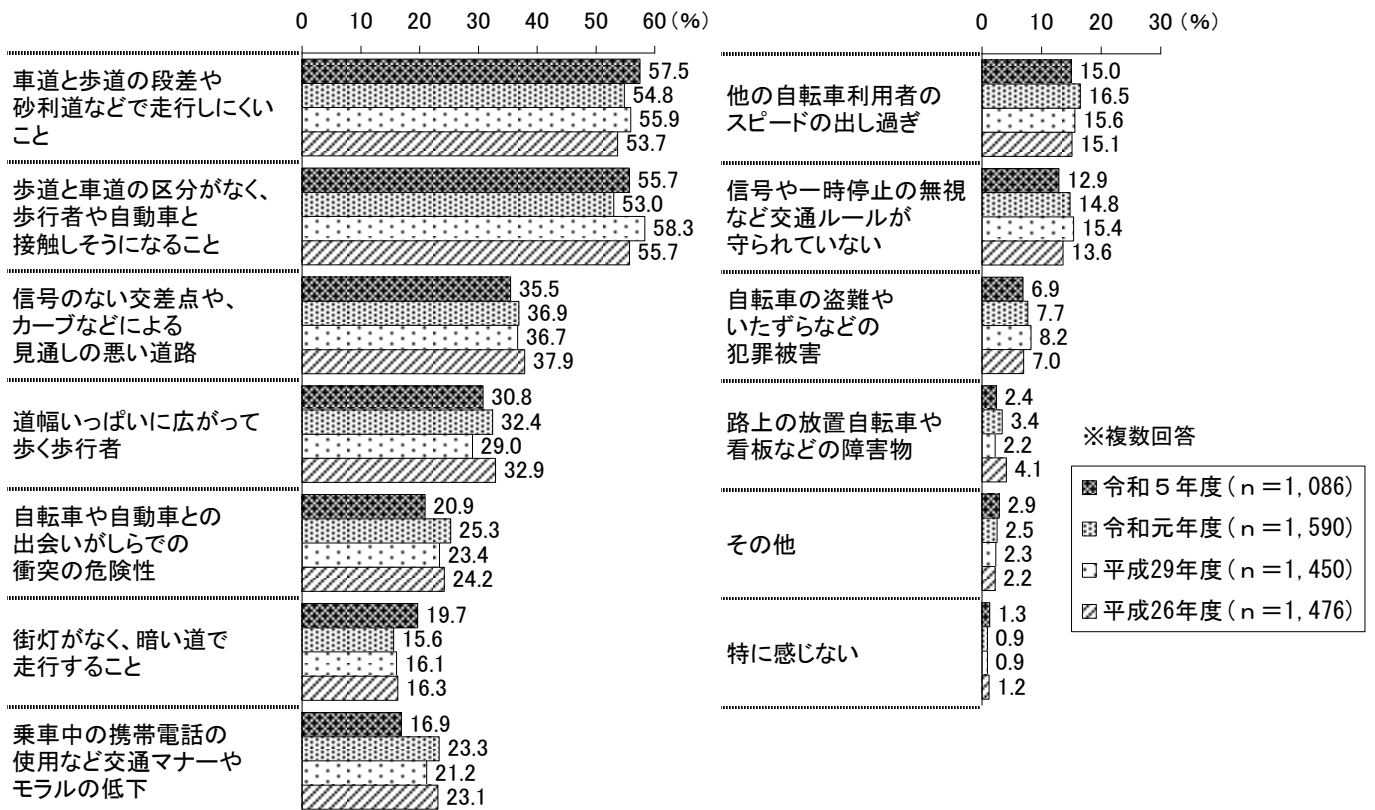
自転車利用時に感じる不安や危険は、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が57.5%で最も高く、次いで「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が55.7%となっている。

過年度調査と比較すると、「街灯がなく、暗い道で走行すること」は令和元年度調査より4.1ポイント増加している。一方、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は令和元年度調査より6.4ポイント、「自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性」は令和元年度調査より4.4ポイント、それぞれ減少している。

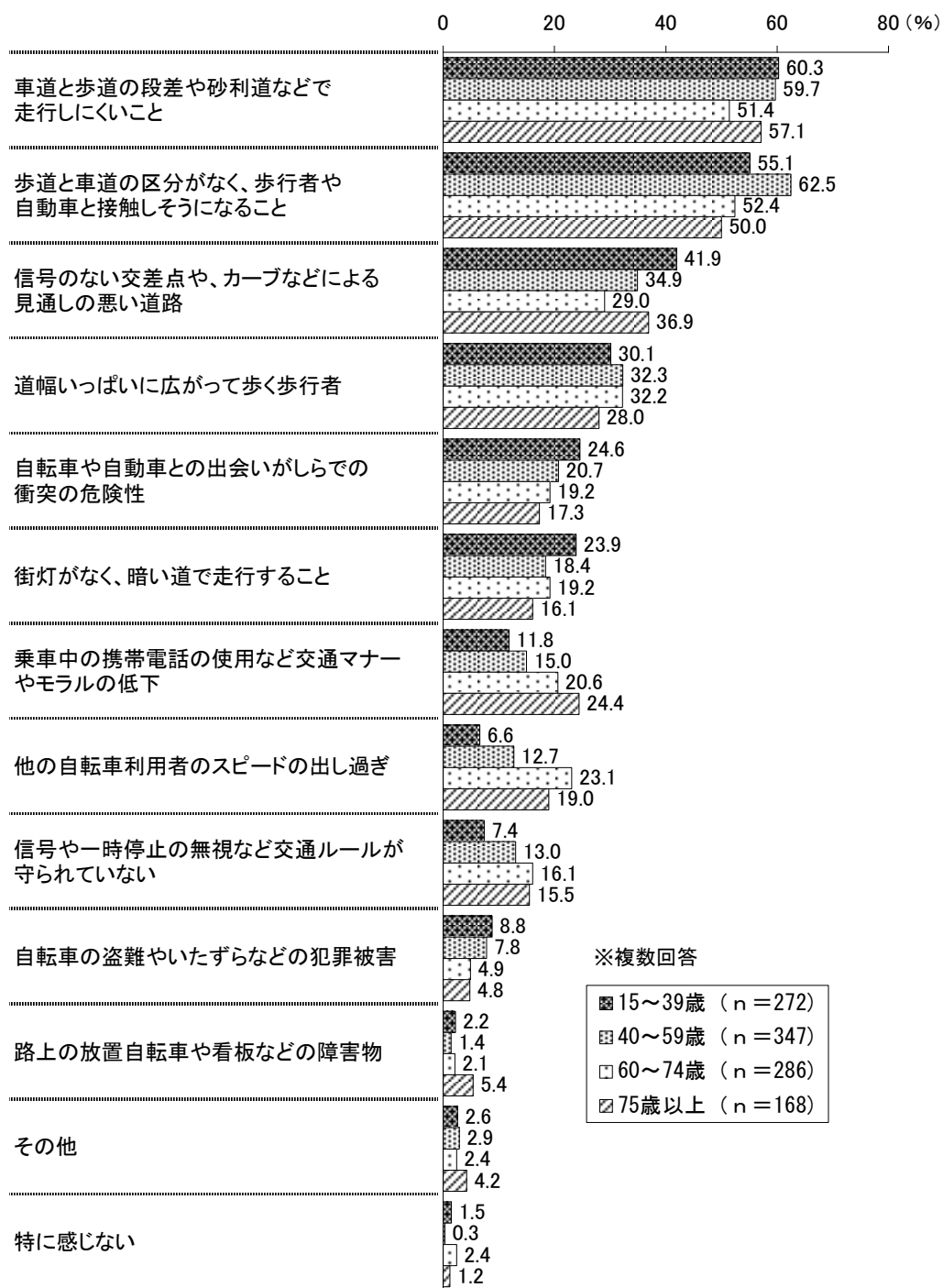
◇年齢層により、自転車利用時に感じる不安や危険の傾向が異なる

年齢階層別でみると、自転車利用時に感じる不安や危険は、「自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性」と「自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。一方、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

図表6-7 自転車利用時に感じる不安や危険（経年比較）



図表 6-8 自転車利用時に感じる不安や危険（年齢階層別）



(5) 自転車利用時のけがや事故の経験

◇過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が16.0%

過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が16.0%、「ない」は84.0%となっている。

過年度調査と比較すると、「ある」は平成29年度調査以降減少傾向にある。

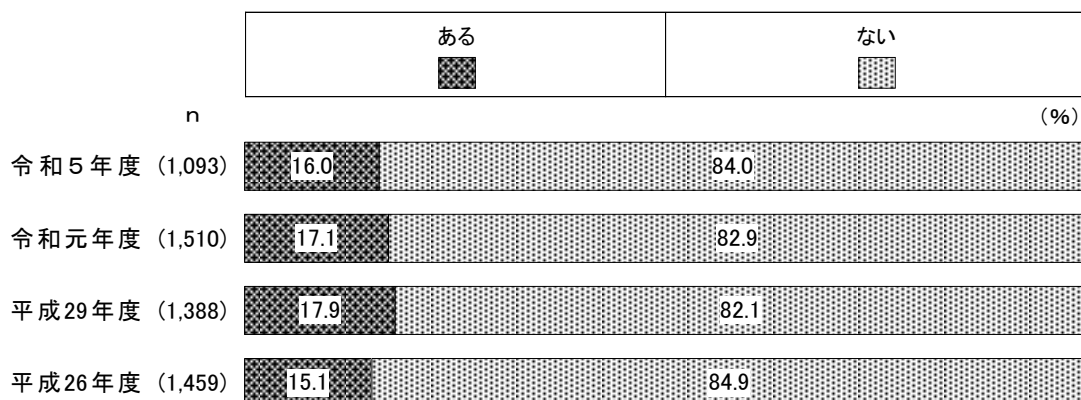
年齢階層別でみると、「ある」は15～39歳で21.2%と最も高く、次いで75歳以上で16.6%となっている。

◇自転車利用時のけがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が40.5%で最も高い

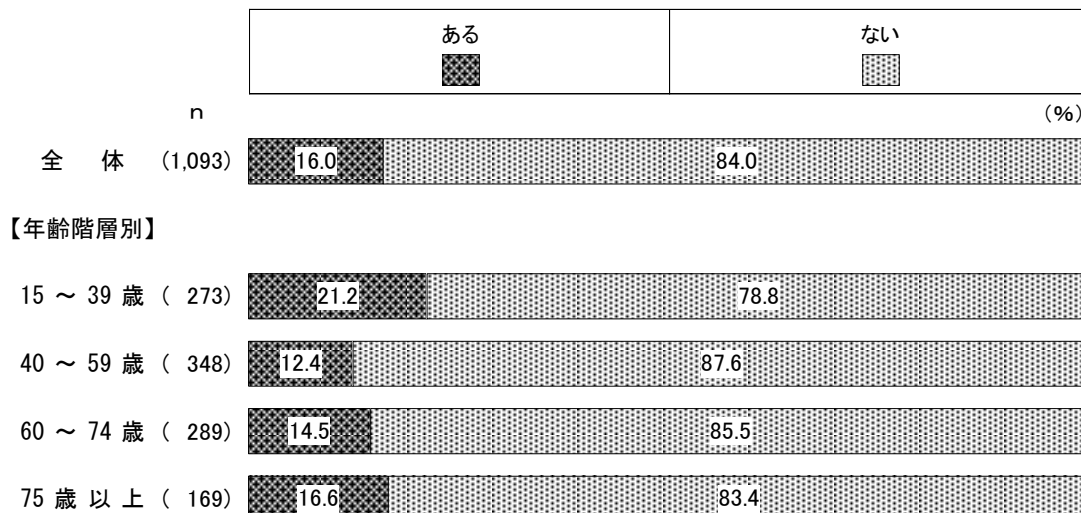
自転車利用時のけがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が40.5%で最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」が25.6%、「夕方の帰宅時間帯」が20.2%となっている。

過年度調査と比較すると、「昼間（通勤・通学時間以外）」は令和元年度調査より7.3ポイント増加し、「早朝（5：00頃～7：00頃）」は令和元年度調査より4.7ポイント減少している。

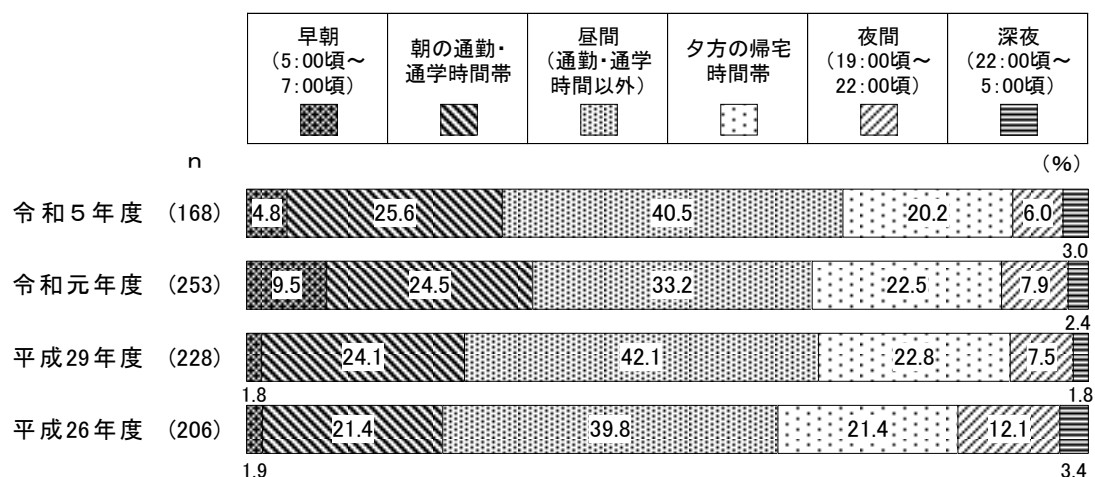
図表6-9 自転車利用時のけがや事故の経験（経年比較）



図表6-10 自転車利用時のけがや事故の経験（年齢階層別）



図表 6-11 自転車利用時のけがや事故がおきた時間帯（経年比較）

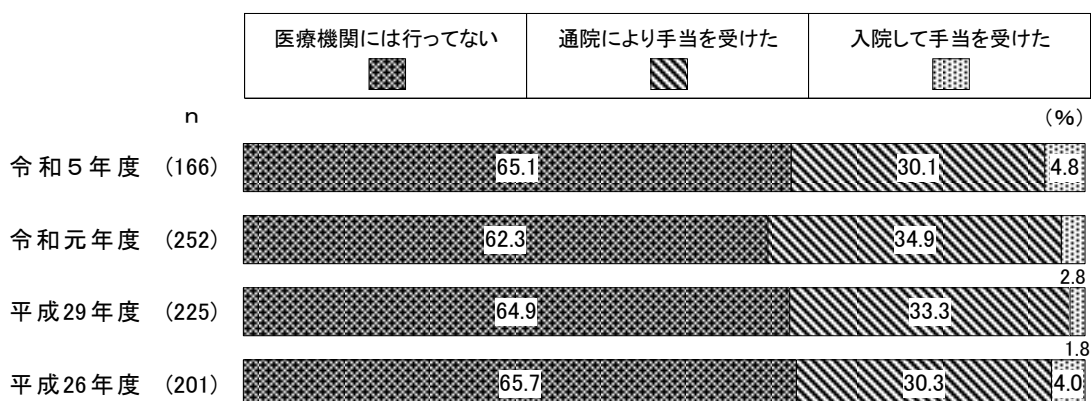


(6) 医療機関での治療状況

◇医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が30.1%、「入院して手当を受けた」は4.8%となっており、医療機関を利用した人は34.9%

医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が30.1%、「入院して手当を受けた」は4.8%となっており、医療機関を利用した人は34.9%となっている。一方、「医療機関には行ってない」は65.1%となっている。

図表 6-12 医療機関での治療状況（経年比較）



(7) 自転車利用時のけがや事故の状況と原因

◇自転車利用時のけがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が70.3%で最も高い

◇「自分だけ転倒した」は75歳以上で84.6%と最も高い

自転車利用時のけがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が70.3%で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が15.7%、「自転車同士で接触・衝突した」が9.9%となっている。

年齢階層別でみると、「自分だけ転倒した」は75歳以上で84.6%と最も高く、次いで60～74歳で71.4%となっている。「自動車やバイクと接触・衝突した」は60～74歳で21.4%と最も高くなっている。

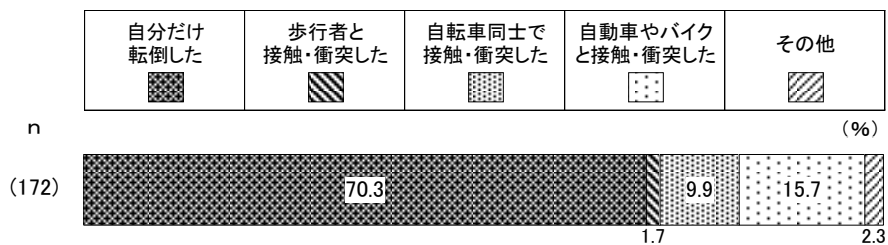
◇自転車利用時のけがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が36.6%で最も高い

◇「道路に段差があった」は75歳以上で67.9%と最も高い

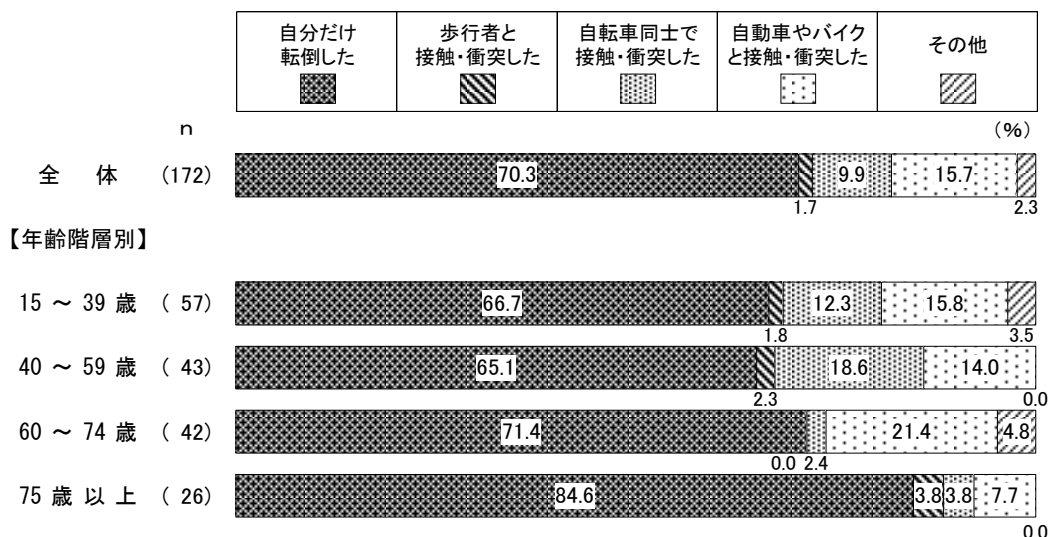
自転車利用時のけがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が36.6%で最も高く、次いで「道路が狭かった」が19.8%、「スピードを出し過ぎていた」が12.2%となっている。

年齢階層別でみると、「道路に段差があった」は75歳以上で67.9%と最も高く、次いで60～74歳で35.0%となっている。「スピードを出し過ぎていた」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。

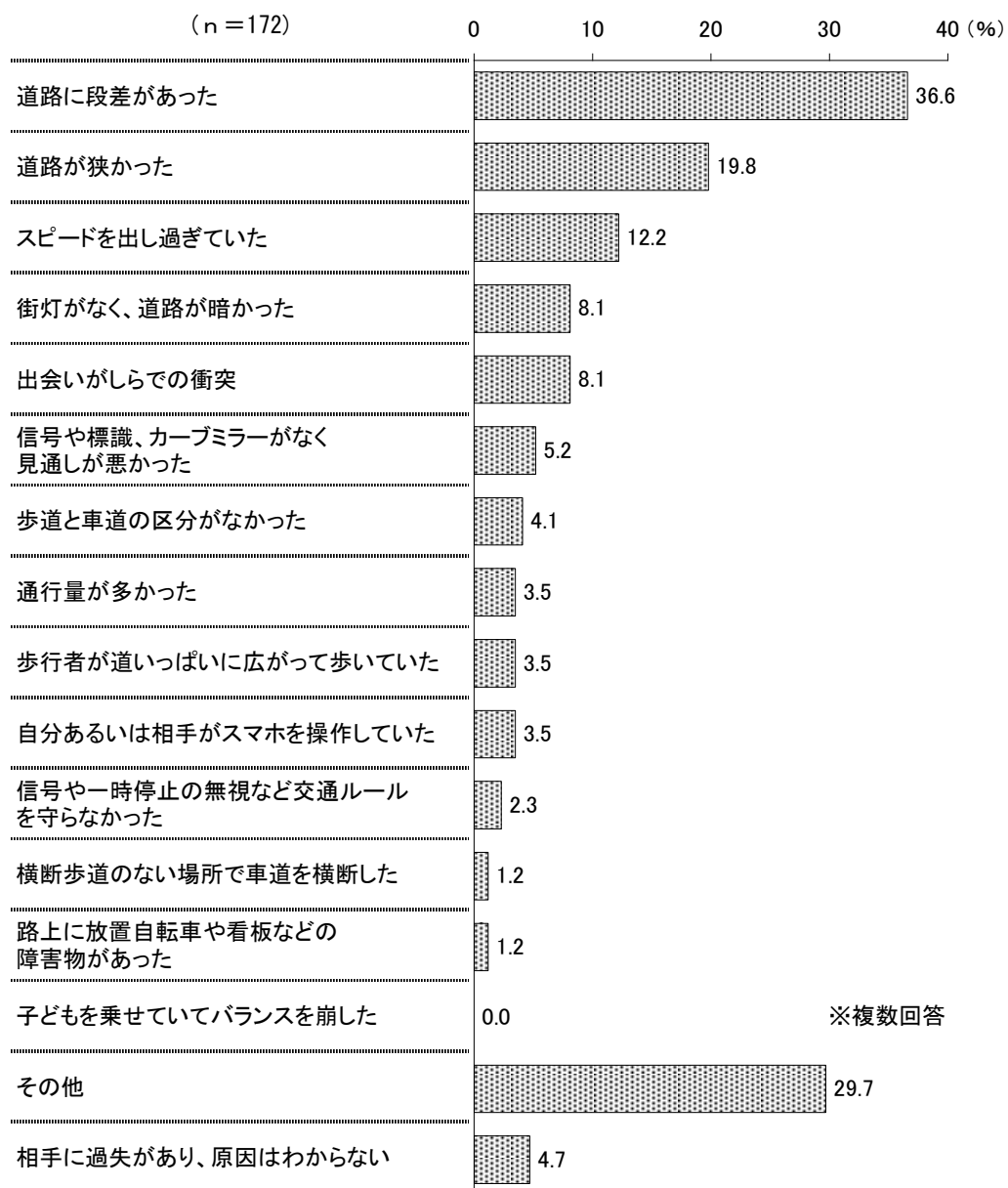
図表6-13 自転車利用時のけがや事故の状況



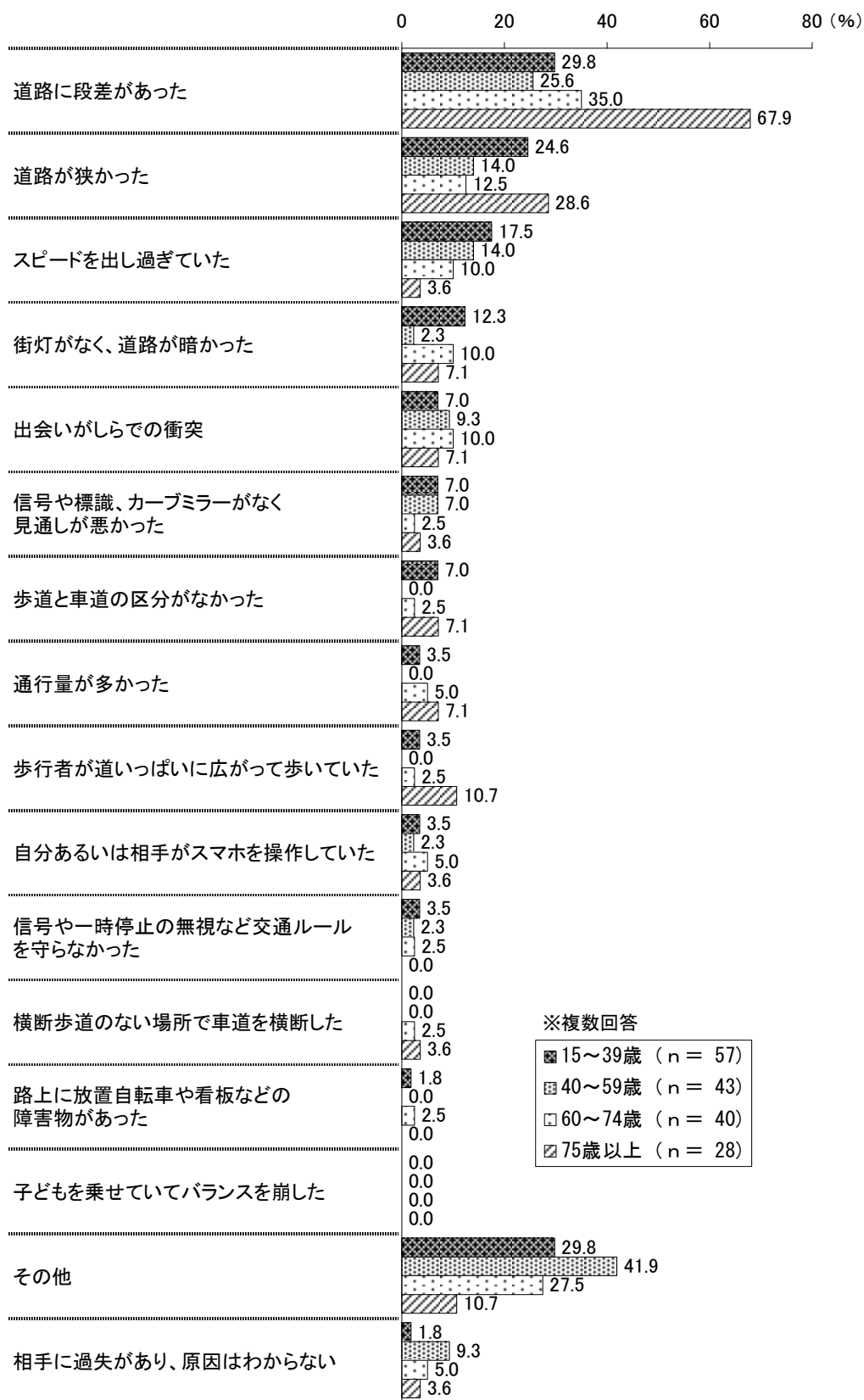
図表6-14 自転車利用時のけがや事故の状況（年齢階層別）



図表 6-15 自転車利用時のけがや事故がおきた原因



図表 6-16 自転車利用時のけがや事故がおきた原因（年齢階層別）



(8) 自転車利用時にけがをした体の箇所

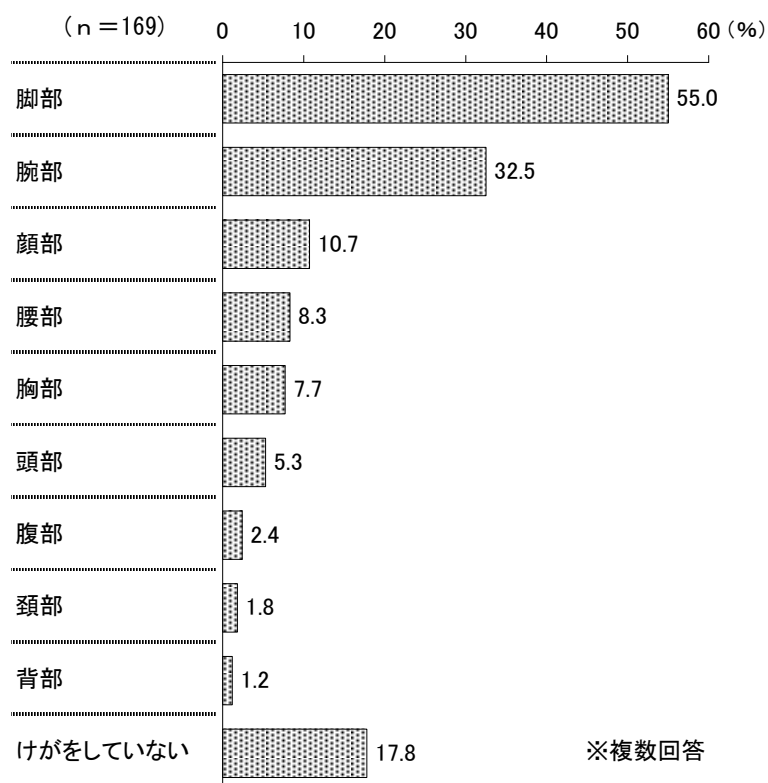
◇自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が55.0%で最も高い

自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が55.0%で最も高く、次いで「腕部」が32.5%、「顔部」が10.7%となっている。

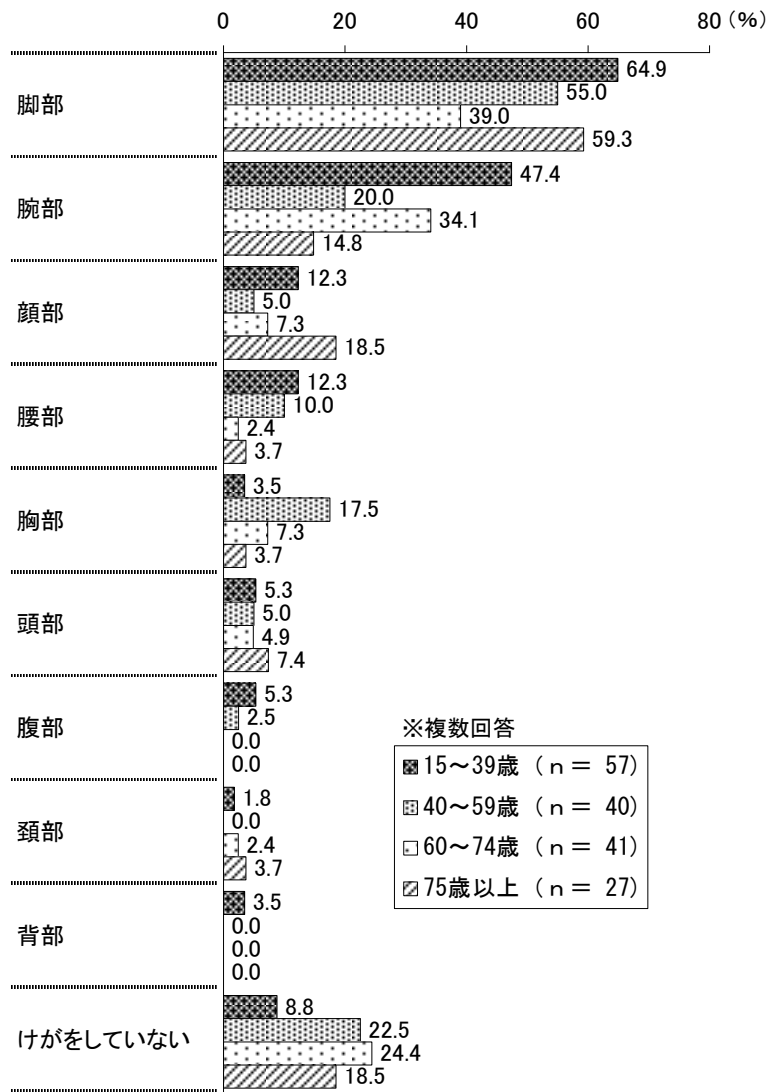
◇「脚部」は15～39歳で64.9%と最も高い

年齢階層別で見ると、自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が15～39歳で64.9%と最も高く、次いで75歳以上で59.3%となっている。「腕部」は15～39歳で47.4%と最も高く、次いで60～74歳で34.1%となっている。

図表6-17 自転車利用時にけがをした体の箇所



図表6-18 自転車利用時にけがをした体の箇所（年齢階層別）



(9) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること

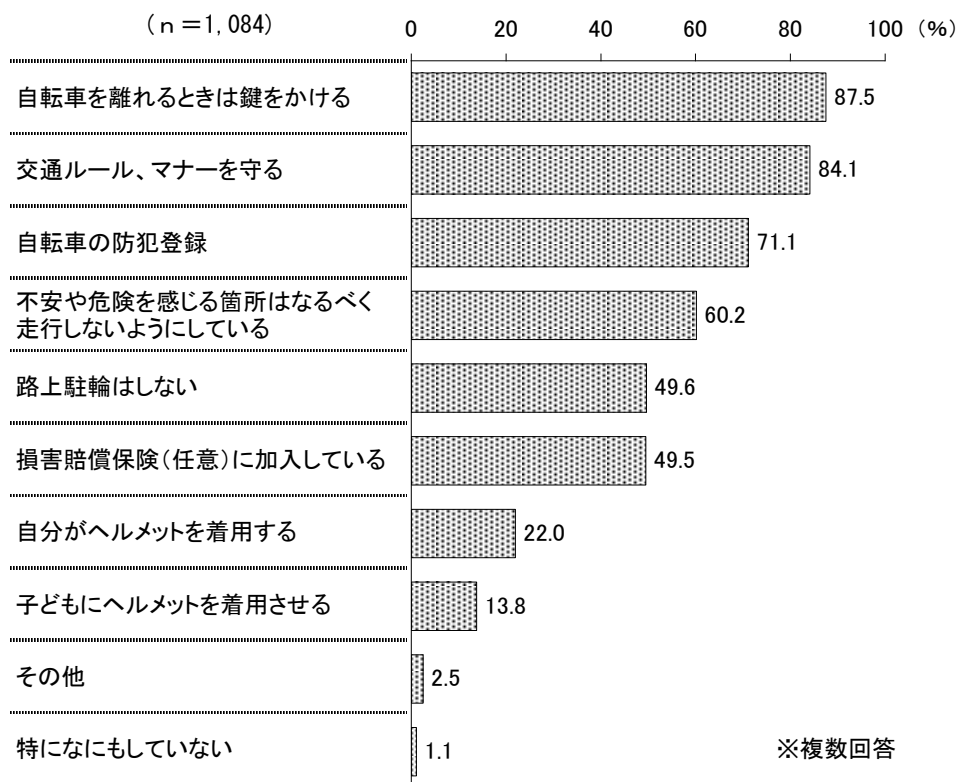
◇自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が87.5%で最も高い

自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が87.5%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が84.1%、「自転車の防犯登録」が71.1%となっている。

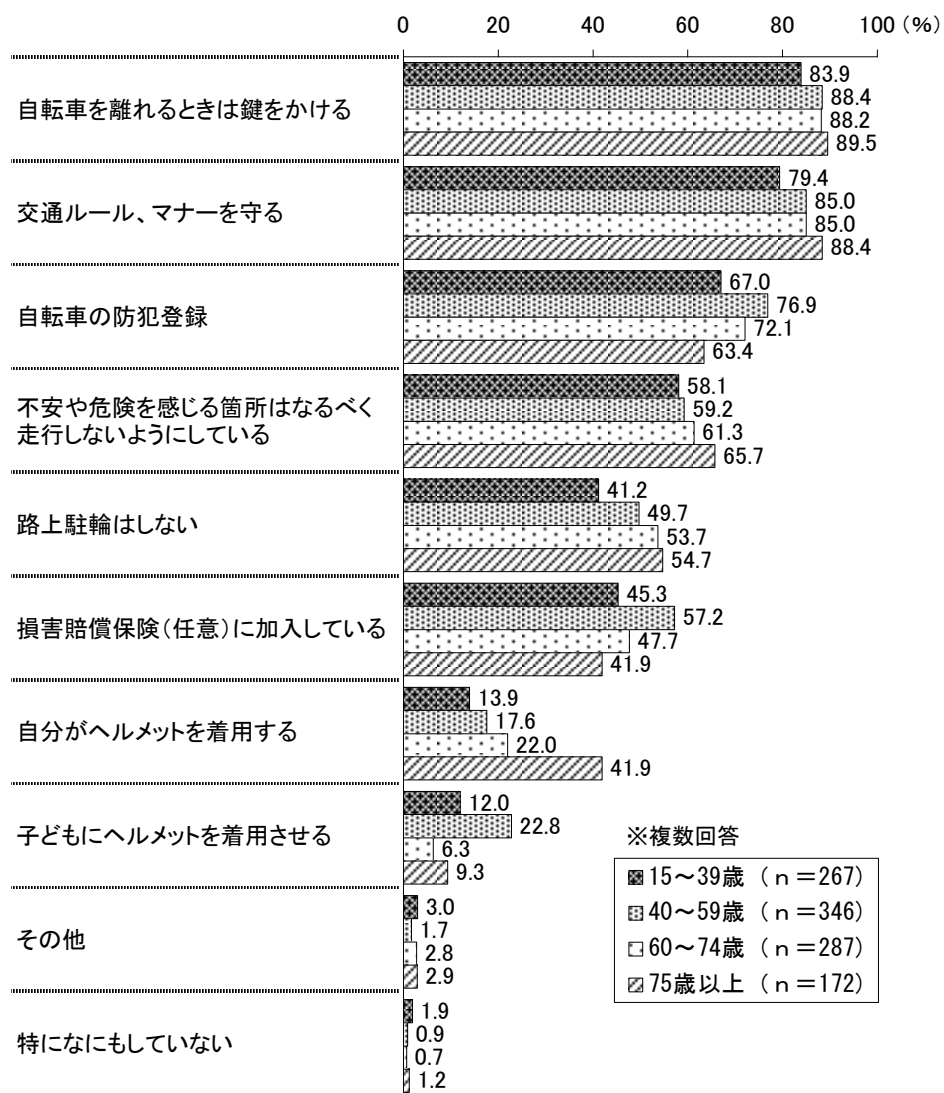
◇年齢層により、自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることの傾向が異なる

年齢階層別でみると、自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「不安や危険を感じる箇所はなるべく走行しないようにしている」、「路上駐輪はしない」、「自分がヘルメットを着用する」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

図表6-19 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること



図表6-20 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること（年齢階層別）

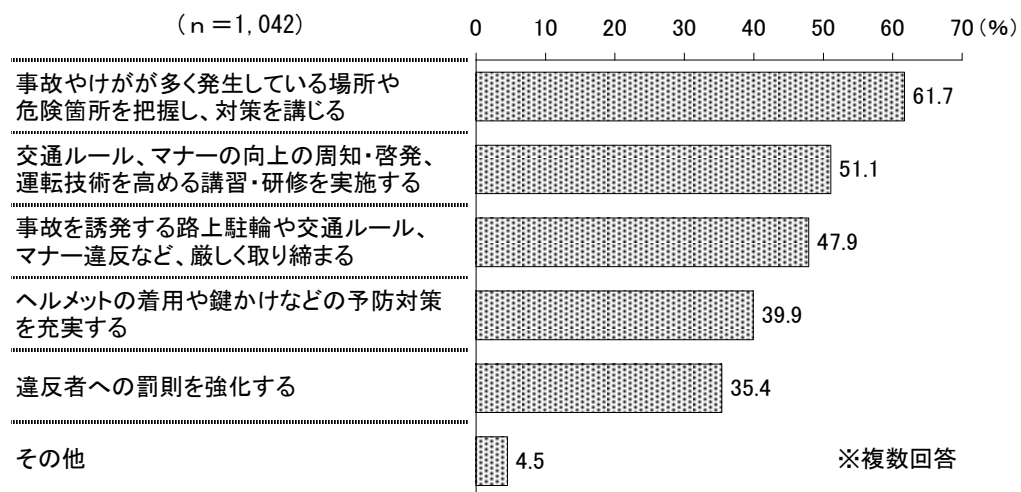


(10) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと

◇自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、対策を講じる」が61.7%で最も高い

自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、対策を講じる」が61.7%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が51.1%、「事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる」が47.9%となっている。

図表 6-21 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと



7. 災害についての意識

(1) 不安を感じる自然災害

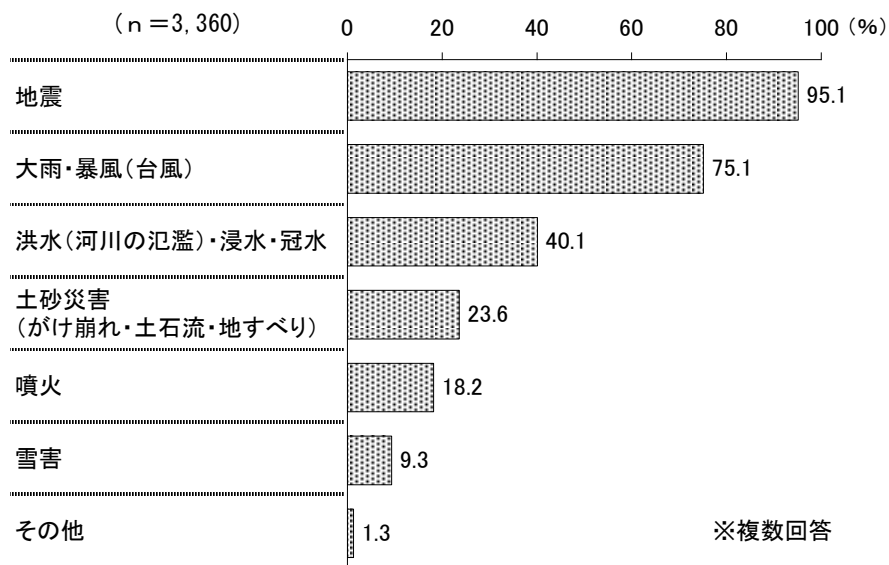
◇不安を感じる自然災害は、「地震」が95.1%で最も高い

不安を感じる自然災害は、「地震」が95.1%で最も高く、次いで「大雨・暴風（台風）」が75.1%、「洪水（河川の氾濫）・浸水・冠水」が40.1%となっている。

◇居住地区別では、「地震」は緑ヶ丘地区で100.0%と最も高く、「大雨・暴風（台風）」は依知南地区で83.9%と最も高い

居住地区別でみると、不安を感じる自然災害は、「地震」が緑ヶ丘地区で100.0%と最も高く、次いで睦合北地区で97.5%となっている。「大雨・暴風（台風）」は依知南地区で83.9%と最も高く、次いで玉川地区で81.7%となっている。「洪水（河川の氾濫）・浸水・冠水」は睦合南地区で71.2%と最も高く、次いで相川地区で69.9%となっている。

図表7-1 不安を感じる自然災害



図表 7-2 不安を感じる自然災害（居住地区別）

		※複数回答 (%)							
		n	地震	大雨・暴風 (台風)	洪水・冠水 (河川の氾濫)	土石流・地すべり (がけ崩れ)	噴火	雪害	その他
全 体		3,360	95.1	75.1	40.1	23.6	18.2	9.3	1.3
居 住 地 区 別	厚 木 北	356	94.4	69.7	54.5	13.5	16.3	5.3	1.7
	厚 木 南	345	95.4	73.3	58.6	9.6	14.5	7.0	1.4
	依 知 北	187	95.7	77.0	33.7	30.5	15.5	14.4	2.1
	依 知 南	143	92.3	83.9	46.2	23.8	21.7	11.2	0.7
	睦 合 北	120	97.5	74.2	36.7	25.8	19.2	21.7	0.8
	睦 合 南	215	90.7	73.5	71.2	8.4	16.3	5.6	0.5
	睦 合 西	102	97.1	77.5	55.9	17.6	14.7	4.9	1.0
	荻 野	352	94.9	77.8	23.0	38.6	16.5	13.9	1.4
	小 鮎	195	95.4	79.5	30.3	28.7	20.0	11.3	1.5
	南 毛 利	604	96.5	77.5	25.5	31.5	25.2	7.5	1.2
	南 毛 利 南	106	97.2	76.4	37.7	19.8	14.2	8.5	-
	玉 川	71	93.0	81.7	50.7	54.9	9.9	9.9	-
	森 の 里	136	97.1	74.3	13.2	40.4	18.4	9.6	0.7
	相 川	143	86.7	69.2	69.9	2.8	16.8	4.9	0.7
緑 ケ 丘	78	100.0	69.2	15.4	12.8	23.1	16.7	3.8	

(2) 重要だと思う災害時の対策や備え

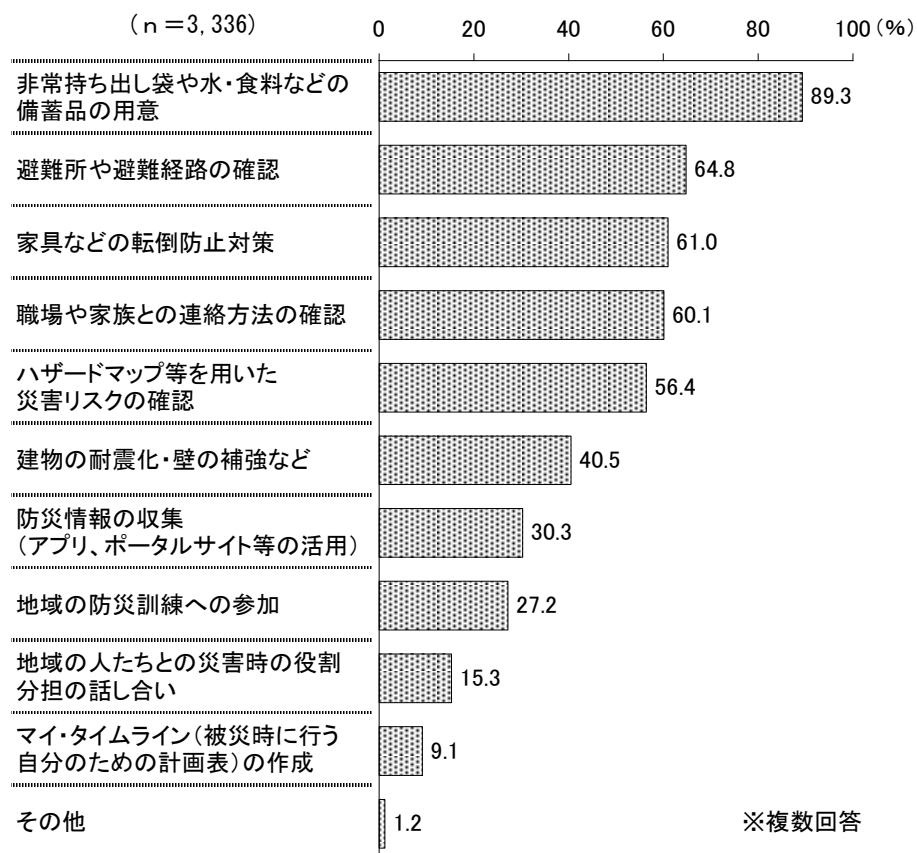
◇重要だと思う災害時の対策や備えは、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が89.3%で最も高い

重要だと思う災害時の対策や備えは、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が89.3%で最も高く、次いで「避難所や避難経路の確認」が64.8%、「家具などの転倒防止対策」が61.0%となっている。

◇居住地区別では、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」は緑ヶ丘地区で96.1%と最も高く、「避難所や避難経路の確認」は睦合北地区で75.2%と最も高い

居住地区別でみると、重要だと思う災害時の対策や備えは、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が緑ヶ丘地区で96.1%と最も高く、次いで睦合北地区で94.0%となっている。「避難所や避難経路の確認」は睦合北地区で75.2%と最も高く、次いで睦合西地区で69.9%となっている。「家具などの転倒防止対策」は森の里地区で71.5%と最も高く、次いで睦合西地区で68.0%となっている。

図表 7-3 重要だと思う災害時の対策や備え



図表7-4 重要だと思う災害時の対策や備え（居住地区別）

		※複数回答 (%)											
		n	非常持ち出し袋や水・食料などの 備蓄品の用意	避難所や避難経路の確認	家具などの転倒防止対策	職場や家族との連絡方法の確認	ハザードマップ等を用いた災害リ スクの確認	建物の耐震化・壁の補強など	防災情報の収集（アプリ、ポータ ルサイト等の活用）	地域の防災訓練への参加	地域の話し合い	マイ・タイムライン（被災時に行 う自分のための計画表）の作成	その他
全 体		3,336	89.3	64.8	61.0	60.1	56.4	40.5	30.3	27.2	15.3	9.1	1.2
居 住 地 区 別	厚 木 北	351	88.0	63.2	57.3	59.0	54.4	37.9	28.5	17.9	13.7	7.1	1.4
	厚 木 南	347	88.5	62.5	59.1	62.0	56.2	35.4	31.1	21.0	14.1	9.2	1.4
	依 知 北	187	87.2	63.6	67.4	58.8	55.6	50.8	33.7	33.2	15.0	10.2	1.6
	依 知 南	143	92.3	69.2	65.7	61.5	68.5	45.5	33.6	30.1	14.7	14.0	-
	睦 合 北	117	94.0	75.2	60.7	67.5	55.6	42.7	33.3	30.8	18.8	12.0	-
	睦 合 南	220	82.3	62.7	57.3	60.5	60.9	39.5	36.4	28.2	11.4	7.3	2.7
	睦 合 西	103	92.2	69.9	68.0	62.1	59.2	44.7	32.0	23.3	12.6	14.6	-
	荻 野	342	85.7	60.2	60.8	54.7	54.7	38.9	24.6	27.5	13.7	6.1	1.2
	小 鮎	190	93.2	62.1	59.5	64.2	46.8	41.1	31.6	32.6	14.7	7.4	-
	南 毛 利	603	92.7	69.8	64.3	62.9	59.4	42.1	30.5	28.2	16.6	9.3	1.7
	南 毛 利 南	105	92.4	68.6	62.9	55.2	60.0	33.3	27.6	31.4	21.9	8.6	1.0
	玉 川	73	86.3	65.8	56.2	61.6	49.3	43.8	32.9	37.0	26.0	19.2	1.4
	森 の 里	137	89.1	61.3	71.5	60.6	54.0	44.5	32.8	31.4	16.1	9.5	0.7
	相 川	142	88.7	67.6	50.7	60.6	53.5	39.4	25.4	29.6	16.2	4.2	0.7
緑 ケ 丘	76	96.1	55.3	59.2	56.6	48.7	42.1	23.7	30.3	10.5	3.9	-	

(3) 実践している災害対策

◇実践している災害対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が66.9%で最も高い

実践している災害対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が66.9%で最も高く、次いで「避難所や避難経路の確認」が45.2%、「家具などの転倒防止対策」が43.1%となっている。

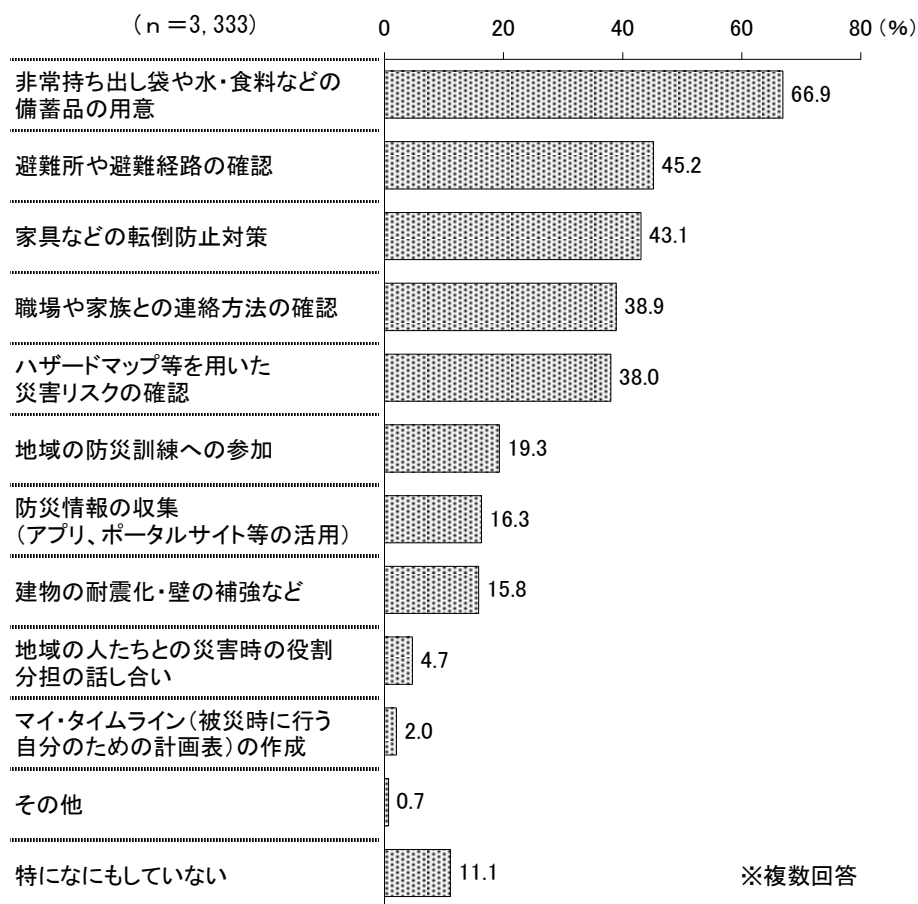
◇居住地区別では、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」は睦合北地区で77.3%と最も高く、「家具などの転倒防止対策」は森の里地区で55.1%と最も高い

居住地区別でみると、実践している災害対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が睦合北地区で77.3%と最も高く、次いで森の里地区で75.7%となっている。「避難所や避難経路の確認」は睦合西地区で52.4%と最も高く、次いで相川地区で52.1%となっている。「家具などの転倒防止対策」は森の里地区で55.1%と最も高く、次いで緑ヶ丘地区で51.3%となっている。

◇災害時の対策や備えとして重要だと思うが、実践していない災害対策は、「建物の耐震化・壁の補強など」が36.4%で最も高い

災害時の対策や備えとして重要だと思うが、実践していない災害対策は、「建物の耐震化・壁の補強など」が36.4%で最も高く、次いで「職場や家族との連絡方法の確認」が33.5%、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が32.4%となっている。

図表7-5 実践している災害対策

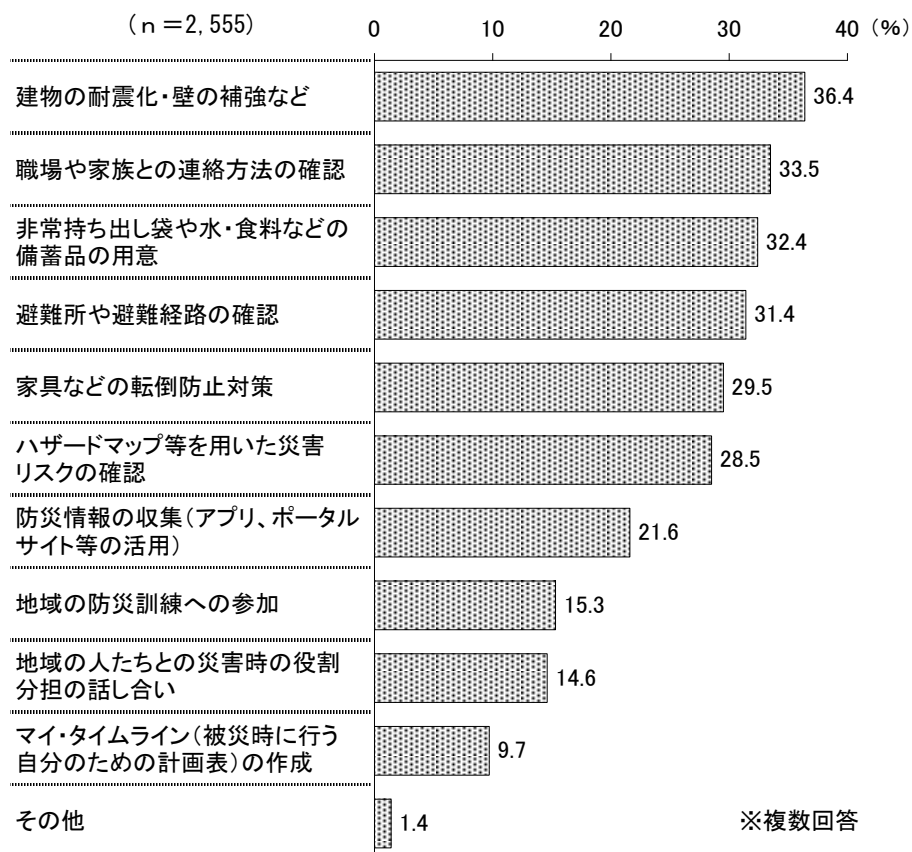


図表7-6 実践している災害対策（居住地区別）

※複数回答（％）

		n	非常持ち出し袋や水・食料などの 備蓄品の用意	避難所や避難経路の確認	家具などの転倒防止対策	職場や家族との連絡方法の確認	ハザードマップ等を用いた災害リ スクの確認	地域の防災訓練への参加	防災情報の収集（アプリ、ポータ ルサイト等の活用）	建物の耐震化・壁の補強など	地域の話し合い	マイ・タイムライン（被災時に行 う自分のための計画表）の作成	その他	特になにもしていない
全 体		3,333	66.9	45.2	43.1	38.9	38.0	19.3	16.3	15.8	4.7	2.0	0.7	11.1
居 住 地 区 別	厚 木 北	349	66.5	42.4	42.7	37.0	38.7	10.0	17.8	12.9	3.4	1.7	0.9	12.9
	厚 木 南	345	66.4	42.3	42.9	42.3	39.4	12.2	18.8	15.4	3.8	2.0	0.6	12.2
	依 知 北	189	63.5	46.0	40.2	38.6	37.6	24.3	15.3	22.2	4.8	1.1	0.5	12.2
	依 知 南	141	63.1	44.0	46.8	36.9	39.7	16.3	19.1	19.1	5.7	4.3	1.4	8.5
	睦 合 北	119	77.3	47.1	41.2	42.9	31.1	19.3	10.9	19.3	3.4	5.0	0.8	6.7
	睦 合 南	217	62.7	50.2	37.8	35.5	41.5	24.0	18.4	10.6	3.7	1.8	1.4	10.6
	睦 合 西	103	74.8	52.4	44.7	41.7	43.7	12.6	15.5	18.4	3.9	4.9	-	8.7
	荻 野	344	62.5	41.6	39.8	32.6	35.5	22.7	11.9	15.4	4.7	0.9	0.6	13.4
	小 鮎	193	71.0	44.6	46.1	39.9	33.2	28.5	21.8	21.2	8.3	2.6	0.5	10.9
	南 毛 利	600	69.3	49.3	47.8	42.2	40.3	18.5	16.8	16.8	4.2	1.3	0.3	9.0
	南 毛 利 南	106	71.7	44.3	44.3	39.6	36.8	30.2	10.4	14.2	7.5	0.9	-	15.1
	玉 川	73	65.8	43.8	38.4	41.1	35.6	28.8	21.9	13.7	5.5	1.4	-	6.8
	森 の 里	136	75.7	44.1	55.1	37.5	37.5	22.1	11.8	16.2	5.9	2.9	1.5	5.9
	相 川	140	56.4	52.1	36.4	42.9	41.4	18.6	15.0	12.9	7.1	-	-	13.6
緑 ケ 丘	76	72.4	38.2	51.3	34.2	30.3	21.1	13.2	11.8	1.3	-	-	9.2	

図表 7-7 災害時の対策や備えとして重要だと思うが、実践していない災害対策



(4) 飲料水・食料の備蓄量

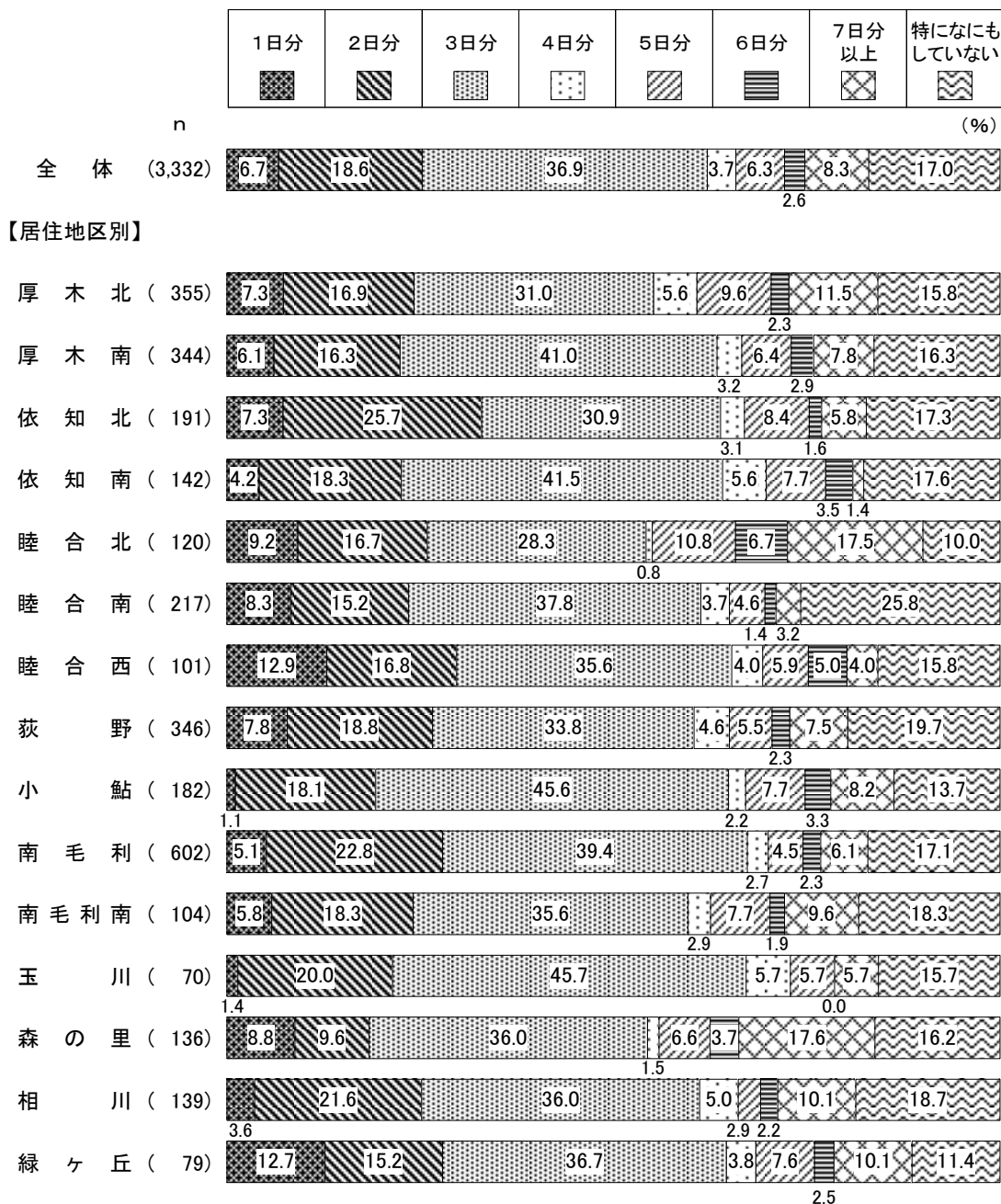
◇飲料水・食料の備蓄量は、「3日分」が36.9%で最も高い

飲料水・食料の備蓄量は、「3日分」が36.9%で最も高く、次いで「2日分」が18.6%となっており、備蓄している人の割合は83.0%となっている。

◇居住地区別では、「7日分以上」は森の里地区で17.6%と最も高い

居住地区別でみると、飲料水・食料を7日分以上備蓄しているのは、森の里地区で17.6%と最も高く、次いで睦合北地区で17.5%となっている。一方、「特になにもしていない」は睦合南地区で25.8%と最も高く、次いで荻野地区で19.7%となっている。

図表7-8 飲料水・食料の備蓄量（居住地区別）



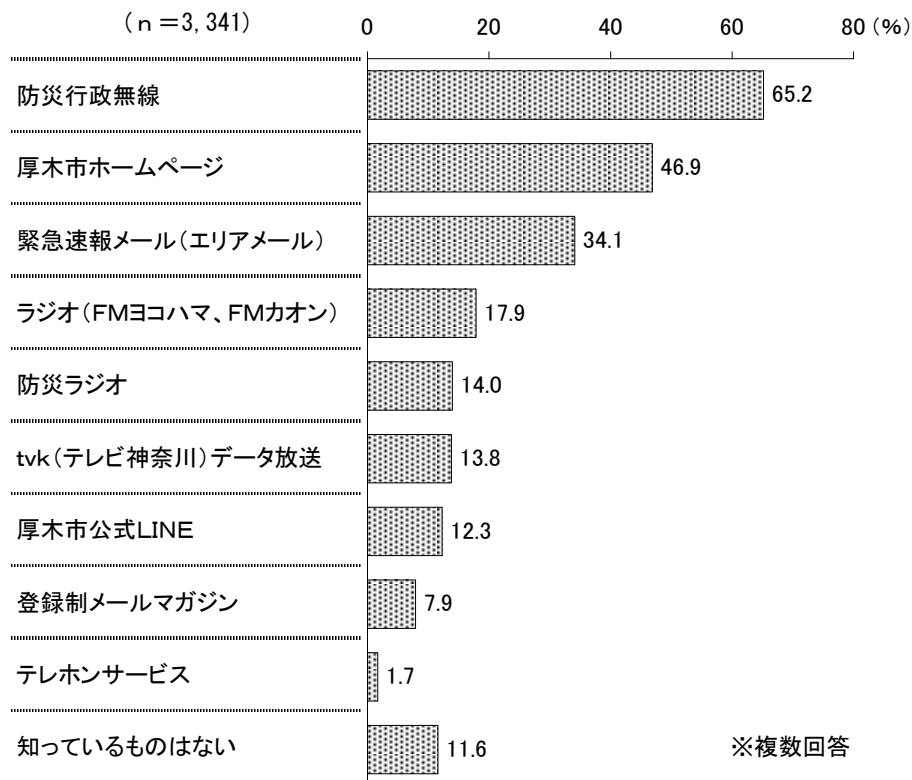
(5) 市が発信している災害情報の認知状況

◇市が発信している災害情報の認知状況は、「防災行政無線」が65.2%で最も高い

市が発信している災害情報の認知状況は、「防災行政無線」が65.2%で最も高く、次いで「厚木市ホームページ」が46.9%、「緊急速報メール（エリアメール）」が34.1%となっている。

年齢階層別でみると、「防災行政無線」は60～74歳で76.0%と最も高くなっている。「防災ラジオ」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。一方、「知っているものはない」は15～39歳で22.0%と最も高くなっている。

図表7-9 市が発信している災害情報の認知状況



図表7-10 市が発信している災害情報の認知状況（年齢階層別）

年齢階層別	n	※複数回答 (%)									
		防災行政無線	厚木市ホームページ	緊急速報メール(エリアメール)	ラジオ(FMヨコハマ、FMカオン)	防災ラジオ	tvk(テレビ神奈川)データ放送	厚木市公式LINE	登録制メールマガジン	テレホンサービス	知っているものはない
全体	3,341	65.2	46.9	34.1	17.9	14.0	13.8	12.3	7.9	1.7	11.6
15～39歳	635	44.1	43.9	29.3	18.6	8.3	12.9	11.8	6.3	0.9	22.0
40～59歳	1,009	63.4	56.1	42.0	20.4	11.1	12.7	15.9	12.9	1.3	9.9
60～74歳	962	76.0	49.0	36.7	18.7	17.0	13.9	13.4	7.3	2.2	6.2
75歳以上	720	71.8	33.9	23.9	12.6	19.2	16.1	6.3	3.2	2.2	11.8

8. 「セーフコミュニティ」の認知状況

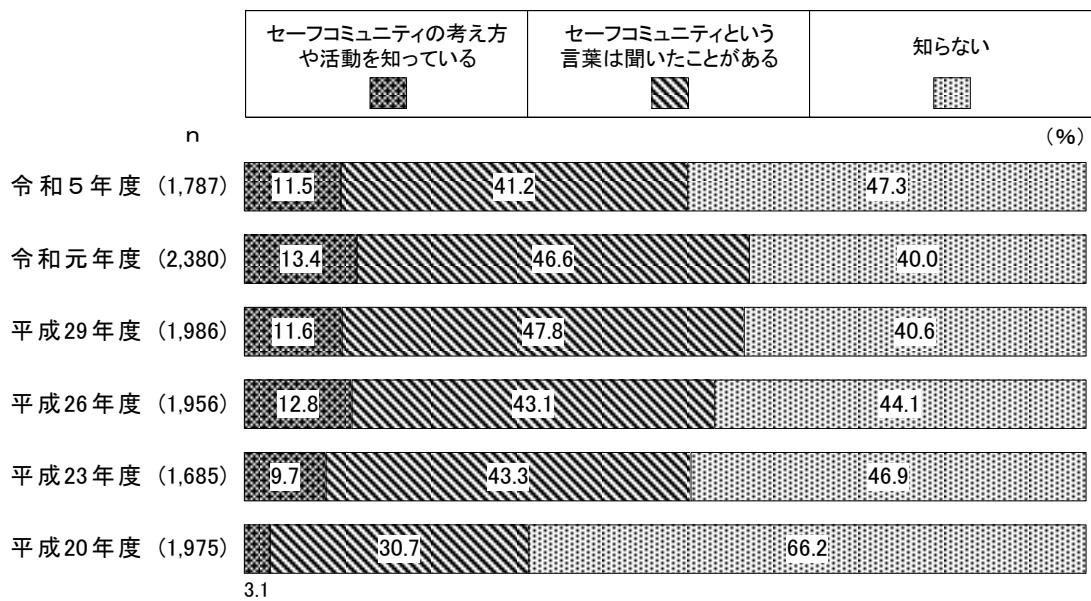
(1) 市のセーフコミュニティの取組の認知状況

◇「セーフコミュニティ」の認知度は52.7%、令和元年度調査より7.3ポイント減少

市のセーフコミュニティの取組の認知状況は、「セーフコミュニティの考え方や活動を知っている」が11.5%、「セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」は41.2%となっており、認知度は52.7%となっている。

過年度調査と比較すると、「知らない」は令和元年度調査より7.3ポイント増加している。

図表8-1 市のセーフコミュニティの取組の認知状況（経年比較）



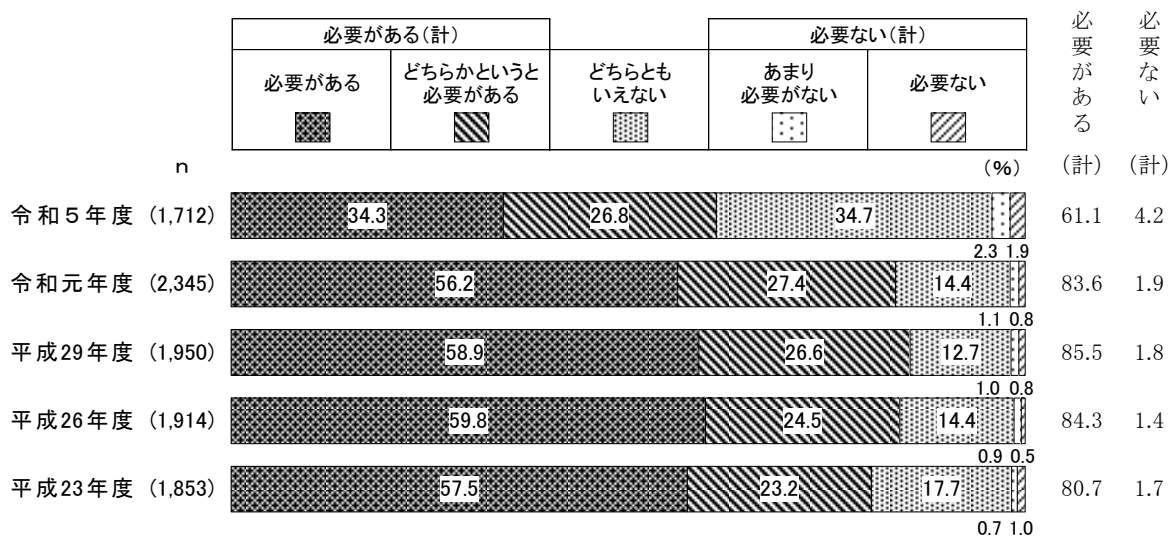
(2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識

◇今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、『必要がある(計)』は61.1%

今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」(34.3%)と「どちらかという必要がある」(26.8%)を合わせた『必要がある(計)』は61.1%となっている。一方、「あまり必要がない」(2.3%)と「必要ない」(1.9%)を合わせた『必要ない(計)』は4.2%となっている。また、「どちらともいえない」は34.7%となっている。

過年度調査との比較は、設問文が異なるため参考に図示する。

図表8-2 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識(経年比較)



※設問文「あなたは、セーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。」は、令和元年度までは「市や行政などが協働して、安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。」となっていた

9. 市民生活の安心・安全に関する意識

(1) 居住地域の安心・安全に関する意識

◇居住地域が安心・安全かどうかについて、安心・安全だと思う人の割合は67.6%

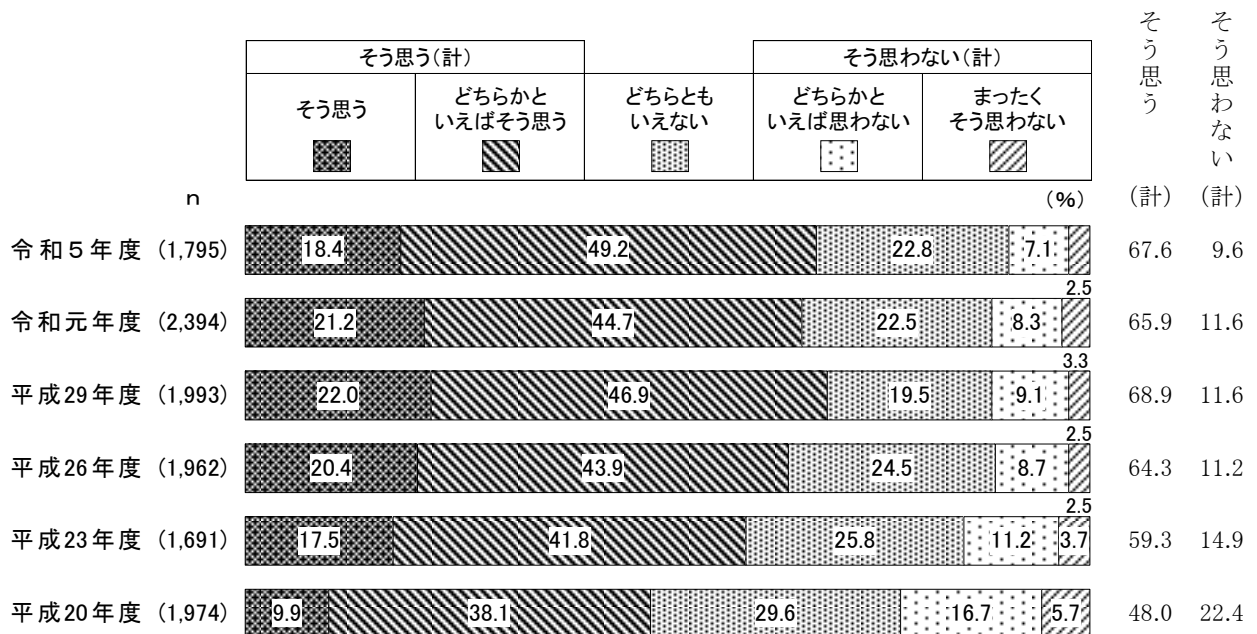
居住地域が安心・安全かどうかについて、「そう思う」(18.4%)と「どちらかといえばそう思う」(49.2%)を合わせた『そう思う(計)』は67.6%となっている。一方、「どちらかといえば思わない」(7.1%)と「まったく思わない」(2.5%)を合わせた『思わない(計)』は9.6%となっている。また、「どちらともいえない」は22.8%となっている。

過年度調査と比較すると、『思わない』(計)は令和元年度調査より2.0ポイント減少している。

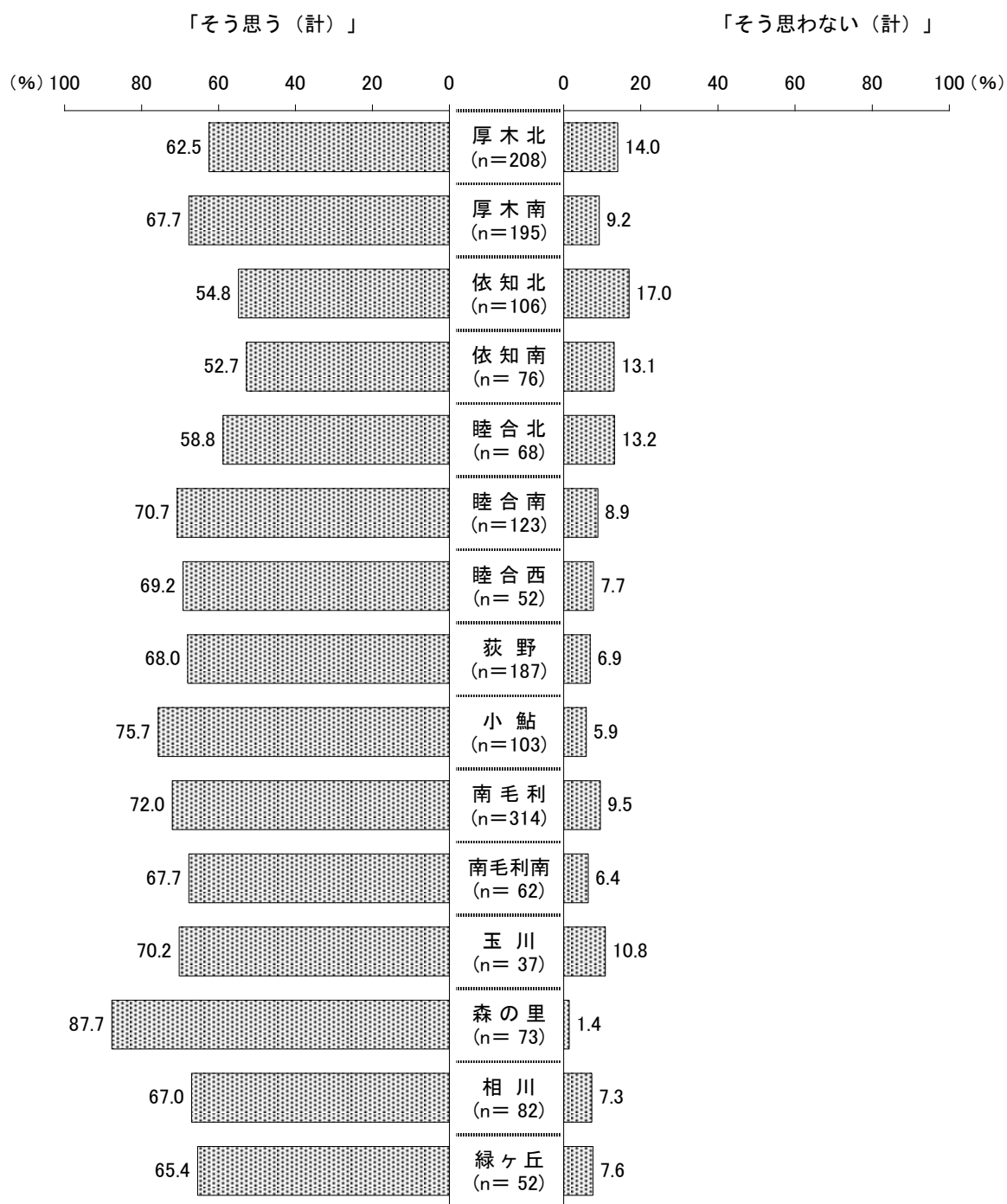
◇居住地区別では、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で87.7%と最も高い

居住地区別でみると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で87.7%と最も高く、次いで小鮎地区で75.7%、南毛利地区で72.0%となっている。

図表9-1 居住地域の安心・安全に関する意識(経年比較)



図表9-2 居住地域の安心・安全に関する意識（居住地区別）



(2) 近所付き合いの状況

◇現在の近所付き合いの状況は、ある程度の近所付き合いのある人の割合が55.8%

近所付き合いは、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が44.2%で最も高く、これに「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」(11.6%)を合わせた、ある程度の近所付き合いのある人の割合は55.8%となっている。

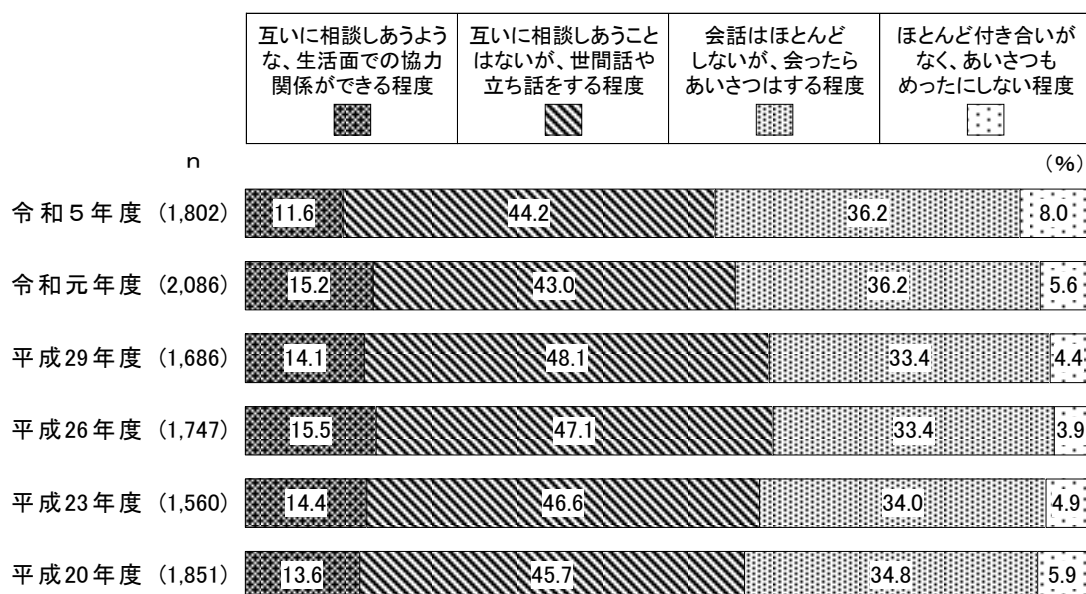
過年度調査と比較すると、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は令和元年度調査より3.6ポイント減少している。

◇居住地域別でみると、ある程度の近所付き合いのある人の割合は、玉川地区で75.7%と最も高い

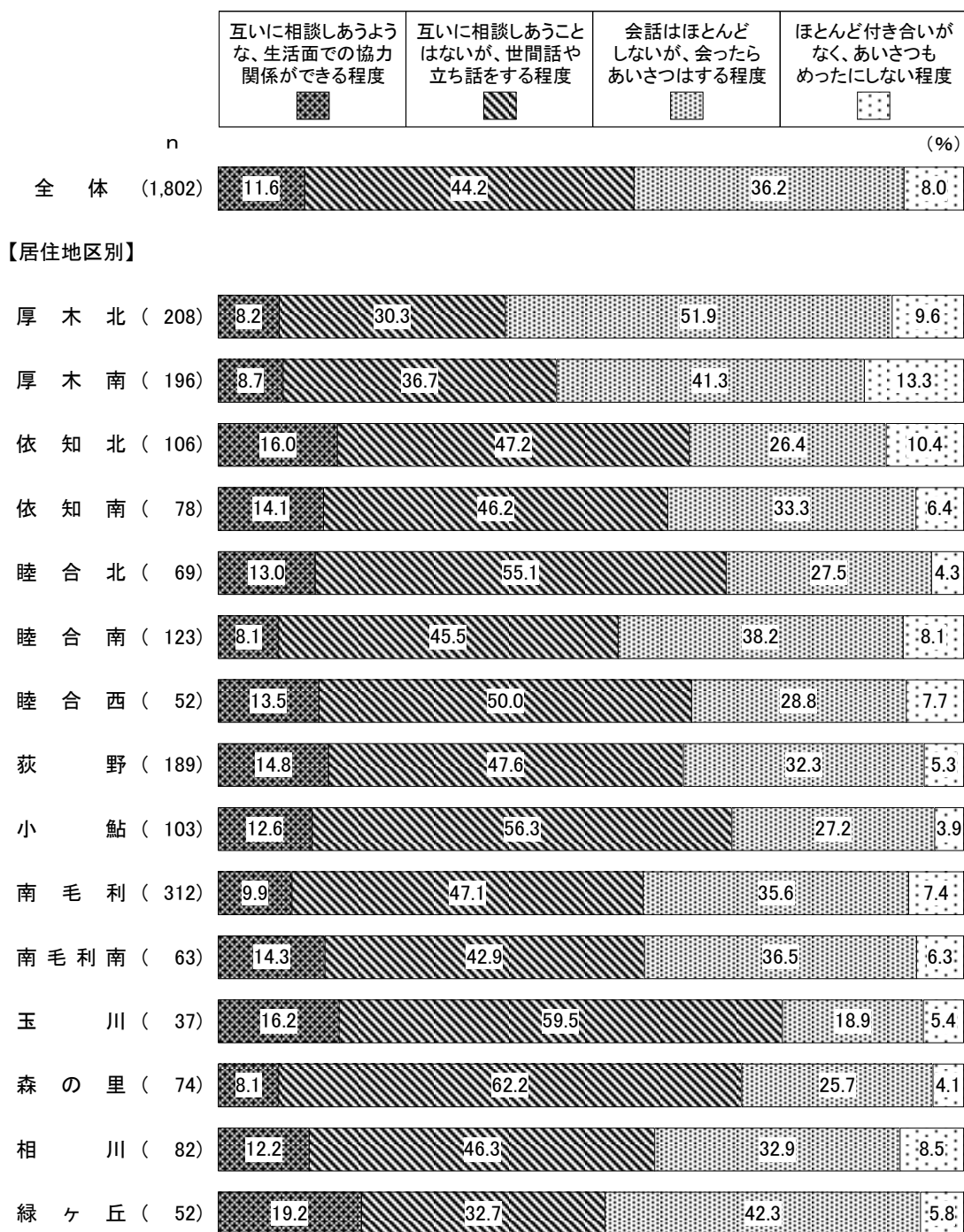
居住地区別でみると、ある程度の近所付き合いのある人の割合は、玉川地区で75.7%と最も高く、次いで森の里地区で70.3%となっている。

◇居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、より親密な近所付き合いのある人は、居住地域が安心・安全だと思う割合が高い

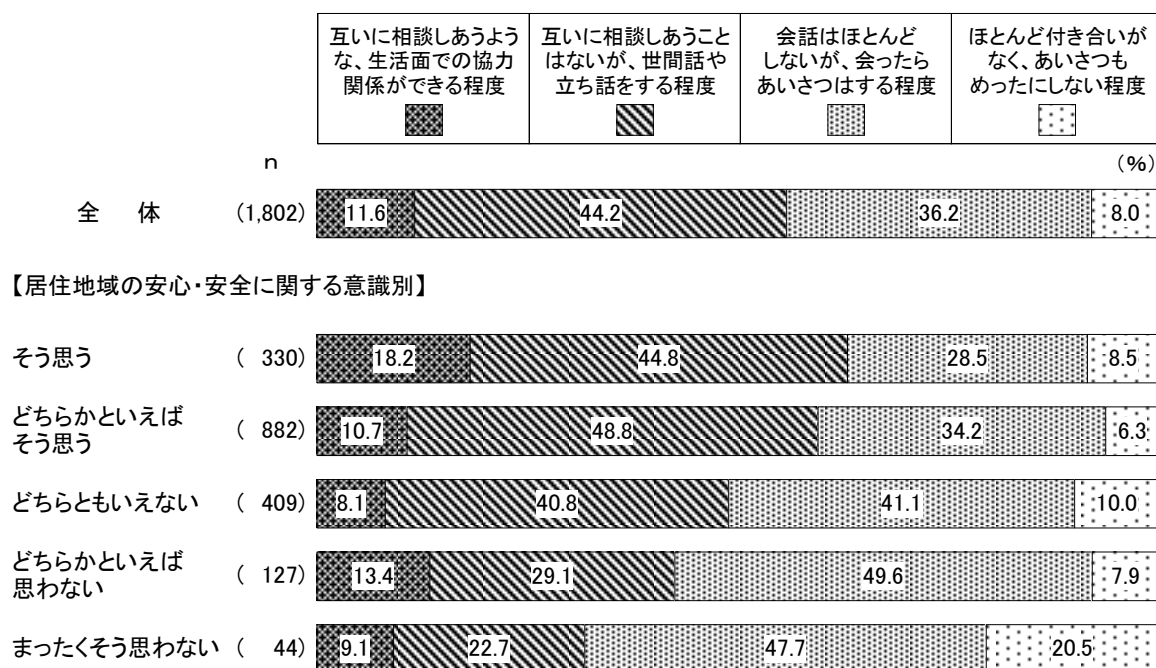
図表9-3 近所付き合いの状況（経年比較）



図表9-4 近所付き合いの状況（居住地区別）



図表 9-5 近所付き合いの状況（居住地域の安心・安全に関する意識別）



Ⅲ 調査票と集計結果

世帯票

世帯を代表される方、どなたかお一人の方が、世帯を代表してご記入ください。

あなたの世帯についてお聞きします

- 問1. お住まいの地区は、次のどこですか。(1つに○) n=1,751
- | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. 厚木北 (11.9) | 2. 厚木南(11.3) | 3. 依知北(6.1) | 4. 依知南(4.5) | 5. 睦合北(3.9) |
| 6. 睦合南 (7.1) | 7. 睦合西(3.0) | 8. 荻野 (10.9) | 9. 小鮎 (5.9) | 10. 南毛利(17.9) |
| 11. 南毛利南(3.6) | 12. 玉川 (2.1) | 13. 森の里(4.2) | 14. 相川 (4.7) | 15. 緑ヶ丘(3.0) |

- 問2. 現在のお住まいに住んで何年になりますか。(1つに○) n=1,796
- | | | |
|---------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 1年未満 (3.6) | 2. 1年以上5年未満 (12.1) | 3. 5年以上10年未満 (9.5) |
| 4. 10年以上15年未満 (9.2) | 5. 15年以上20年未満(9.2) | 6. 20年以上 (56.3) |

- 問3. 現在、一緒に暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。

自分も含めて 人

ご家族のうち、過去1年の間にけがをした方は何人いますか。

自分も含めて 人

- 問4. あなたのお住まいの種類は次のうちどれですか。(1つに○) n=1,794
- | | | |
|---------------|----------------|------------------|
| 1. 戸建て (62.0) | 2. 集合住宅 (37.1) | 3. その他 () (0.9) |
|---------------|----------------|------------------|

セーフコミュニティについてお聞きします

- 問5. あなたは、厚木市のセーフコミュニティの取組をご存知ですか。(1つに○) n=1,787
- | |
|-----------------------------------|
| 1. セーフコミュニティの考え方や活動を知っている (11.5) |
| 2. セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある (41.2) |
| 3. 知らない (47.3) |

- 問6. あなたは、セーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。(1つに○) n=1,712

- | | | |
|---------------------|------------------------|---------------|
| 1. 必要がある (34.3) | 2. どちらかという必要がある (26.8) | |
| 3. どちらともいえない (34.7) | 4. あまり必要がない (2.3) | 5. 必要ない (1.9) |

厚木市での暮らしについてお聞きします

- 問7. あなたのお住まいの地区は、安心して安全だと思えますか。(1つに○) n=1,795
- | | | |
|-----------------------|------------------------|---------------------|
| 1. そう思う (18.4) | 2. どちらかといえばそう思う (49.2) | 3. どちらともいえない (22.8) |
| 4. どちらかといえば思わない (7.1) | 5. まったくそう思わない (2.5) | |

- 問8. あなたは、ご近所の方とどの程度お付き合いがありますか。(1つに○) n=1,802
- | |
|---------------------------------------|
| 1. 互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度 (11.6) |
| 2. 互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度 (44.2) |
| 3. 会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度 (36.2) |
| 4. ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度 (8.0) |

個人票

15 歳以上の方お一人ずつご記入ください。世帯票を記入された方もご記入ください。

事故やけがについてお聞きします

問 1. **自宅以外での**、事故やけがの状況についてお聞きします。

1-1. 過去 1 年の間に自宅以外でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に○あるいは数字を記入) n=3, 347

	該当するものに○	けがをした回数
1. けがはしていない	86.3	
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	6.7	回
3. けがをして、医療機関に通院した	6.7	回
4. けがをして、医療機関に入院した	1.0	回

1-2. 1-1 で、過去 1 年の間に自宅以外で「けがをした」と回答した方にお聞きします。

けがをした原因はなんですか。(当てはまるものすべてに○) n=436

1. 交通事故 (6.2) 2. 転倒 (42.9) 3. 転落 (3.7)
 4. ぶつかる・打撲 (25.0) 5. 切傷・刺傷 (24.5) 6. 挟まれ・加圧 (4.6)
 7. 虫刺、咬傷(ハチ、動物など) (8.0) 8. その他 () (11.9)

1-3. 1-1 の「過去 1 年の間に自宅以外でけがをした」場所はどこですか。

(当てはまるものすべてに○) n=417

1. 道路・歩道 (41.0) 2. 学校 (7.7) 3. 勤務先 (26.9) 4. 農地・林地 (4.3)
 5. 公園 (3.1) 6. 駅 (1.4) 7. 商業・飲食・娯楽施設 (5.3)
 8. スポーツ施設(7.9) 9. その他 () (13.7)

問 2. **自宅での**、事故やけがの状況についてお聞きします。

2-1. 過去 1 年の間に自宅でけがをして手当てを受けたことがありますか。複数回ある場合は、一番大きなけがをした場合について、お答えください。(1つに○) n=2, 454

1. けがはしていない ⇒ 問 3 へ (86.5)
 2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった ⇒ 2-2 へ (8.3)
 3. けがをして、医療機関に通院した ⇒ 2-2 へ (4.7)
 4. けがをして、医療機関に入院した ⇒ 2-2 へ (0.5)

2-2. 2-1 で、過去 1 年の間に自宅で「けがをした」と回答した方にお聞きします。一番大きなけがをした原因はなんですか。(1つに○) n=321

1. 転倒 (25.2) 2. 転落 (4.7) 3. ぶつかる・打撲 (20.6) 4. 切傷・刺傷 (29.6)
 5. 挟まれ・加圧 (1.9) 6. 火傷 (8.7) 7. 異物誤飲 (-)
 8. その他 () (9.3)

2-3. 「過去 1 年の間に自宅で一番大きなけがをした」場所はどこですか。(1つに○) n=297

1. 居室 (27.6) 2. 廊下 (3.4) 3. 階段 (8.8) 4. トイレ (0.3)
 5. 浴室 (4.7) 6. 台所 (31.0) 7. 庭 (14.8) 8. その他 () (9.4)

犯罪被害や不安などについてお聞きします

問3. あなたは厚木市の治安について、1年前と比べてよくなったと思いますか、悪くなったと思いますか。(1つに○) n=3, 126

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 良くなった | (6.0) |
| 2. どちらかというよくなった | (48.7) |
| 3. どちらかというよ悪くなった | (40.0) |
| 4. 悪くなった | (5.3) |

問4. 問3の回答のように感じる地域は、次のどこですか。(当てはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------|
| | n=3, 066 |
| 1. 本厚木駅周辺 | (62.0) |
| 2. 愛甲石田駅周辺 | (6.3) |
| 3. 自宅周辺 | (42.4) |
| 4. その他(具体的に: _____) | (3.9) |

問5. あなたは、日頃、ご自身やご家族が犯罪被害などにあうのではないかと不安をどの程度感じていますか。(ア～タのそれぞれについて、1～3の番号のうち1つに○) なお、該当しない場合(自転車、パソコンを持っていない、子どもはいない等)は、「4」に○をつけてください。

項目	n	かなり不安	やや不安	不安はない	該当しない
ア. 暴行や傷害などの暴力的な犯罪にあう不安	3, 176	7.9	52.0	40.1	/
イ. 自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安	3, 255	17.2	59.9	22.9	/
ウ. ひったくりにあう不安	3, 198	8.9	50.4	40.7	/
エ. 自転車を盗まれる不安	3, 256	10.3	30.3	23.1	36.3
オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安	3, 241	9.8	38.1	25.8	26.3
カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安	3, 243	10.1	42.1	25.3	22.5
キ. 痴漢にあう不安	3, 130	6.9	30.7	62.4	/
ク. 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安	3, 238	15.2	46.4	38.4	/
ケ. 自宅や自動車などが落書きをされたり、壊されたりする不安	3, 186	9.8	44.4	45.8	/
コ. 不審者に声をかけられるなどの不安	3, 185	9.4	45.5	45.1	/
サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安	3, 222	9.6	24.7	18.1	47.6

項目	n	かなり不安	やや不安	不安はない	該当しない
シ. 人につきまとわれたり、のぞかれたりする不安	3,196	8.1	43.9	48.0	
ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安	3,287	19.8	44.8	20.9	14.5
セ. 凶悪犯罪(殺人、放火、強盗、強姦)にまきこまれる不安	3,211	9.3	49.9	40.8	
ソ. いやがらせやいたずらなどをされる不安	3,211	9.3	51.0	39.7	
タ. その他 ()	639	8.5	12.8	78.7	

問6. あなたがお住まいの地区の状況について、不安に感じることはありますか。(当てはまるものすべてに○) n=2,910

1. 空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある (8.6)
2. 繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く (15.4)
3. 夜、街灯が暗いところがある (51.6)
4. 木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある (34.1)
5. 人通りの少ない道 (51.5)
6. スプレーによる落書きがある (8.4)
7. ごみやタバコの吸殻が散乱している (22.0)
8. 路上への違法駐車や放置自転車がある (15.2)
9. 少年などのたむろ、たまり場がある (10.7)
10. 近所づきあいのない人がいる (21.1)
11. ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がいる (35.6)
12. 近所にトラブルを起こす人がいる (8.0)
13. その他の不安(具体的に) (6.4)

問7. あなたは、犯罪被害に巻き込まれないために、どのような対策をとっていますか。(当てはまるものすべてに○) n=3,361

1. 夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする (34.9)
2. 外出時に玄関や窓に鍵をかける (93.9)
3. 夜間に門灯・玄関灯をつける (35.3)
4. 街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する (18.3)
5. センサーライトの設置 (28.1)
6. 留守にするときには隣近所に声をかける (8.6)
7. 自転車の防犯登録 (31.3)
8. 警備会社のホームセキュリティサービスの利用 (4.9)
9. 地域パトロール活動への参加 (6.5)
10. 市が発信している防犯情報「ケータイ SOS ネット」に登録している (4.7)

11. 家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険（任意）に加入している (15.9)
12. 防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している (4.5)
13. その他 () (1.4)
14. 特になにもしていない (1.5)

問8. 犯罪を抑止するための対策として、どの様な活動が重要だと思えますか。(当てはまるものすべてに○) n=3, 220

1. 自身の防犯対策 (78.2)
2. 住民によるパトロールや自主的な防犯活動 (25.5)
3. 自治体によるパトロールや広報啓発活動 (37.1)
4. 街頭や施設などの公共の場における防犯カメラの設置に対する補助 (59.2)
5. 市民と行政との協働による犯罪抑止への取組 (30.6)
6. 警察の防犯活動の充実 (59.5)
7. 企業や事業者による地域の防犯活動への取組 (16.4)
8. 学校における防犯指導 (34.5)

問9. 市内の自治会などで、青色回転灯を搭載した車両による巡回をしていますが、見たことがありますか。(1つに○) n=3, 348

1. ある (59.0) 2. ない (41.0)

問10. 自治会などの青色回転灯を搭載した車両が巡回していると安心しますか。(1つに○) n=3, 311

1. 安心する (55.7) 2. どちらでもない (38.6) 3. 安心しない (5.7)

自殺予防についてお聞きします

問11. 自殺対策で、ゲートキーパーという言葉聞いたことがありますか。(1つに○)

n=3, 369

1. 聞いたことがある (15.8) 2. 聞いたことがない (84.2)

問12. ゲートキーパー養成講座を受講したことがありますか。(1つに○)

n=3, 314

1. 受講したことがある (1.4) 2. 受講したことがない (98.6)

自転車の利用についてお聞きします

問13. あなたは自転車を利用していますか。(どちらかに○)

n=3, 354

1. 利用している ⇒問14へ (33.4)
2. 利用していない ⇒問21へ (66.6)

問14. 主にどのようなときに自転車を利用していますか。(1つに○)

n=1, 089

1. 通勤・通学 (33.6) 2. 買い物・飲食 (47.9) 3. 余暇活動 (12.0)
4. 子どもの送り迎え (0.6) 5. 業務(仕事) (2.6)
6. その他 () (3.3)

問 15. 自転車利用時のルールについて知っていますか。(知っているものすべてに○) n=1, 107

1. 自転車はバイクと同じ車の仲間である (81.5)
2. 自転車は車道が原則で、左側を通行する (92.2)
3. 自転車の歩道通行は例外で、歩行者を優先する (87.1)
4. 交差点では信号と一時停止を守り安全確認をする (90.2)
5. 夜間はライトを点灯する (97.4)
6. 飲酒運転は禁止 (93.8)
7. 自転車を利用するときはヘルメットを被る (76.7)
8. 自転車を運転しながら傘を差してはいけない (91.0)
9. 自転車を運転しながらスマホを操作してはいけない (94.5)
10. 歩道でベルを鳴らしながら走行してはいけない (72.4)
11. 神奈川県では自転車賠償責任保険への加入を義務付けている (52.7)

問 16. 普段、自転車を利用しているときに、どのようなことで不安や危険を感じますか。

(最も当てはまるもの3つまで○)

n=1, 086

1. 車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと (57.5)
2. 歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること (55.7)
3. 信号のない交差点や、カーブなどによる見通しの悪い道路 (35.5)
4. 街灯がなく、暗い道で走行すること (19.7)
5. 道幅いっぱいになって歩く歩行者 (30.8)
6. 自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性 (20.9)
7. 他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ (15.0)
8. 路上の放置自転車や看板などの障害物 (2.4)
9. 信号や一時停止の無視など交通ルールが守られていない (12.9)
10. 乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下 (16.9)
11. 自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害 (6.9)
12. その他 () (2.9)
13. 特に感じない (1.3)

問 17. 自転車を利用していて、過去5年間に、転倒や接触、衝突などによる、けがや事故の経験がありますか。(どちらかに○) n=1, 093

1. ある ⇒ 問 18 へ (16.0)
2. ない ⇒ 問 19 へ (84.0)

問 18. 過去5年間に、自転車を利用しておきた最も大きなけがや事故についてお聞きします。

18-1. けがや事故がおきた時間帯はいつですか。(1つに○)

n=168

1. 早朝 (5:00頃~7:00頃) (4.8)
2. 朝の通勤・通学時間帯 (25.6)
3. 昼間 (通勤・通学時間以外) (40.5)
4. 夕方の帰宅時間帯 (20.2)
5. 夜間 (19:00頃~22:00頃) (6.0)
6. 深夜 (22:00頃~5:00頃) (3.0)

18-2. 医療機関で手当を受けましたか。(1つに○)

n=166

1. 医療機関には行ってない (65.1)
2. 通院により手当を受けた (30.1)
3. 入院して手当を受けた (4.8)

- 18-3. けがや事故の状況は。(1つに○) n=172
1. 自分だけ転倒した (70.3)
 2. 歩行者と接触・衝突した (1.7)
 3. 自転車同士で接触・衝突した (9.9)
 4. 自動車やバイクと接触・衝突した (15.7)
 5. その他 () (2.3)

- 18-4. けがや事故がおこった原因は。(当てはまるものすべてに○) n=172
1. 道路が狭かった (19.8)
 2. 通行量が多かった (3.5)
 3. 道路に段差があった (36.6)
 4. 歩道と車道の区분이なかった (4.1)
 5. 信号や標識、カーブミラーがなく見通しが悪かった (5.2)
 6. 街灯がなく、道路が暗かった (8.1)
 7. 歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた (3.5)
 8. 自分あるいは相手がスマホを操作していた (3.5)
 9. 子どもを乗せていてバランスを崩した (-)
 10. 出会いがしらでの衝突 (8.1)
 11. スピードを出し過ぎていた (12.2)
 12. 信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった (2.3)
 13. 横断歩道のない場所で車道を横断した (1.2)
 14. 路上に放置自転車や看板などの障害物があった (1.2)
 15. 相手に過失があり、原因はわからない (4.7)
 16. その他 () (29.7)

- 18-5. けがをした体の箇所は。(当てはまるものすべてに○) n=169
1. 頭部 (5.3)
 2. 顔部 (10.7)
 3. 頸部 (1.8)
 4. 胸部 (7.7)
 5. 背部 (1.2)
 6. 腰部 (8.3)
 7. 腹部 (2.4)
 8. 腕部 (32.5)
 9. 脚部 (55.0)
 10. けがをしていない (17.8)

問 19. あなたが自転車利用の不安や危険を減少させるために日頃していることはありますか。(当てはまるものすべてに○) n=1,084

1. 不安や危険を感じる箇所はなるべく走行しないようにしている (60.2)
2. 交通ルール、マナーを守る (84.1)
3. 路上駐輪はしない (49.6)
4. 自分がヘルメットを着用する (22.0)
5. 子どもにヘルメットを着用させる (13.8)
6. 自転車を離れるときは鍵をかける (87.5)
7. 自転車の防犯登録 (71.1)
8. 損害賠償保険(任意)に加入している (49.5)
9. その他 () (2.5)
10. 特になにもしていない (1.1)

- 問 20. 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことはどのようなことでしょうか。
 (当てはまるものすべてに○) n=1, 042
1. 事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、対策を講じる (61.7)
 2. 交通ルール、マナーの向上の周知・啓発、運転技術を高める
 講習・研修を実施する (51.1)
 3. 事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる (47.9)
 4. 違反者への罰則を強化する (35.4)
 5. ヘルメットの着用や鍵かけなどの予防対策を充実する (39.9)
 6. その他 () (4.5)

災害についてお聞きします

- 問 21. あなたは、どのような自然災害に不安を感じていますか。(当てはまるものすべてに○) n=3, 360
1. 地震(95.1) 2. 大雨・暴風(台風)(75.1) 3. 洪水(河川の氾濫)・浸水・冠水(40.1)
 4. 土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)(23.6) 5. 噴火(18.2)
 6. 雪害(9.3) 7. その他() (1.3)

- 問 22. あなたが、災害時の対策や備えとして、重要だと思うものは何ですか。(当てはまるものすべてに○) n=3, 336
1. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意 (89.3)
 2. ハザードマップ等を用いた災害リスクの確認 (56.4)
 3. 避難所や避難経路の確認 (64.8)
 4. マイ・タイムライン(被災時に行う自分のための計画表)の作成 (9.1)
 5. 職場や家族との連絡方法の確認 (60.1)
 6. 地域の防災訓練への参加 (27.2)
 7. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い (15.3)
 8. 建物の耐震化・壁の補強など (40.5)
 9. 家具などの転倒防止対策 (61.0)
 10. 防災情報の収集(アプリ、ポータルサイト等の活用) (30.3)
 11. その他() (1.2)

- 問 23. あなたは、どのような災害対策を実践していますか。(当てはまるものすべてに○) n=3, 333
1. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意 (66.9)
 2. ハザードマップ等を用いた災害リスクの確認 (38.0)
 3. 避難所や避難経路の確認 (45.2)
 4. マイ・タイムライン(被災時に行う自分のための計画表)の作成 (2.0)
 5. 職場や家族との連絡方法の確認 (38.9)
 6. 地域の防災訓練への参加 (19.3)
 7. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い (4.7)
 8. 建物の耐震化・壁の補強など (15.8)
 9. 家具などの転倒防止対策 (43.1)
 10. 防災情報の収集(アプリ、ポータルサイト等の活用) (16.3)
 11. その他() (0.7)
 12. 特になにもしていない (11.1)

- 問 24. あなたは、どれくらいの量の備蓄（飲料水・食料）を行っていますか。（1つに○） n=3,332
- | | | | |
|----------------------|---------------|----------------|--------------|
| 1. 1日分 (6.7) | 2. 2日分 (18.6) | 3. 3日分 (36.9) | 4. 4日分 (3.7) |
| 5. 5日分 (6.3) | 6. 6日分 (2.6) | 7. 7日分以上 (8.3) | |
| 8. 特になにもしていない (17.0) | | | |

- 問 25. 厚木市が発信している災害情報の伝達手段として知っているものを選んでください。
（当てはまるものすべてに○） n=3,341
- | | |
|----------------------|--------|
| 1. 防災行政無線 | (65.2) |
| 2. 厚木市ホームページ | (46.9) |
| 3. 登録制メールマガジン | (7.9) |
| 4. 緊急速報メール（エリアメール） | (34.1) |
| 5. tvk(テレビ神奈川)データ放送 | (13.8) |
| 6. ラジオ（FMヨコハマ、FMカオン） | (17.9) |
| 7. 防災ラジオ | (14.0) |
| 8. テレホンサービス | (1.7) |
| 9. 厚木市公式LINE | (12.3) |
| 10. 知っているものはない | (11.6) |

あなたの基本的なことについてお聞きします

- 問 26. 性別（1つに○） n=3,322
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 男性 (44.8) | 2. 女性 (53.6) | 3. その他 (0.1) | 4. 答えたくない (1.5) |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|

- 問 27. 年齢（令和5年8月1日現在で、1つに○） n=3,414
- | | | | |
|-------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 15～19歳 (4.0) | 2. 20～24歳 (3.0) | 3. 25～29歳 (3.4) | 4. 30～34歳 (3.5) |
| 5. 35～39歳 (5.0) | 6. 40～44歳 (5.3) | 7. 45～49歳 (7.4) | 8. 50～54歳 (9.2) |
| 9. 55～59歳 (8.1) | 10. 60～64歳 (7.3) | 11. 65～69歳 (9.0) | 12. 70～74歳 (12.4) |
| 13. 75～79歳 (10.6) | 14. 80～84歳 (7.7) | 15. 85～89歳 (3.1) | 16. 90歳以上 (1.0) |

安全・健康・コミュニティに関する調査 報告書

令和6年1月

□発行／厚木市協働安全部セーフコミュニティくらし安全課
〒243-8511 厚木市中町3丁目17番17号
電話 (046) 225-2865 (直通)

□実施／株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 (03) 3239-0071 (代表)